

静岡県 富士市

# 富士市内遺跡発掘調査報告書

—令和3年度—

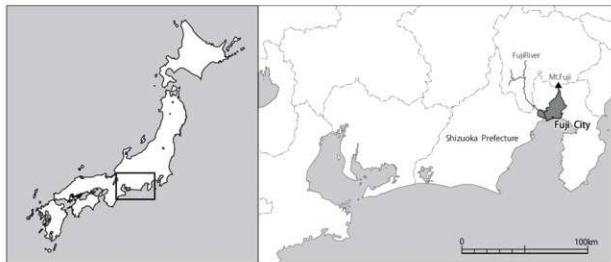
2023年3月

富士市教育委員会



# 例 言

- 1 本書は、富士市教育委員会が令和3年度に静岡県富士市内において実施した埋蔵文化財発掘調査および文化財指定(考古資料)、活用事業等の報告書である。
- 2 発掘調査は、富士市教育委員会教育長を主体者として実施し、実務は市民部文化振興課職員がこれにあたった。調査の一部は『国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を得て実施した。調査体制、担当者は第1章第1節に譲る。
- 3 本書の編集は、佐藤祐樹(富士市教育委員会文化財課主査)・若林美希(同文化財調査員)による。執筆は第1章第1節、第4章、第5章を佐藤が、第1章第2節、第2章、第3章を若林が担当した。第6章は令和3年度 沼津市・富士市連携 埋蔵文化財活用 特別展示・講演会『愛鷹山に眠る開拓者たち 東海最大級の古墳群と地域の再生』の開催に伴い、動画配信という形で講演会と共に起こったトークイベントの内容を文字に起こしたものである。バネラーにより若干の修正、語句の統一などを図っている。バネラーは以下のとおりである。(所属は現在)  
滝沢 誠(筑波大学)、菊池 吉修(静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課)、木村 聡(沼津市教育委員会文化振興課)、佐藤 祐樹、藤村 翔(富士市教育委員会文化財課)
- 4 現地調査における記録写真撮影は佐藤、藤村による。整理作業における遺物写真は佐藤、X線写真を大森信宏(静岡県埋蔵文化財センター)が撮影した。
- 5 本書の作成にあたり、多くの皆様からの御指導、御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。(五十音順、敬称略)  
池谷初恵 大森信宏 菊池吉修 木村 聡 小崎 晋 小林 淳 嶋野岳人 滝沢 誠 鶴田晴徳 堀内秀樹  
前嶋秀張 若狭 徹
- 6 本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会(富士市埋蔵文化財調査室)で保管している。今後、富士山かぐや姫ミュージアム(富士市立博物館)に移管する予定でいる。



静岡県富士市の位置

# 凡 例

1 本書で示す座標は、平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、世界測地系（平成14年4月施行）を使用している。調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。

2 挿図の縮尺は、各国に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。

3 土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。

縄文土器・弥生土器・土師器  須恵器  灰釉陶器・陶器 

4 土層・遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修）に準拠した。

5 遺構・遺物ともに、法量の（ ）は残存値、[ ]は推定値である。また、土器の残存率は図示中での残存率を示した。

6 遺構の略記号は以下の通りである。

SB：堅穴建物 SD：溝状遺構 SK：土坑 Pit：小穴 SX：不明遺構

7 遺構図は、以下の基準に則り記載した。

《平面図》		《断面図》	
《溝》	線幅 線色	《線》	線幅 線色
遺構上端 0.2 m K100%		地表面 0.15 m K100%	《土器》
遺構中端 0.15 m K100%		遺構外形線 0.2 m K100%	外形線 0.1 m
遺構下端 0.1 m K100%		分層線 0.1 m K100%	塗り なし
孤立柱礎実線 0.1 m K100%		カタラン 0.1 m K100%	
(すべて、断面部分に線幅 1 m・1 m)		(線幅 2 m・0.5 m・0.5 m・0.5 m)	
調査区 0.15 m K30%		層別付土面 0.1 m K100%	《石》
切りあう遺構 0.1 m K30%		(線幅 1 m・0.5 m)	外形線 0.1 m
カタラン 0.1 m K30%			塗り線 0.1 m
(線幅 2 m・0.5 m・0.5 m・0.5 m)			(線幅 0.5 m 塗り 1 m 傾斜 45°)
引出し線 0.05 m K100%			
《トーン》	硬化面 K5% 粘土 K40% 焼土・炭化物 K20%	《トーン》	壱方埴土 K10% 地山 K30% 焼土・炭化物 K20% 粘土 K40%

8 出土遺物の評価については、主として次の文献に基づいて検討した。

佐藤祐樹 2021「東駿河における古墳時代の土器様相」『地域と考古学』Ⅱ 向坂鋼二先生米寿記念論集

永井久美男 2002『新版 中世出土銭の分類図版』高志書院

藤村 翔 2021「駿河国富士郡域における土師器の変遷」『地域と考古学』Ⅱ 向坂鋼二先生米寿記念論集

# 目 次

例 言

凡 例

目 次

第1章	令和3年度の調査	
第1節	調査体制と調査概要	1
第2節	確認調査・試掘調査の報告	5
第2章	児森遺跡の調査	
第1節	児森遺跡の概要	51
第2節	児森遺跡第3地区の調査成果	54
第3章	大道上遺跡の調査	
第1節	大道上遺跡の概要	59
第2節	大道上遺跡第1地区の調査成果	60
第4章	国指定史跡 浅間古墳レーザー測量報告	
第1節	浅間古墳をめぐるこれまでの調査・研究概要	71
第2節	UAVレーザー測量調査の経緯と調査成果	75
第5章	中原第4号墳出土遺物の 静岡県指定有形文化財への指定について	79
第6章	愛鷹山に眠る開拓者たち 東海最大級の古墳群と地域の再生	
	トークイベント	93
	講演会資料集	103

写真図版

報告書抄録



## 挿 図 目 次

### 第 1 章 令和 3 年度の調査

#### 第 1 節 調査体制と調査概要

第 1 図 令和 3 年度 調査地の位置と地形区分図	2
第 2 節 確認調査・試掘調査の報告	
第 3 図 中京原宿遺跡第 13 地区 位置図	5
第 3 図 中京原宿遺跡第 13 地区 トレンチ配置図、セクション図	5
第 4 図 中京原宿遺跡第 13 地区 出土遺物実測図	6
第 5 図 神谷古墳群第 12 地区 位置図	6
第 6 図 神谷古墳群第 12 地区 トレンチ配置図	6
第 7 図 神谷古墳群第 12 地区 トレンチ平面図、セクション図	7
第 8 図 東平遺跡第 89 地区 位置図	8
第 9 図 東平遺跡第 89 地区 トレンチ配置図	8
第 10 図 東平遺跡第 89 地区 トレンチ平面図、セクション図	9
第 11 図 滝川 4 古墳群第 4 地区 位置図	9
第 12 図 滝川 4 古墳群第 4 地区 トレンチ配置図、セクション図	9
第 13 図 川坂遺跡第 9 地区 位置図	10
第 14 図 川坂遺跡第 9 地区 トレンチ配置図	10
第 15 図 川坂遺跡第 9 地区 トレンチ平面図	11
第 16 図 川坂遺跡第 9 地区 セクション図	12
第 17 図 川坂遺跡第 9 地区 出土遺物実測図	13
第 18 図 柏原遺跡第 17 地区 位置図	13
第 19 図 柏原遺跡第 17 地区 トレンチ配置図・セクション	13
第 20 図 柏原遺跡第 17 地区 トレンチ配置図・セクション	14
第 21 図 出入口遺跡 IX 地区 位置図	14
第 22 図 出入口遺跡 IX 地区 トレンチ配置図・セクション図	14
第 23 図 東平遺跡第 139 地区 位置図	15
第 24 図 東平遺跡第 139 地区 出土遺物実測図	15
第 25 図 東平遺跡第 139 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	15
第 26 図 宮添遺跡 N 地区 位置図	16
第 27 図 宮添遺跡 N 地区 出土遺物実測図	16
第 28 図 宮添遺跡 N 地区 トレンチ配置図、セクション図	16
第 29 図 宮添遺跡 O 地区 位置図	17
第 30 図 宮添遺跡 O 地区 出土遺物実測図	17
第 31 図 宮添遺跡 O 地区 トレンチ配置図、セクション図	17
第 32 図 東平遺跡第 140 地区 位置図	18
第 33 図 東平遺跡第 140 地区 トレンチ配置図、セクション図	18
第 34 図 片倉 3 古墳群第 3 地区 位置図	19
第 35 図 片倉 3 古墳群第 3 地区 トレンチ配置図、セクション図	19
第 36 図 天間沢遺跡第 66 地区 位置図	20
第 37 図 天間沢遺跡第 66 地区 トレンチ配置図、セクション図	20
第 38 図 伝法 3 古墳群第 2 地区 位置図	21
第 39 図 伝法 3 古墳群第 2 地区 トレンチ配置図、セクション図	21
第 40 図 東平遺跡第 141 地区 位置図	21
第 41 図 東平遺跡第 141 地区 トレンチ配置図、セクション図	22
第 42 図 舟久保遺跡第 74 地区 位置図	22
第 43 図 舟久保遺跡第 74 地区 トレンチ配置図、セクション図	22
第 44 図 宮添遺跡 P 地区 位置図	23
第 45 図 宮添遺跡 P 地区 トレンチ配置図、セクション図	23
第 46 図 舟久保遺跡第 59 地区 位置図	24
第 47 図 舟久保遺跡第 59 地区 トレンチ配置図	24
第 48 図 舟久保遺跡第 59 地区 出土遺物実測図	25

#### 第 49 図 舟久保遺跡第 59 地区 3 次調査

トレンチ平面図、セクション図	25
第 50 図 舟久保遺跡第 59 地区 4 次調査 トレンチ平面図、セクション図	26
第 51 図 北ヶ赤遺跡第 1 地区 位置図	27
第 52 図 北ヶ赤遺跡第 1 地区 トレンチ配置図、セクション図	27
第 53 図 中島遺跡第 16 地区 位置図	28
第 54 図 中島遺跡第 16 地区 トレンチ配置図、セクション図	28
第 55 図 赤宜ノ前遺跡第 7 地区 位置図	28
第 56 図 赤宜ノ前遺跡第 7 地区 トレンチ配置図、セクション図	29
第 57 図 厚原遺跡第 10 地区 位置図	29
第 58 図 厚原遺跡第 10 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	29
第 59 図 東平遺跡第 142 地区 位置図	30
第 60 図 東平遺跡第 142 地区 トレンチ配置図、セクション図	30
第 61 図 善寿寺城跡・東泉院跡第 7 地区 位置図	30
第 62 図 善寿寺城跡・東泉院跡第 7 地区 トレンチ配置図、セクション図	31
第 63 図 中軒・中ノ坪遺跡第 19 地区 位置図	31
第 64 図 中軒・中ノ坪遺跡第 19 地区 トレンチ配置図、セクション図	31
第 65 図 寺下遺跡第 6 地区 位置図	32
第 66 図 寺下遺跡第 6 地区 トレンチ配置図、セクション図	32
第 67 図 川坂遺跡第 10 地区 位置図	33
第 68 図 川坂遺跡第 10 地区 トレンチ配置図、セクション図	33
第 69 図 天間沢遺跡第 65 地区 位置図	33
第 70 図 天間沢遺跡第 65 地区 トレンチ配置図、セクション図	33
第 71 図 天間沢遺跡第 67 地区 位置図	34
第 72 図 天間沢遺跡第 67 地区 トレンチ配置図、セクション図	34
第 73 図 東平遺跡第 143 地区 位置図	34
第 74 図 東平遺跡第 143 地区 トレンチ配置図、セクション図	34
第 75 図 東平遺跡第 144 地区 位置図	35
第 76 図 東平遺跡第 144 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	35
第 77 図 神田遺跡第 164 次調査地点 位置図	36
第 78 図 神田遺跡第 164 次調査地点 出土遺物実測図	36
第 79 図 神田遺跡第 164 次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	36
第 80 図 中原遺跡第 31 地区 位置図	37
第 81 図 中原遺跡第 31 地区 トレンチ配置図	37
第 82 図 中原遺跡第 31 地区 セクション図	38
第 83 図 神田遺跡第 165 次調査地点 位置図	38
第 84 図 神田遺跡第 165 次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	38
第 85 図 天間沢遺跡第 68 地区 位置図	39
第 86 図 天間沢遺跡第 68 地区 トレンチ配置図	39
第 87 図 天間沢遺跡第 68 地区 セクション図	40
第 88 図 元古原宿遺跡第 7 地区 位置図	40
第 89 図 元古原宿遺跡第 7 地区 トレンチ配置図	40
第 90 図 元古原宿遺跡第 7 地区 トレンチ平面図、セクション図	41
第 91 図 元古原宿遺跡第 7 地区 出土遺物実測図	42
第 92 図 川坂遺跡第 11 地区 位置図	42
第 93 図 川坂遺跡第 11 地区 トレンチ配置図、セクション図	43
第 94 図 神田遺跡第 166 次調査地点 位置図	43

第95図	神田遺跡第166次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	44
第96図	宇東川遺跡第32地区 位置図	44
第97図	宇東川遺跡第32地区 トレンチ配置図、セクション図	44
第98図	神田遺跡第167次調査地点 位置図	45
第99図	神田遺跡第167次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	45
第100図	善得寺院寺跡第8地区 位置図	45
第101図	善得寺院寺跡第8地区 トレンチ配置図、セクション図	46
第102図	東平遺跡第145地区 位置図	46
第103図	東平遺跡第145地区 トレンチ配置図、セクション図	46
第104図	川尻遺跡第12地区 位置図	47
第105図	川尻遺跡第12地区 トレンチ配置図、セクション図	47
第106図	天間沢遺跡第69地区 位置図	48
第107図	天間沢遺跡第69地区 トレンチ配置図、セクション図	48
第108図	東平遺跡第146地区 位置図	48
第109図	東平遺跡第146地区 トレンチ配置図	49
第110図	東平遺跡第146地区 トレンチ平面図、セクション図	49
第111図	滝下遺跡O地区 位置図	49
第112図	滝下遺跡O地区 トレンチ配置図、セクション図	50
第113図	東平遺跡第147地区 位置図	50
第114図	東平遺跡第147地区 トレンチ配置図、セクション図	50

## 第2章 見森遺跡の調査

### 第1節 見森遺跡の概要

第115図	見森遺跡の位置	52
第116図	周辺遺跡分布図	52
第117図	見森遺跡 調査履歴図	53

### 第2節 見森遺跡第3地区の調査成果

第118図	見森遺跡第3地区 位置図	54
第119図	見森遺跡第3地区 トレンチおよび本調査区配置図	54
第120図	見森遺跡第3地区 確認調査1トレンチ 平面図、セクション図	55
第121図	見森遺跡第3地区 出土遺物実測図	56
第122図	見森遺跡第3地区 本調査区 全体図、セクション図	57
第123図	見森遺跡第3地区 SK2001 平面図、セクション図	58
第124図	見森遺跡第3地区 Pt2001～2003 平面図、セクション図	58

## 第3章 大道上遺跡の調査

### 第1節 大道上遺跡の概要

第125図	大道上遺跡の位置	59
-------	----------	----

### 第2節 大道上遺跡第1地区の調査成果

第126図	大道上遺跡第1地区 位置図	60
第127図	大道上遺跡第1地区 トレンチおよび本調査区配置図	60
第128図	大道上遺跡第1地区 確認調査1トレンチ 平面図、セクション図	61
第129図	大道上遺跡第1地区 本調査区全体図	62
第130図	大道上遺跡第1地区 本調査区セクション図	63
第131図	大道上遺跡第1地区 SK2001 平面図、セクション図	64
第132図	大道上遺跡第1地区 SK2002 平面図、セクション図	65
第133図	大道上遺跡第1地区 SD2001 平面図、セクション図	66
第134図	大道上遺跡第1地区 ビット 平面図、セクション図	67
第135図	大道上遺跡第1地区 SX2001 平面図、セクション図	68
第136図	大道上遺跡第1地区 SX2002 平面図、セクション図	68
第137図	大道上遺跡第1地区 出土遺物実測図	69

## 第4章 国指定史跡 浅間古墳レーザー測量報告

### 第1節 浅間古墳をめぐるこれまでの調査・研究概要

第138図	浅間古墳 指定告示	71
第139図	浅間古墳 管理団体告示	71
第140図	浅間古墳 指定範囲	72
第141図	敷石を中心とした太平洋沿岸の前期古墳	72
第142図	愛鷹山南麓の古墳・集落	73
第143図	浅間古墳の位置	74
第2節	UAV レーザー測量調査の経緯と調査成果	75
第144図	UAV 計測 作業風景	75
第145図	浅間古墳 数値地形図	76
第146図	浅間古墳 測量図・墳丘エレベーション図	77

## 第5章 中原第4号墳出土遺物の

### 静岡県指定有形文化財への指定について

第147図	指定書(表裏)	79
第148図	指定書(裏面)	80

## 第6章 愛鷹山に眠る開拓者たち

### 東海最大級の古墳群と地域の再生

第149図	トークイベントの様子	93
第150図	トークイベントの様子(木村氏)	94
第151図	トークイベントの様子(佐藤氏)	95
第152図	トークイベントの様子(滝沢氏)	96
第153図	トークイベントの様子(藤村氏)	97
第154図	トークイベントの様子(菊池氏)	98



## 挿表目次

### 第1章 令和3年度の調査

#### 第1節 調査体制と調査概要

第1表 文化財保護法に基づく各届出の件数一覧表	1
-------------------------	---

第2表 令和3年度 発掘調査一覧表	3
-------------------	---

#### 第2節 確認調査・試掘調査の報告

第3表 中古原遺跡第13地区 出土遺物観察表	6
------------------------	---

第4表 川坂遺跡第9地区 出土遺物観察表	13
----------------------	----

第5表 東平遺跡第139地区 出土遺物観察表	15
------------------------	----

第6表 宮添遺跡N地区 出土遺物観察表	16
---------------------	----

第7表 宮添遺跡O地区 出土遺物観察表	17
---------------------	----

第8表 舟久保遺跡第59地区 出土遺物観察表	25
------------------------	----

第9表 沖田遺跡第164次調査地点 出土遺物観察表	36
---------------------------	----

第10表 元古原遺跡第7地区 出土遺物観察表	42
------------------------	----

### 第2章 児森遺跡の調査

#### 第1節 児森遺跡の概要

第11表 児森遺跡 調査履歴一覧表	53
-------------------	----

#### 第2節 児森遺跡第3地区の調査成果

第12表 児森遺跡第3地区 出土遺物観察表	56
-----------------------	----

第13表 児森遺跡第3地区 ビット一覧表	56
----------------------	----

### 第3章 大沼上遺跡の調査

#### 第2節 大沼上遺跡第1地区の調査成果

第14表 大沼上遺跡第1地区 ビット一覧表	66
-----------------------	----

第15表 大沼上遺跡第1地区 出土遺物観察表	70
------------------------	----

### 第5章 中原第4号墳出土遺物の

#### 静岡県指定有形文化財への指定について

第16表 県指定文化財指定書（指定通知書）交付台帳	81
---------------------------	----

第17表 県指定文化財 報告遺物リスト	82
---------------------	----

第18表 県指定文化財 未報告遺物リスト	91
----------------------	----

## 写真図版目次

### PL-1 第1章 第2節

1. 中吉原宿道跡 第13地区1次調査
2. 神谷古墳群 第12地区1次調査

### PL-2 第1章 第2節

3. 東平道跡 第89地区2次調査
4. 滝川4古墳群 第4地区1次調査
6. 柏原道跡 第17地区1次調査
7. 出口道跡 IX地区2次調査

### PL-3 第1章 第2節

5. 川坂道跡 第9地区1次調査・2次調査

### PL-4 第1章 第2節

8. 東平道跡 第139地区1次調査
9. 宮浜道跡 N地区1次調査

### PL-5 第1章 第2節

10. 宮浜道跡 O地区1次調査
11. 三日月庵寺跡 (東平道跡第140地区1次調査)
12. 片倉3古墳群 第3地区1次調査

### PL-6 第1章 第2節

13. 天間沢道跡 第66地区1次調査
14. 仏法3古墳群 第2地区1次調査
15. 東平道跡 第141地区1次調査
16. 舟久保道跡 第74地区1次調査

### PL-7 第1章 第2節

17. 宮浜道跡 P地区1次調査
18. 舟久保道跡 第59地区3次調査・4次調査

### PL-8 第1章 第2節

19. 北ノ浜道跡 第1地区1次調査
20. 中島道跡 第16地区1次調査
21. 林宮ノ前道跡 第7地区1次調査
22. 厚原道跡 第10地区1次調査

### PL-9 第1章 第2節

23. 東平道跡 第142地区1次調査
24. 善得寺城跡・東泉院跡 第7地区1次調査
25. 中折・中ノ坪道跡 第19地区1次調査
29. 天間沢道跡 第67地区1次調査

### PL-10 第1章 第2節

30. 東平道跡 第143地区1次調査
31. 東平道跡 第144地区1次調査
32. 沖田道跡 第164次調査地点1次調査
34. 沖田道跡 第165次調査地点1次調査

### PL-11 第1章 第2節

33. 中原道跡 第31地区1次調査・2次調査
36. 元吉原宿道跡 第7地区1次調査

### PL-12 第1章 第2節

36. 元吉原宿道跡 第7地区1次調査

### PL-13 第1章 第2節

35. 天間沢道跡 第68地区1次調査
37. 川坂道跡 第11地区1次調査
38. 沖田道跡 第166次調査地点1次調査
39. 宇東川道跡 第32地区1次調査

### PL-14 第1章 第2節

40. 沖田道跡 第167次調査地点1次調査
41. 善得寺庵寺跡 第8地区1次調査
42. 東平道跡 第145地区1次調査
43. 川坂道跡 第12地区1次調査

### PL-15 第1章 第2節

44. 天間沢道跡 第69地区1次調査
45. 東平道跡 第146地区1次調査
46. 滝下道跡 O地区1次調査
47. 東平道跡 第147地区1次調査

### PL-16～18 第2章

尾森道跡 第3地区

### PL-19～26 第3章

大湫上道跡 第1地区

### PL-27～29 第4章

浅間古墳シーザ一割集

## 第1章 令和3年度の調査

## 第1節 調査体制と調査概要

## 1 調査体制

令和3年度の埋蔵文化財発掘調査は、以下の体制で実施した。

〔調査主体〕富士市教育委員会 教育長 森田 嘉幸  
〔担当機関〕教育委員会業務の補助執行機関

富士市役所市民部 部長 有川 一博

文化振興課 課長 久保田伸彦

文化財担当 統括主幹 植松 良夫

参事 楠 補 石川 武男

主幹 幹井上 卓哉

調査担当者 主査 佐藤 祐樹

主査 藤村 翔

調査員 小島 利史

若林 美希

## 2 調査件数

令和3年度は、文化財保護法（以下、法という。）第99条に基づき、確認調査53件、本発掘調査4件を実施した。確認調査費用と個人住宅建設に伴う本発掘調査費用、国指定史跡浅間古墳空中レーザー計測調査費用の一部には『国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金』（令和3年4月1日付け文財第28号交付決定、令和3年11月1日付け文財第1774号変更交付決定）及び『静岡県文化財保存費補助金』（令和3年5月14日付け文財第355号交付決定）を使用している。

確認調査の事業目的は個人住宅建設が20件と最も多く、次いで宅地造成に伴う調査が10件である。本発掘調査は、個人住宅建設目的が2件で、店舗および宅地造成が1件ずつある。

第1表 文化財保護法に基づく各届出の件数一覧表

			道路	鉄道	空港	河川	港湾	ダム	学校	住宅	工場	店舗	住宅兼	その他建物	宅地造成	土地区画整理	公園造成	ゴルフ場	観光開発	ガス等	農業基盤	農業関係	土砂採取	その他開発	自然崩壊	遺跡地固作製等	保存目的	学術	遺跡整備	計	
																															93条
工事の届等	93条	現状保存								3	1			1																0	
		発掘調査																													5
		工事立会								13	85	5			12	7						101				3					226
		慎重工事									2																				2
		注意																													0
		未指示																													0
	計			0	0	0	0	0	0	0	3	90	0	6	0	12	8	0	0	0	101	0	0	0	3	0	0	0	0	233	
	94条	現状保存																													0
		発掘調査																													0
		工事立会	5			1										9			1			12				1				29	
		慎重工事																												0	
		注意																												0	
未指示																													0		
計			5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	1	0	0	12	0	0	0	1	0	0	0	0	29		
合計			5	0	0	1	0	0	0	13	90	0	6	0	21	8	0	1	0	113	0	0	0	4	0	0	0	0	262		
発掘届等	92条	確認調査																												0	
		本発掘調査																													0
	計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	99条	確認調査									20	1	1		4	10					1	2		14						53	
		本発掘調査									2	1			1															4	
	計			0	0	0	0	0	0	0	22	1	2	0	4	11	0	0	0	1	0	2	0	14	0	0	0	0	0	57	
合計			0	0	0	0	0	0	0	22	1	2	0	4	11	0	0	0	1	0	2	0	14	0	0	0	0	0	57		

### 3 届出・通知の周知徹底と件数

法93条に基づく届出は令和2年の214件から微増の233件を数える。平成30年度が252件と特別多かったことを除けば、例年通りとも言える。内訳はガス・電気などの公共インフラに伴うものが101件と最も多く、次いで個人住宅建設に伴うものが90件を数える。

法94条に基づく公共工事については、下水道設置に伴う通知12件を含む29件の通知がなされ、件数は例年通りといえる。

### 4 発掘調査の概要

**古墳時代** 令和2年度に引き続いて、国指定史跡浅間古墳の空中レーザー計測調査を実施した。令和2年度は墳丘部分を中心に300m×150mの範囲で実施したが、令和3年度はさらに南側の300m×300mにおいて周辺地形の詳細な測量図を作成した。これにより、浅間古墳が築造された尾根全体の地形が明確になり、浅間古墳が幅の狭い丘陵先端ではなく、やや奥まった丘陵部分において、90mを超える墳丘規模の築造が行える平坦面を確保する占地がなされていることが確かめられた。今後の史跡整備を行う際の基礎的な資料を得ることができたと評価できる(第4章)。

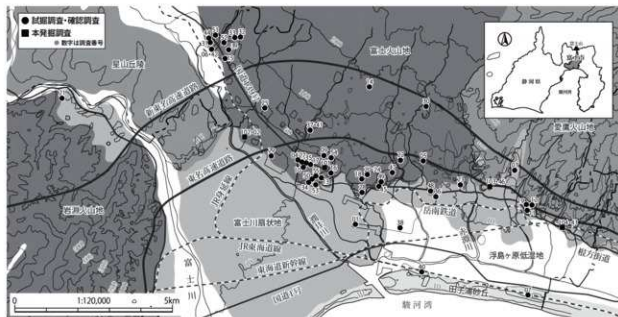
また、見森遺跡の確認調査では、古墳時代前期の完形に近い高坪が出土した(第2章)。

沼津市との境に近い大道上遺跡の本調査では、愛鷹山丘陵下の低地部において古墳時代中期後半から後期初頭と考えられる井戸を2基検出した(第3章)。覆土内には「大濶スコリア」と観察されるスコリアが多量に確認されたが、その降下年代や位置づけについては、現在サンプルの分析を進めており、結果がまとまり次第報告することとしたい。

**近世** 元古原宿遺跡第7地区における確認調査において、17世紀前半の遺物が発見された。調査では跡鉄も出土しており、宿場経営時の様相を示す貴重な成果といえる。

**活用** 令和3年12月24日、富士市指定有形文化財である、「中原第4号墳出土遺物一括」が、静岡県指定有形文化財に指定された(第5章)。なお、富士市の指定については富士市文化財保護条例に基づき自動的に解除された。

沼津市・富士市連携埋蔵文化財活用事業として、特別展示・講演会「愛鷹山に眠る開拓者たち～東海最大級の古墳群と地域の再生」を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、沼津会場での特別展示は令和4年3月10日から24日までに変更して開催し、講演会についてはオンラインでの配信とした。講演会資料と当日のトークイベントの様子を文字おこししたものを本書に掲載した(第6章)。



第1図 令和3年度 調査地の位置と地形区分図

第2表 令和3年度 発掘調査一覧表

調査番号	内取番号	遺跡名 地区名	調査種別	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積 調査面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	調査 担当者
R01	別送 -101	東平遺跡 第136地区2次調査	本 発掘	20210510 ～20210903	伝法 2329 番1 外 貸店舗建設	1,276.620	奈良・平安	竪立柱建物・型穴建物・溝・土坑・ピット	土器 (奈良時代・平安時代) 金属製品(古墳時代) 石製品(奈良時代)	佐藤
R03	別送 -102	沢東 A 遺跡 第28次調査地点2次調査	本 発掘	20210927 ～20211126	久共 98-1 宅地造成	745.642	奈良・古墳・奈良・平安	古墳・溝・土坑・ピット・石階	土器 (奈良時代～平安時代) 金属製品(古墳時代) 石製品 (奈良時代～平安時代)	藤村・小島・若林
R03	2 章 -103	見森遺跡 第3地区2次調査	本 発掘	20211220 ～20211222	中里 1379 番1 個人住宅建設	44.624	古墳	ピット	土器(古墳時代)	佐藤・小島・若林
R03	3 章 -104	大道上遺跡 第1地区2次調査	本 発掘	20220112 ～20220127	境 303 番地の3 個人住宅建設	62.564	古墳	土坑・ピット	土器 (縄文時代・奈良時代・古墳時代・奈良時代) 陶磁器(平安時代) 石器(縄文時代) 金属製品(平安時代)	佐藤・小島
R03	1 章 -01	中吉原遺跡 第13地区1次調査	確認	20210401 ～20210407	荒田島町 3691-110, 111 移住宅建設	342,000 9,413	近世	なし	陶磁器(近世) 金属製品(近世)	佐藤・若林
R03	別送 -02	沢東 A 遺跡 第28次調査地点1次調査	確認	20210420 ～20210423	久共 98-1 外 不動産売買	4,677,000 225,348	奈良・古墳・奈良・平安・中世	型穴建物・溝・土坑・ピット	土器(奈良時代・古墳時代・平安時代) 陶磁器(中世)	藤村・小島・若林
R03	1 章 -03	神谷古墳群 第12地区1次調査	確認	20210726 ～20210730	神谷 816-1 農地改良	22,200 21,856	なし	なし	なし	藤村・小島
R03	1 章 -04	東平遺跡 第89地区2次調査	確認	20210421	伝法 2619-18 の一部 保育事業所建設	81,560 6,595	奈良	溝状遺構	なし	佐藤・若林
R03	1 章 -05	滝川 4 古墳群 第4地区1次調査	確認	20210428 ～20210430	原田 1405-1 宅地分譲	680,000 9,448	なし	なし	なし	佐藤・若林
R03	2 章 -06	川尻遺跡 第9地区1次調査	試掘	20210511	大野 812-1 ほか 宅地分譲	2,902,000 20,341	奈良・古墳	なし	土器 (奈良時代・古墳時代)	藤村・小島・若林
R03	1 章 -07	柏原遺跡 第17地区1次調査	確認	20210514	中宿野新田 44-1 個人住宅建築	451,000 10,268	なし	なし	なし	藤村・小島
R03	1 章 -09	出口遺跡 DX 地区2次調査	確認	20210520	伝法 1869-7 外 不動産売買	1,334,000 8,364	なし	なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章 -10	東平遺跡 第139地区1次調査	確認	20210615	伝法 2753-4 不動産売買	140,320 11,057	奈良	型穴建物	土器(奈良時代)	藤村・小島
R03	1 章 -11	宮治遺跡 N 地区1次調査	確認	20210607	増川 538-8 外 不動産売買	391,070 3,299	奈良・平安	なし	土器 (奈良時代・平安時代) 陶器(平安時代)	藤村・小島
R03	1 章 -12	宮治遺跡 O 地区1次調査	確認	20210610 ～20210611	増川 740-1 外 瓦葺農地再生事業	753,000 21,569	奈良・古墳	なし	土器(奈良時代・古墳時代・平安時代)	藤村・小島
R03	1 章 -13	三日月寺跡 東平遺跡第140地区1次調査	確認	20210709	浅間上町 2983-5 外 個人住宅建設	22,340 8,155	古墳・奈良・平安	なし	土器(古墳時代・奈良時代・平安時代)	藤村・小島
R03	1 章 -14	片倉 3 古墳群 隣接地【第3地区1次調査】	試掘	20210927 ～20210930	中野 671 総合体育館等整備事業	39,600,000 19,764	なし	なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章 -15	天間沢遺跡 第66地区1次調査	確認	20210820	天間地先 下水道建設	56,280 8,000	なし	なし	陶磁器	佐藤・藤村
R03	2 章 -16	伝法 3 古墳群 第2地区1次調査	確認	20210622 ～20210623	国久保 3 丁目 2285-1 ほか 不動産売買	592,810 6,258	なし	なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章 -17	東平遺跡 第141地区1次調査	確認	20210701	伝法 2527-6 個人住宅建設	333,650 7,380	なし	なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章 -18	倉久保遺跡 第74地区1次調査	確認	20210705 ～20210706	今泉 六丁目 1604 番1 ほか 不動産売買	590,790 4,678	なし	なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章 -19	宮治遺跡 隣接地【E 地区1次調査】	試掘	20210715 ～20210716	増川 740-1 外 宅地分譲	997,770 5,718	なし	なし	なし	藤村・小島
R03	1 章 -20	倉久保遺跡 第59地区3次調査	確認	20210719 ～20210720	今泉 1958-1 ほか 介護施設建設	1,213,000 24,645	古墳・奈良・平安	不明遺構・ピット	土器(古墳時代・奈良時代・平安時代)	藤村・小島・若林
R03	1 章 -21	北ヶ丘遺跡 第1地区1次調査	確認	20210805	北松野 707-12、-15 個人住宅建設	356,510 3,814	なし	なし	なし	藤村・小島
R03	1 章 -22	中島遺跡 第16地区1次調査	確認	20210811	原田 890-2 個人住宅建設	102,670 2,122	縄文	なし	土器(縄文時代)	藤村・小島
R03	1 章 -23	新宮ノ南遺跡 第7地区1次調査	確認	20210824	北新 1563-1 ほか 個人住宅連入路拡幅 及び車庫建設	267,000 10,755	なし	なし	なし	藤村・若林
R03	1 章 -24	倉久保遺跡 第59地区4次調査	確認	20210817 ～20210821	今泉 1958-1 ほか 介護施設建設	1,213,000 19,627	古墳・奈良・平安	土坑	土器(古墳時代・奈良時代・平安時代)	藤村・小島
R03	1 章 -25	厚原遺跡 第10地区1次調査	確認	20210906	厚原 786-1 ほか 宅地分譲	1,733,110 4,402	なし	なし	なし	佐藤・小島

調査番号	採収番号	遺跡名 地区名	調査種類	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積 調査面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	調査担当者
R03	1 章	東平道跡								
-27	2 節 23	第142地区1次調査	確認	20210910 ～ 20210911	伝法 2619-46 不動産売買	228,090 14,720		なし	なし	佐藤・小島
R03	1 章	西得寺道跡・東原段跡								
-28	2 節 24	第7地区1次調査	確認	20210914	今泉七丁目 1315-3 個人住宅建設	329,670 2,557		なし	なし	佐藤・小島
R03	1 章	中街・中ノ坪道跡								
-29	2 節 25	第19地区1次調査	確認	20211006	伝法 1298 個人住宅建設	635,670 7,694		なし	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・若林
R03	1 章	寺下道跡								
-30	2 節 26	第6地区1次調査	確認	20211012	神戸 657-1 宅地分譲	1,963,000 23,481		なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章	川阪道跡								
-31	2 節 27	第10地区1次調査	確認	20211014	天間 846-16 個人住宅建設	166,480 2,946		なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章	天間沢道跡								
-32	2 節 28	第65地区1次調査	確認	20211014	天間 1812-8 店舗建設	297,830 3,144		なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章	天間沢道跡								
-33	2 節 29	第67地区1次調査	確認	20211115	天間 1208-1 個人住宅建設	205,410 6,314		なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章	東平道跡								
-34	2 節 30	第143地区1次調査	確認	20211020	伝法 3091 不動産売買	363,000 3,974		奈良 土器 (奈良時代・平安時代)	なし	佐藤・若林
R03	1 章	東平道跡								
-35	2 節 31	第144地区1次調査	確認	20211025 ～ 20211027	伝法 2556-4 不動産売買	993,990 10,326	奈良・平安・ 中世	土境	なし	佐藤・若林
R03	1 章	神田道跡								
-36	2 節 32	第164調査地点1次調査	確認	20211117 ～ 20211118	比奈 958-1 不動産売買	1,811,000 18,687		なし	土器 (古墳時代・ 奈良時代・平安時代)	佐藤・若林
R03	1 章	中京道跡								
-37	2 節 33	第31地区1次調査	確認	20211110	伝法 462-1ほか 不動産売買	3,273,000 65,178		なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章	神田道跡								
-38	2 節 34	第165調査地点1次調査	確認	20211201	今泉 624-2 自動車修理工事建設	3,042,000 15,939		なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章	天間沢道跡								
-39	2 節 35	第68地区1次調査	確認	20211124 ～ 20211125	天間 1124-1 不動産売買	1,286,140 25,875		なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章	元吉原宿道跡								
-40	2 節 36	第7地区1次調査	確認	20211119	今井一丁目 1-18 個人住宅建設	229,170 11,721	近世	なし	陶磁器 (近世) 金属製品 (近世)	佐藤・若林
R03	1 章	中京道跡								
-41	2 節 33	第31地区2次調査	確認	20211129	伝法 462-1ほか 不動産売買	3,273,000 112,756		なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章	川阪道跡								
-42	2 節 5	第9地区2次調査	確認	20211206	天間 812-1ほか 宅地分譲	2,992,000 75,965	古墳・奈良・ 平安	不明遺構	土器 (縄文時代・古墳時代) 陶磁器 (中世)	藤村・小島
R03	3 章	大道上道跡								
-43	2 節 37	第1地区1次調査	確認	20211201 ～ 20211202	尾 303 番地の3 個人住宅建設	424,770 12,876	古墳	型穴建物跡	土器 (縄文時代・古墳時代)	佐藤・小島
R03	1 章	川阪道跡								
-44	2 節 37	第11地区1次調査	確認	20211220	天間 898-6 宅地造成	999,000 18,227		なし	なし	藤村・小島
R03	1 章	神田道跡								
-45	2 節 38	第166調査地点1次調査	確認	20211214	今泉五丁目 1087-1 個人住宅建設	192,010 3,300		なし	なし	佐藤・小島
R03	2 章	元森道跡								
-46	2 節 39	第3地区1次調査	確認	20211206	中里 1379 番1 宅地造成	496,000 17,067	古墳	ビット	土器 (古墳時代)	佐藤・若林
R03	1 章	宇東川道跡								
-47	2 節 39	第32地区1次調査	確認	20211208	原田 623-13 個人住宅建設	191,170 9,911		なし	土器 (奈良時代)	佐藤・若林
R03	1 章	神田道跡								
-48	2 節 40	第167調査地点1次調査	確認	20211228	比奈 880-2 個人住宅建設	947,100 3,013		なし	なし	佐藤・小島
R03	1 章	西得寺段跡								
-49	2 節 41	第8地区1次調査	確認	20220202	今泉5丁目 1064-1 宅地造成	999,000 14,584		なし	なし	佐藤・若林
R03	1 章	東平道跡								
-50	2 節 42	第145地区1次調査	確認	20220131	伝法 3055-6 個人住宅建設	195,000 9,916		なし	なし	佐藤・小島
R03	1 章	川阪道跡								
-51	2 節 43	第12地区1次調査	確認	20220127	天間 910-4 宅地造成	981,000 37,313		なし	なし	藤村・若林
R03	1 章	天間沢道跡								
-52	2 節 44	第69地区1次調査	確認	20220203	天間 1072-7ほか 土地売買	230,000 8,719		なし	なし	佐藤・小島
R03	1 章	東平道跡								
-53	2 節 45	第146地区1次調査	確認	20220209	伝法 3080-1 個人住宅建設	303,000 21,341	奈良・平安	ビット	土器 (平安時代)	佐藤・小島
R03	1 章	堤下道跡								
-54	2 節 46	O地区1次調査	確認	20220131	伝法 1942-2ほか 建築業個人住宅建設	690,000 9,558		なし	なし	佐藤・小島
R03	1 章	東平道跡								
-55	2 節 47	第147地区1次調査	確認	20220225	伝法 2860-5外 個人住宅建設	179,040 6,752		なし	なし	藤村・小島

## 第2節 確認調査・試掘調査の報告

## 1. 中吉原宿遺跡 第13地区 1次調査

所在地 荒田島町 3691-110、111

調査面積 9,413 m<sup>2</sup> (対象面積 342 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年4月1日～4月7日

調査の原因 建売住宅建設

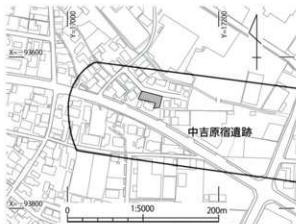
調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ(1～2Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 礫を含む土層(Ⅱ層)から、1670から1680年代のものとして推定される磁器が出土した。礫のあり方から見て、延宝8年(1680)閏8月6日に襲来した台風による高潮の堆積土層と考えられ、当該地が吉原宿の一部であったことが裏付けられた。また、Ⅳ層から銭貨が出土した。

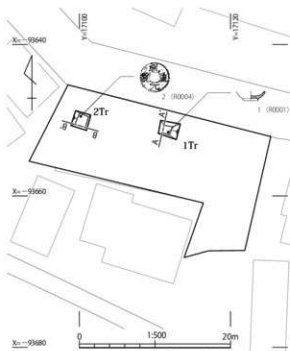
出土遺物 2点図示した(第4図)。

1は1Trから出土した磁器の染付碗である。1670から1680年代に位置づけられる。

2は2TrのⅣ層中から出土した唐銭「乳元重寶」である。758年(乳元元)初鑄の「乳元重寶」当十銭で、裏面の下に月が描かれている。



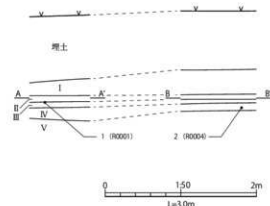
第2図 中吉原宿遺跡第13地区 位置図



第3図 中吉原宿遺跡第13地区 トレンチ配置図、セクション図

1Tr 南北セクション西壁

2Tr 東西セクション南壁



- |               |            |   |
|---------------|------------|---|
| I 茶褐色粘土層      | (7.5YR2/2) | しまりあり、粘性あり。                                 |
| II 暗オリーブ灰色粘土層 | (2.5GY3/1) | しまりあり、粘性あり。<br>径3cmの小石を多く含む。遺物包巻層。<br>高潮堆積層 |
| III 高褐色粘土層    | (2.5Y3/1)  | しまりあり、粘性あり。                                 |
| IV 暗オリーブ灰色砂質層 | (2.5GY3/1) | しまりあり、粘性あり。                                 |
| V 黒褐色粘土層      | (2.5Y3/1)  | しまりあり、粘性あり。                                 |



第4図 中吉原宿遺跡第13地区 出土遺物実測図

第3表 中吉原宿遺跡第13地区 出土遺物観察表

探検番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			状況	保存 率	内面色調	外面色調
							口径	口径	器高				
第4図1	0001	PL.1	1Tr	磁器	碗	1670～1680	-	[4.7]	[3.05]	良好	30%	7.5GY8/1 (明緑灰)	7.5GY8/1 (明緑灰)

探検番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			重量 (g)	備考
							全長	幅	厚さ		
第4図2	0004	PL.1	2Tr	磁貨	寛元車貨	758年	2.45	2.39	0.1	2.26	唐銭、背下月

## 2. 神谷古墳群 第12地区1次調査

所在地 神谷816-1

調査面積 21,856㎡ (対象面積 222㎡)

調査期間 令和3年7月26日～7月30日

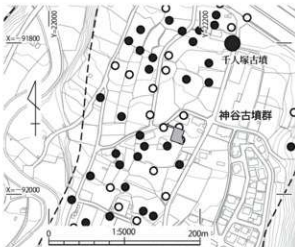
調査の原因 農地改良

調査の概要 当該地にはかつて須津J-15号墳および須津J-172号墳が存在したとされる。『富士市の埋蔵文化財(古墳編)』によれば、前者は既に削平され、後者については「石室は完全に破壊され、巨石が散乱」との記述がある。

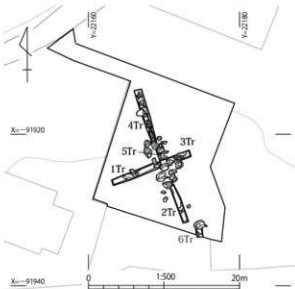
当該地中央部には南北約7m、東西約3mの範囲に大型石材が露出しており、J-172号墳として認定された古墳の可能性が高いことから、この集石に対して6箇所の特レンチ(1～6Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果(第7図) 地表下約0.3～0.5mにおいて基盤層である栗色土層が検出され、その前後の層を中心に精査したものの、遺構・遺物は検出されなかった。須津J-172号墳として認定されていた集石は、栗色土層堆積以前の須津川の氾濫によって流れ込んだものと判断される。

本古墳群内には複数箇所であつた集石が存在することが確認されており、古墳築造のための採石地として、このような集石が利用された可能性が高い。

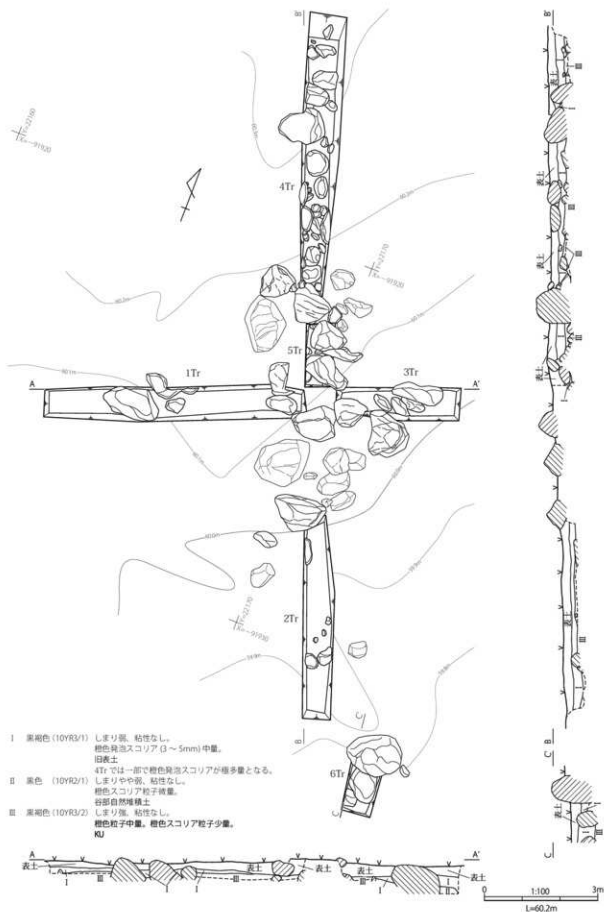


第5図 神谷古墳群第12地区 位置図



第6図 神谷古墳群第12地区 トレンチ配置図





第7図 神谷古墳群第12地区 トレンチ平面図、セクション図

### 3. 東平遺跡 第89地区 2次調査

所在地 伝法2619-18の一部

調査面積 6,595㎡ (対象面積 81.56㎡)

調査期間 令和3年4月21日

調査の原因 保育事業所建設

調査の概要 当該地では、平成29年8月に確認調査(1次調査、1～2Tr)を行っている。

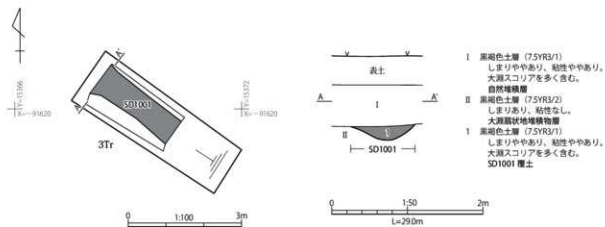
敷地内に1箇所の特レンチ(3Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。  
調査の結果(第10図) 地表下約0.9mにおいて溝状の掘り込み(SD1001)を検出した。出土遺物は確認されないものの、覆土の混入物などから奈良時代の遺構と推測される。



第8図 東平遺跡第89地区 位置図



第9図 東平遺跡第89地区 トレンチ配置図



#### 4. 滝川4古墳群 第4地区1次調査

所在地 原田1405-1

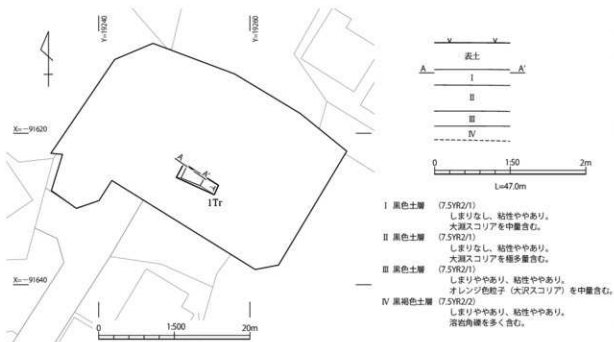
調査面積 9,448 m<sup>2</sup> (対象面積 680 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年4月28日～4月30日

調査の原因 宅地分譲

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



## 5. 川坂遺跡 第9地区 1次調査・2次調査

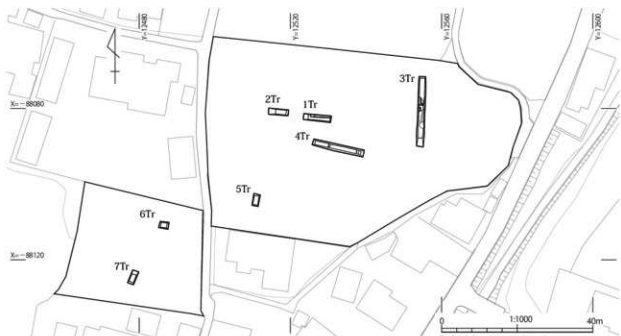
所在地	天間 812-1 ほか
調査面積	1次調査：20,341 m <sup>2</sup>
	2次調査：75,965 m <sup>2</sup> (対象面積 2,992 m <sup>2</sup> )
調査期間	1次調査：令和3年5月11日
	2次調査：令和3年12月6日

**調査の原因** 宅地分譲

**調査の概要（1次調査）** 当該地が川坂遺跡に近接することから、1次調査は川坂遺跡隣接地の試掘調査として行った。敷地内に2箇所の特レンチ（1～2Tr）を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。



第13図 川坂遺跡第9地区 位置図



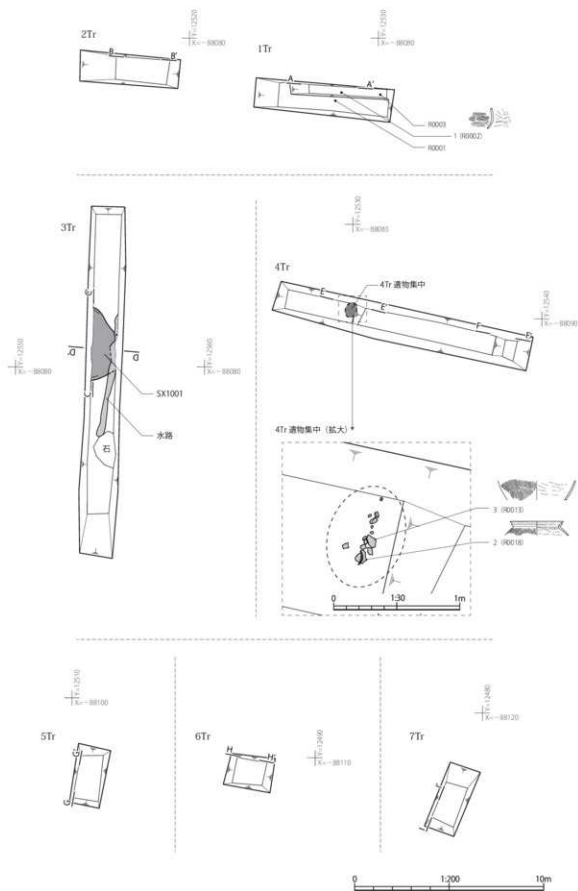
第14図 川坂遺跡第9地区 トレンチ配置図

**調査の結果（1次調査）** 1Trの地表下約0.5mにおいて、弥生～古墳時代の遺物包含層（Ⅱ・Ⅲ層）が遺存することが明らかになった。2Trより西側は地形が上がっており、遺物包含層はすでに削平されているものと判断された。当該地は東側の福泉川に向かって下がる緩やかな傾斜地に位置しており、1Tr以東には埋蔵文化財が遺存するものと判断される。

1次調査の結果、当該地に埋蔵文化財が遺存することが確認されたため、令和3年6月、川坂遺跡の包蔵地の内容変更（範囲の追加）を行った。

**調査の概要（2次調査）** 事業計画との調整のため、計画地全体を対象とした確認調査を行った。敷地内に5箇所の特レンチ（3～7Tr）を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

**調査の結果（2次調査）** 4Trの地表下約0.8mのⅠ層下半部において、古墳時代の遺物がまとまって出土した。3Trでは近世～近代の水路に一部切られる不明遺構（SX2001）が検出されたが、帰属時期は不明である。5～7Trでは表土中より奈良・平安時代を中心とする土器の小片が多数検出されたが、農地整備に伴い既に基盤層まで削平されているものと判断される。



第15図 川坂遺跡第9地区 トレンチ平面図

1Tr 東西セクション北壁



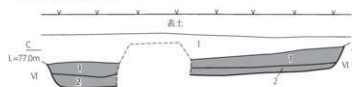
2Tr 東西セクション北壁



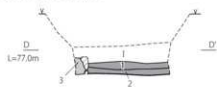
【1Tr・2Tr 土層注記】

I	黄色 (10YR2/1)	しまり強、粘性やや弱、褐色スコリア粒子少量。	遺物包含層 (弥生～古墳時代)
II	赤褐色 (5YR4/6)	しまり極強、粘性やや弱、褐色スコリア粒子多量。	遺物包含層 (弥生～古墳時代)
III	黄色 (10YR2/1)	しまり強、粘性やや強、褐色スコリア粒子少量。	
IV	暗褐色 (10YR3/3)	しまり強、粘性やや強、褐色スコリア粒子少量。	
V	黄色 (10YR2/1)	しまり強、粘性やや強、褐色スコリア粒子少量。	
VI	黄褐色 (10YR3/2)	しまり強、粘性強。	
VI	褐色 (10YR4/4)	しまり強、粘性強。	

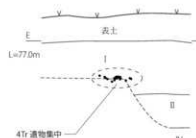
3Tr 南北セクション西壁



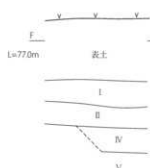
3Tr 東西セクション南壁



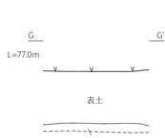
4Tr 東西セクション北壁 (西)



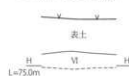
4Tr 東西セクション北壁 (東)



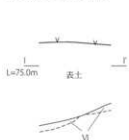
5Tr 南北セクション西壁



6Tr 東西セクション北壁



7Tr 南北セクション西壁



【3～7Tr 土層注記】

I	黄色土層 (10YR2/1)	しまり強、粘性やや強、褐色スコリア粒子少量。	遺物包含層
II	赤褐色土層 (5YR4/6)	しまり極強、粘性やや強、褐色スコリア粒子中量。	遺物包含層
III	暗褐色土層 (10YR3/3)	しまり弱、粘性やや強、径 (5mm) 程度。	KJ 対応
IV	にじみ黄褐色砂層 (10YR5/3)	しまり極強、粘性やや強、礫多量。	
V	にじみ黄褐色粘土層 (10YR7/4)	しまり極強、粘性やや強、礫多量。	
VI	明黄褐色土層 (10YR6/6)	しまり強、粘性やや強。	VI 対応
1	黄色土層 (10YR2/1)	しまりやや強、粘性やや弱、黄褐色ロームブロック少量。	SX2001 覆土
2	灰黄褐色砂礫層 (10YR4/2)	しまり弱、粘性なし、礫多量。	SX2001 覆土
3	黄色土層 (10YR2/1)	しまり弱、粘性やや強、赤褐色鉄分多量。	水路覆土 (近世～近代)

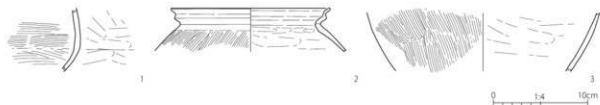
第16図 川板遺跡第9地区 セクション図

出土遺物 3点図示した(第17図)。

1は1Trで出土した弥生土師器壺の胴部片である。外面はナデ、内面はハケ目調整される。

2・3は4Trの遺物集中地点で出土した土師器のS字甕である。2は口縁部および頸部の屈曲が明瞭

で、肩部外面には斜めハケ目調整が施され、残存部分では横ハケ目は認められない。3は胴部下半の破片である。古墳時代前期(大塚Ⅲ～Ⅴ式)に位置づけられる。この遺物集中地点からは図化に至らないS字甕の破片が多数出土している。



第17図 川坂遺跡第9地区 出土遺物実測図

第4表 川坂遺跡第9地区 出土遺物観察表

発掘番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調	
							口徑	底径	器高					
第17図1	0002	PL.3	1Tr	弥生土師器	壺	弥生	-	-	-	良好	-	2.5Y6/2 (灰黄)	5YR7/6 (橙)	
第17図2	0018	PL.3	4Tr	遺物集中	土師器	S字甕	古墳	(16.7)	-	(4.6)	良好	-	5YR6/6 (橙)	5YR6/8 (橙)
第17図3	0013	PL.3	4Tr	遺物集中	土師器	S字甕	古墳	-	-	-	良好	-	7.5YR6/6 (橙)	7.5YR3/1 (黒褐)

## 6. 柏原遺跡 第17地区 1次調査

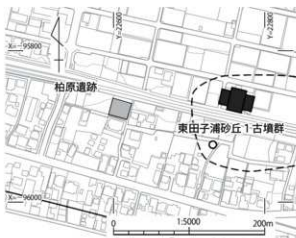
所在地 中柏原新田44-1

調査面積 10,268 m<sup>2</sup> (対象面積 451 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年5月14日

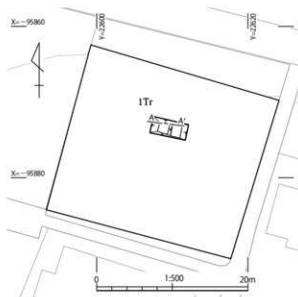
調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。



第18図 柏原遺跡第17地区 位置図

調査の結果 地表下約0.8mにおいて、5世紀末頃の富士山の噴火に伴い降灰した大淵スコリアを少量含む層(Ⅱ層)が確認されたほか、地表下約1.4mにはよく締まり安定した黄褐色土層(Ⅵ層)が堆積していた。それらの上下の層を中心に精査を行ったものの、遺構・遺物は検出されなかった。



第19図 柏原遺跡第17地区 トレンチ配置図・セクション図



第20図 柏原遺跡第17地区 トレンチ配置図・セクション図

## 7. 出口遺跡 IX地区 2次調査

所在地 伝法1869-7外

調査面積 8,364 m<sup>2</sup> (対象面積 1,334 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年5月20日

調査の原因 不動産売買

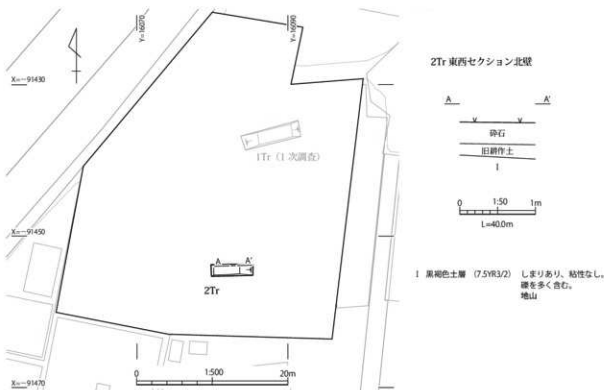
調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ (2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

令和2年度に敷地北側部分で行った1次調査 (R02-48) でも遺構・遺物は検出されていない。



第21図 出口遺跡IX地区 位置図



第22図 出口遺跡IX地区 トレンチ配置図・セクション図



## 8. 東平遺跡 第139地区1次調査

所在地 伝法2753-4

調査面積 11,057 m<sup>2</sup> (対象面積 140.32 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年6月15日

調査の原因 不動産売買

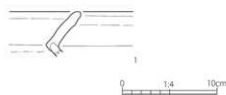
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(ITr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下0.6mより堅穴建物(SB1001)と窠などの土師器片が出土した。SB1001の規模は主軸幅3.6m以上、直交幅1.4m以上、深さ0.4mを測り、西壁にカマドが敷設される。出土遺物から、奈良時代(8世紀前葉頃)の遺構と判断される。

出土遺物 第24図1はSB1001から出土した土師器甕の口縁部である。口縁端部に明瞭な肥厚は認められないが、内側に微妙に屈曲させることで、端部内側に丸みをもたせている。8世紀前葉(富士I)に位置づけられる。



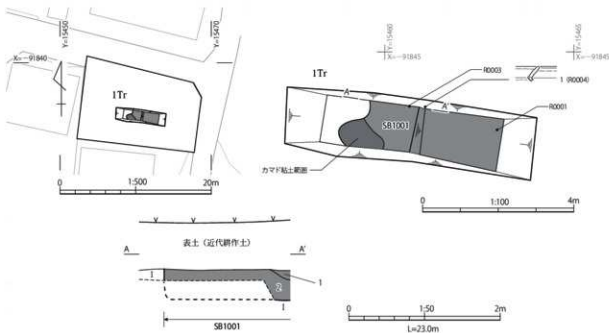
第23図 東平遺跡第139地区 位置図



第24図 東平遺跡第139地区 出土遺物実測図

第5表 東平遺跡第139地区 出土遺物観察表

種目番号	集番号	写真 図版	出土 場所	種別	類別	時代	材質 (cm)			保存 率	内面色調	外面色調	
							口縁	底径	器高				
第24図1	0004	PL4	SB1001	土師器	甕	奈良	-	-	-	良好	-	10R4/6 (赤)	10R4/6 (赤)



1 褐色 (7.5YR4/4) しまり強、粘性なし。砂礫多量。 大溜潭状地堆積物

1 灰黄褐色 (10YR4/2) しまりやや強、粘性なし。橙色スコリア(1~3mm)多量。 SB1001 覆土

2 黄褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性なし。橙色スコリア(1~3mm)多量。 SB1001 覆土

第25図 東平遺跡第139地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

### 9. 宮添遺跡 N地区 1次調査

所在地 増川538-8外

調査面積 3,299㎡ (対象面積 391.07㎡)

調査期間 令和3年6月7日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に2箇所の特レンチ(1~2Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 2Trの地表下約1.1mにおいて、奈良・平安時代の遺物を含む近代以前の耕作土(1層)が確認された。対象地は南側が急激に下がる丘陵崖に位置しており、1Tr付近は既に地山まで削平されているものの、2Tr付近では1層より下部において埋蔵文化財が存在する可能性がある。

出土遺物 第27図1は2Trで出土した土師器の蓋である。須恵器の摘み蓋を模倣したもので、8世紀代に位置づけられる。



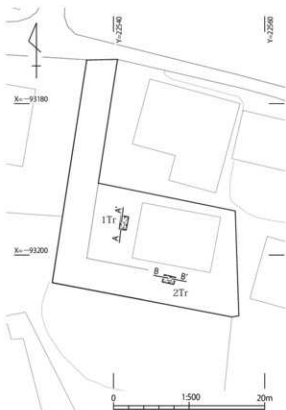
第26図 宮添遺跡N地区 位置図



第27図 宮添遺跡N地区 出土遺物実測図

第6表 宮添遺跡N地区 出土遺物観察表

探検番号	棟番号	写真 図版	出土 図版	種別	類別	時代	測量 (cm)		焼成	保存 率	内面色調	外面色調
							石径	底径				
第27図1	0001	PL-4	2Tr	土師器	坏蓋	奈良	-	-	器高	良好	5YR5/4 (にぶい赤褐)	10R6/8 (赤橙)



第28図 宮添遺跡N地区 トレンチ配置図、セクション図

1Tr 南北セクション西壁



2Tr 東西セクション北壁



- I 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性やや強。褐色スコリア残量。炭化層微量。近代以前の耕作土。※古代の遺物あり
- II 褐色 (10YR4/4) しまり強、粘性やや弱。地山

10. 宮添遺跡 O地区 1次調査

所在地 増川740-1外

調査面積 21,569 m<sup>2</sup> (対象面積 753 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年6月10日～6月11日

調査の原因 荒廃農地再生事業

調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチ(1～3Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 1Trの地表下約0.6mにおいて、弥生時代・古墳時代・平安時代の遺物包含層(II層)が確認された。2・3Trでは遺物包含層が確認されなかった。敷地の西半部に埋蔵文化財が遺存するものと判断される。

出土遺物 第30図1は1Trで出土した土師器坏の底部片である。底部外面が回転糸切り後未調整で、10～11世紀(富士VII～VIII)に位置づけられる。



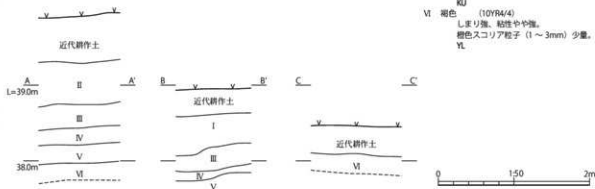
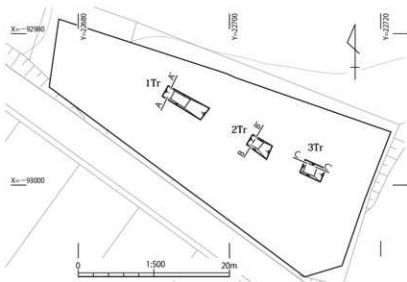
第29図 宮添遺跡O地区 位置図



第30図 宮添遺跡O地区 出土遺物実測図

第7表 宮添遺跡O地区 出土遺物観察表

探検番号	R番号	写真 図版	出土 場所	類別	細別	時代
第30図1	0001	PL.5	1Tr	土師器	坏	平安
法量 (cm)		構成	残存 率	内面色調	外面色調	
口径	底径	器高	良好	2.5YR6/8 (橙)	2.5YR6/8 (橙)	



第31図 宮添遺跡O地区 トレンチ配置図、セクション図

### 11. 三日月庵寺跡（東平遺跡第140地区1次調査）

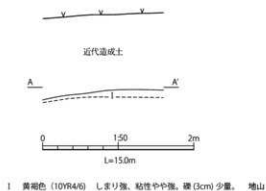
**所在地** 浅間上町2983-5外  
**調査面積** 8,155㎡（対象面積 221.34㎡）  
**調査期間** 令和3年7月9日  
**調査の原因** 個人住宅建設  
**調査の概要** 敷地内に1箇所のトレンチ（ITr）を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。  
**調査の結果** 地表下約1.0mにおいて基盤層を検出し、その上面を中心に精査したものの、遺構や遺物は確認されなかった。近代造成土の下部から古代の土器片が出土したが、混入物と考えられる。敷地内は近代の造成によって基盤層まで削平されており、埋蔵文化財は既に失われているものと判断される。



第33図 東平遺跡第140地区 トレンチ配置図、セクション図



第32図 東平遺跡第140地区 位置図



Ⅰ 黄褐色(10YR4/6) しまり強、粘性やや強、礫(3cm)少量、地山

### 12. 包蔵地外 片倉3古墳群隣接地

(第3地区1次調査)

**所在地** 中野671  
**調査面積** 19,764㎡（対象面積 39,600㎡）  
**調査期間** 令和3年9月27日～9月30日  
**調査の原因** 総合体育館等整備事業  
**調査の概要** 対象地は包蔵地範囲外であるが、敷地内西側に数箇所の大型の石のまとまりが確認され、古墳の可能性が考えられることから、試掘調査を行った。

2箇所の集石（SZ01～02）に対して3箇所ずつ、

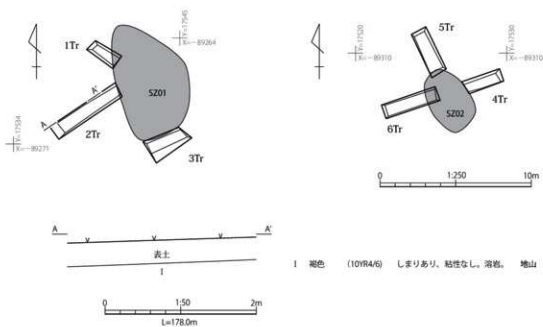
合計6箇所のトレンチ（1～6Tr）を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

**調査の結果** 北側の集石SZ01は、自然の溶岩の露頭部分に植林などの際に不要な石をまとめた痕跡と理解される。南側のSZ02については、横穴式石室などの存在を想定させる人為的な掘り込みなどが一切なく、単なる溶岩の露頭と理解できる。

以上の結果から、対象地内に埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いと結論付けられる。



第34図 片倉3古墳群第3地区 位置図



第35図 片倉3古墳群第3地区 トレンチ配置図、セクション図

I 褐色 (10YR4/6) しまりあり、粘性なし。溶岩。地山

### 13. 天間沢遺跡 第66地区 1次調査

所在地 天間地先

調査面積 8㎡ (対象面積 56.28㎡)

調査期間 令和3年8月20日

調査の原因 下水道建設

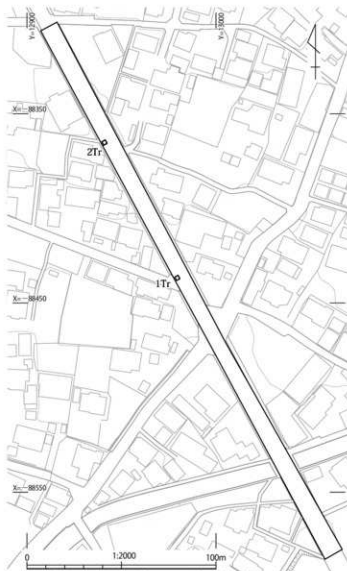
調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ (1～2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 その結果、地表下約0.7～1.0mにおいて基盤層が検出され、その前後の層を中心に精査したものの、遺構・遺物は検出されなかった。

1Tr付近は低湿地性の旧耕作土以下の土層が良好に遺存していたものの、2Tr付近は県道敷設時の削平が著しい状況が確認された。



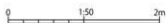
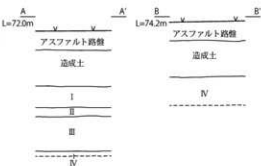
第36図 天間沢遺跡第66地区 位置図



第37図 天間沢遺跡第66地区 トレンチ配置図、セクション図

1Tr南北セクション東壁

2Tr東西セクション北壁



- I 黒褐色 (10YR3/1) しまり強。粘性あり。白色粒子少量。旧水田耕作土
- II 黒褐色 (10YR3/2) しまり強。粘性あり。黄褐色ローム粒子少量。橙色スコリア礫 (5～10mm) 微量。
- III 黄褐色 (10YR5/6) しまり強。粘性あり。礫 (10～20mm) 中量。黄褐色ローム粒子少量。
- IV 明黄褐色 (10YR7/6) しまり強。粘性あり。溶岩礫 (10～50mm) 多量。古富士溶岩層

14. 伝法3古墳群 第2地区 1次調査

所在地 国久保三丁目 2285-1 ほか

調査面積 6,258 m<sup>2</sup> (対象面積 592.81 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年6月22日～6月23日

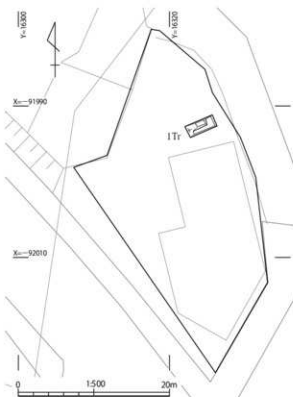
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ(ITr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

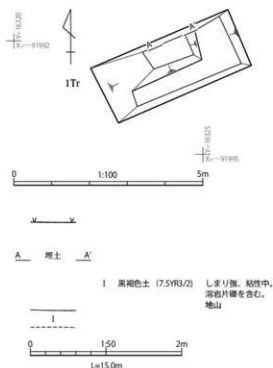
調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第38図 伝法3古墳群第2地区 位置図



第39図 伝法3古墳群第2地区 トレンチ配置図、セクション図



15. 東平遺跡 第141地区 1次調査

所在地 伝法 2527-6

調査面積 7,380 m<sup>2</sup> (対象面積 133.65 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年7月1日

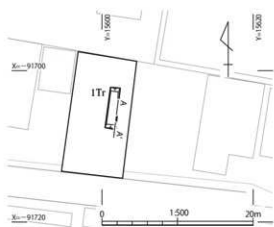
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ(ITr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第40図 東平遺跡第141地区 位置図



第41図 東平道跡第141地区 トレンチ配置図、セクション図

- I 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり強、粘性なし。明褐色スコリア微量。  
旧耕作土
- II 褐色土 (10YR4/4) しまり強、粘性なし。  
大淵扇状地堆積物層・地山

### 16. 舟久保遺跡 第74地区 1次調査

所在地 今泉六丁目1604番1ほか

調査面積 4.678㎡ (対象面積 590.79㎡)

調査期間 令和3年7月5日～7月6日

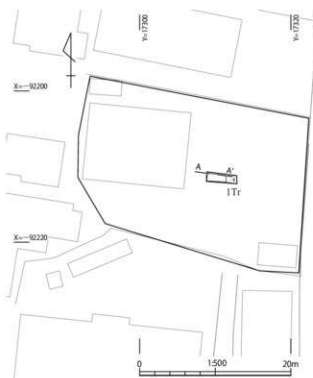
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第42図 舟久保遺跡第74地区 位置図



第43図 舟久保遺跡第74地区 トレンチ配置図、セクション図

- I 黒色土 (7.5YR2/1) しまりなし、粘性なし。  
大淵スコリアを少量含む。
- II 褐色土 (7.5YR4/4) しまりなし、粘性なし。  
白磁砕溶岩層。  
地山



17. 包蔵地外 宮添遺跡隣接地 (P地区1次調査)

所在地 増川740-1外

調査面積 5,718 m<sup>2</sup> (対象面積 997.77 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年7月15日～7月16日

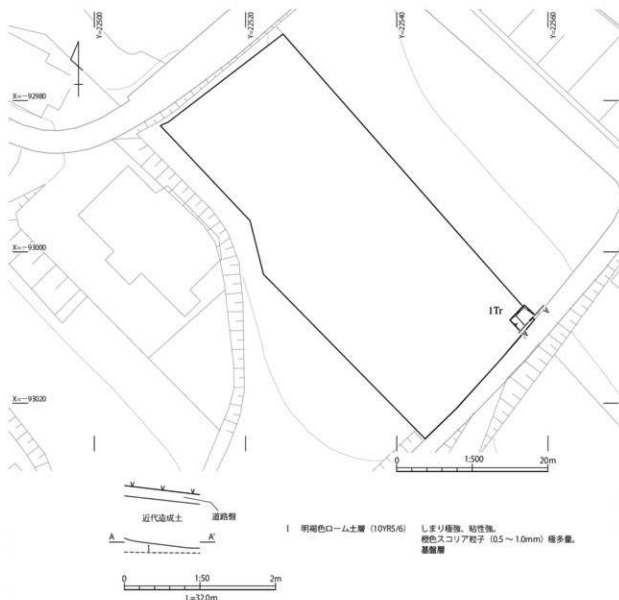
調査の原因 宅地分譲

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 現地表下約0.7mで基盤層に到達したが、その間に遺構・遺物は検出されなかった。東側の道路工事の際に、大規模な土地の削平及び造成が行われたことが推定される。以上のことから敷地内に埋蔵文化財は存在しないものと結論付けられる。



第44図 宮添遺跡P地区 位置図



第45図 宮添遺跡P地区 トレンチ配置図、セクション図

### 18. 舟久保遺跡 第59地区 3次調査・4次調査

所在地 今泉 1958-1ほか

調査面積 3次調査：24.645㎡

4次調査：19.627㎡

(対象面積 1,213㎡)

調査期間 3次調査：令和3年7月19日～7月20日

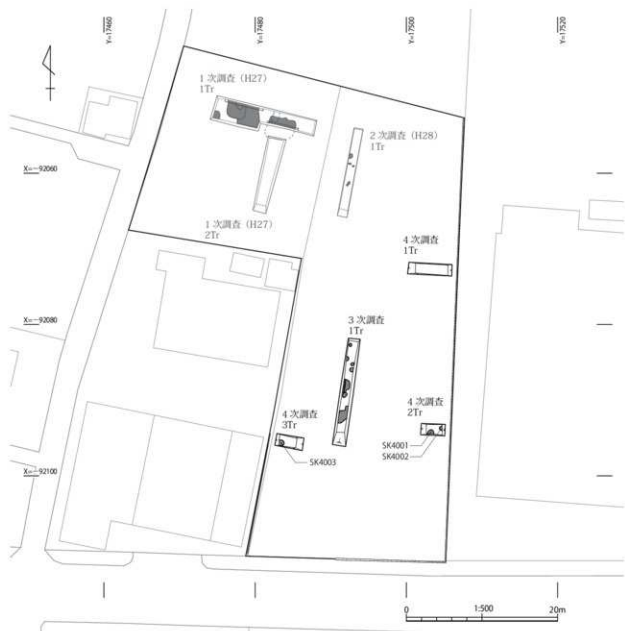
4次調査：令和3年8月17日～8月21日

調査の原因 介護施設建設

調査の概要 当該地では、平成27・28年度に北側部分で確認調査を2回行っており（1・2次調査）、8世紀代に位置づけられる遺構・遺物が確認されている。



第46図 舟久保遺跡第59地区 位置図



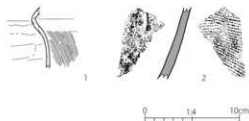
第47図 舟久保遺跡第59地区 トレンチ配置図

敷地南側部分に合計4箇所(3次調査1Tr、4次調査1～3Tr)のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

**調査の結果** 地表下約0.6mより不明遺構・ビット・土坑が検出された。土師器・須恵器・陶器などの出土遺物から、古代の遺構と判断される。

**出土遺物** 第48図1はSK4001から出土した土師器の遠江系水平口縁甕(ⅡE)の頸部である。頸部の屈曲はゆるく、肩があまり張らない。頸部内面の接合部の仕上げは粗雑に見える。8世紀中葉から

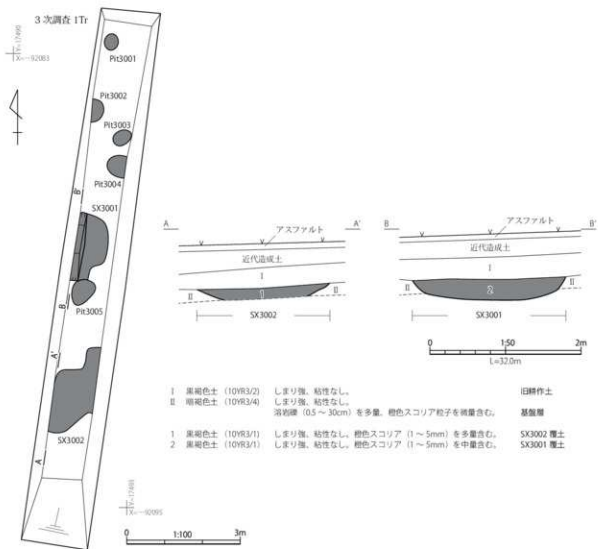
後葉(富士Ⅱ～Ⅲ)に位置づけられる。2は陶器甕の胴部片である。内面はナデ調整、外面にはタキ目が施される。中世のものとみられる。



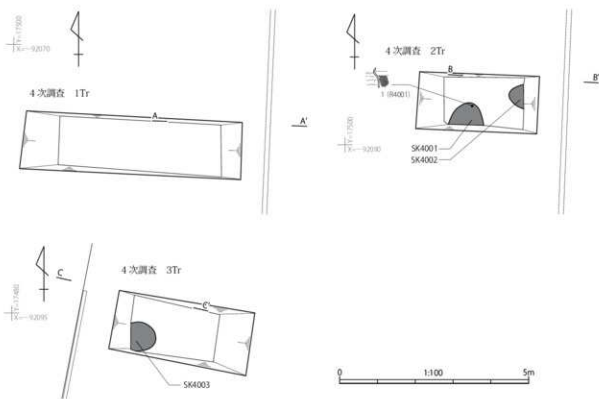
第48図 舟久保遺跡第59地区 出土遺物実測図

第8表 舟久保遺跡第59地区 出土遺物観察表

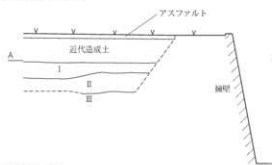
探洞番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第48図1	4001	PL.7	2Tr SK4001	土師器	甕	奈良	-	-	-	良好	-	10YR6/3 (にぶい黄橙)	7.5YR5/4 (にぶい橙)
第48図2	3001	PL.7	1Tr	陶器	甕	中世	-	-	-	良好	-	10YR4/2 (灰黄褐)	10YR4/2 (灰黄褐)



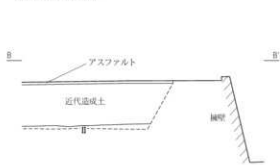
第49図 舟久保遺跡第59地区3次調査 トレンチ平面図、セクション図



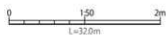
4次調査 1Tr  
東西セクション北壁



4次調査 2Tr  
東西セクション北壁



4次調査 3Tr  
東西セクション北壁



- |                   |   |     |
|-------------------|---|-----|
| I 黒褐色土 (10#R3/2)  | しまりやや弱、粘性なし。褐色スコリア (1~5mm) 中量。          | 旧表土 |
| II 暗褐色土 (10#R3/4) | しまり強、粘性なし。茶岩礫 (0.5~30cm) 中量。褐色スコリア粒子微量。 | 基礎層 |
| III 褐色土 (10#R4/4) | しまり強、粘性なし。茶岩礫 (10~50cm) 少量。             |     |

第50図 舟久保遺跡第59地区4次調査 トレンチ平面図、セクション図

19. 北ヶ糸遺跡 第1地区 1次調査

所在地 北松野 707-12、-15

調査面積 3,814 m<sup>2</sup> (対象面積 356.51 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年8月5日

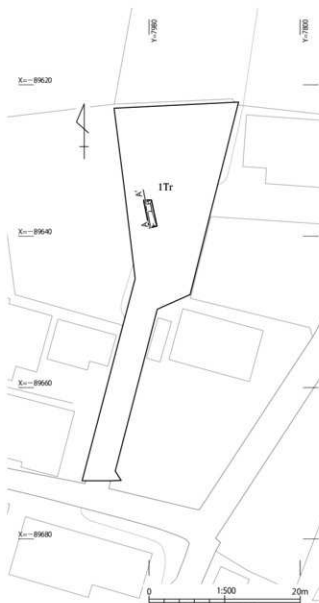
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

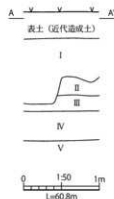
調査の結果 地表下約0.9mにおいて粘性土層、同約1.3mにおいて砂礫層が検出され、その前後の層を中心に精査したものの、遺構・遺物は検出されなかった。



第51図 北ヶ糸遺跡第1地区 位置図



ITr南北セクション西壁



- I 褐灰黄色土層 (2.5Y4/2) しまりやや強、粘性ややあり。旧耕作土
- II オリーブ褐色粘性土層 (2.5Y4/3) しまりやや強、粘性あり。礫 (0.1～0.3cm) 微量。
- III オリーブ褐色粘性土層 (2.5Y4/3) しまりやや強、粘性あり。礫 (0.1～0.5cm) 多量。
- IV 褐灰黄色砂礫層 (2.5Y4/2) しまり強、粘性なし。礫 (1～3cm) 多量。
- V 褐灰黄色砂礫層 (2.5Y4/2) しまり弱、粘性なし。礫 (5～20cm) 多量。

第52図 北ヶ糸遺跡第1地区 トレンチ配置図、セクション図

## 20. 中島遺跡 第16地区 1次調査

所在地 原田890-2

調査面積 2,122㎡ (対象面積 102.67㎡)

調査期間 令和3年8月11日

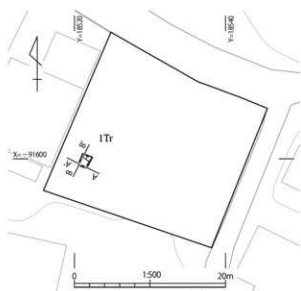
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 ITr 南側では地表下0.55mにおいて、縄文時代の遺物包含層 (I) が遺存する。北側では地表下0.65mで基盤層 (II) 層に到達し、その上面で縄文土器がまばらに検出された。基盤層上面は部分的に硬化面がみとめられ、遺構に伴う可能性もある。当該地の60m程西側には湧水池があり、南下して松原川へ注ぐ小河川を形成している。この周囲に縄文時代の集落が広がるものと考えられる。



第53図 中島遺跡第16地区 位置図



ITr 東西セクション南壁



ITr 南北セクション西壁



- |  |  |
|--|--|
| <p>I 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや強。粘性なし。褐色スクリア粘土 (1~3mm) 微量。縄文土器包含層</p> <p>II 灰黄褐色 (10YR4/2) しまり極強。粘性なし。赤岩層 (5~10cm) 少量。基盤層</p> | <p>しまりやや強。粘性なし。褐色スクリア粘土 (1~3mm) 微量。縄文土器包含層</p> <p>しまり極強。粘性なし。赤岩層 (5~10cm) 少量。基盤層</p> |
|--|--|

第54図 中島遺跡第16地区 トレンチ配置図、セクション図

## 21. 祢宜ノ前遺跡 第7地区 1次調査

所在地 比奈1563-1ほか

調査面積 10,755㎡ (対象面積 267㎡)

調査期間 令和3年8月24日

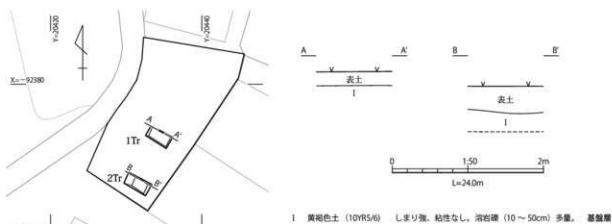
調査の原因 個人住宅進入路拡幅及び車庫建設

調査の概要 敷地内に2箇所の特レンチ (1~2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下約0.2~0.3mにおいて基盤層を検出し、その上面を中心に精査したものの、遺構や遺物は確認されなかった。敷地内は近代の切土によって基盤層まで削平されており、埋蔵文化財は存在しないものと判断される。



第55図 祢宜ノ前遺跡第7地区 位置図



第56図 柿原ノ前遺跡第7地区 トレンチ配置図、セクション図

## 22. 厚原遺跡 第10地区 1次調査

所在地 厚原786-1ほか

調査面積 4,402 m<sup>2</sup> (対象面積 1,733.11 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年9月6日

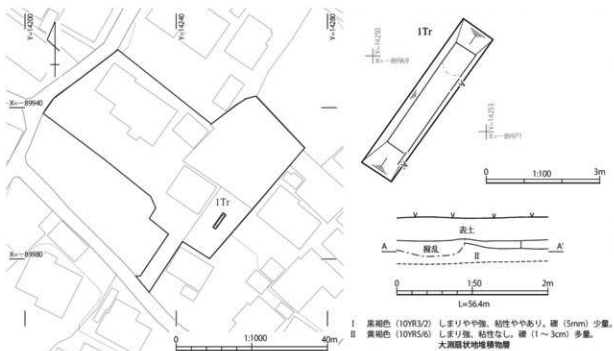
調査の原因 宅地分譲

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第57図 厚原遺跡第10地区 位置図



第58図 厚原遺跡第10地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

### 23. 東平遺跡 第142地区 1次調査

所在地 伝法2619-46

調査面積 14,720 m<sup>2</sup> (対象面積 228.09 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年9月10日～9月11日

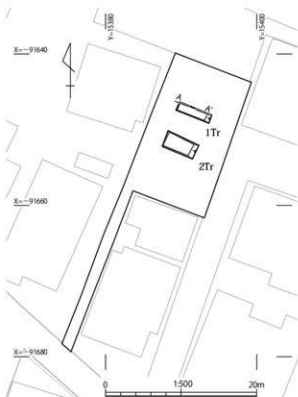
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に2箇所の特レンチ (1～2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

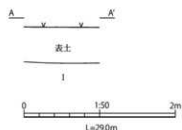


第59図 東平遺跡第142地区 位置図



第60図 東平遺跡第142地区 トレンチ配置図、セクション図

1Tr 東西セクション北壁



1 褐色 (10YR4/6) しまり強、粘性なし。礫 (1～2cm) 多量。  
大淵層状地堆積物

### 24. 善得寺城跡・東泉院跡 第7地区 1次調査

所在地 今泉七丁目 1315-3

調査面積 2,557 m<sup>2</sup> (対象面積 329.67 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年9月14日

調査の原因 個人住宅建設

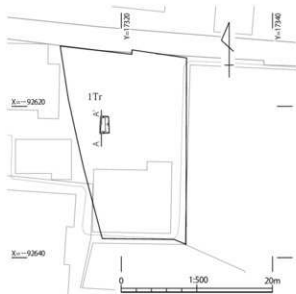
調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



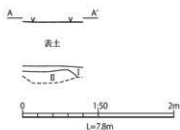
第61図 善得寺城跡・東泉院跡第7地区 位置図





第62図 善得寺城跡・東泉院跡第7地区 トレンチ配置図、セクション図

## ITr 南北セクション西壁



- I 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性ややあり、礫 (5mm) 少量、  
旧表土
- II 褐色 (7.5YR4/6) しまり強、粘性なし、礫 (1~2cm) 多量、  
岩盤

## 25. 中桁・中ノ坪遺跡 第19地区1次調査

所在地 伝法1298

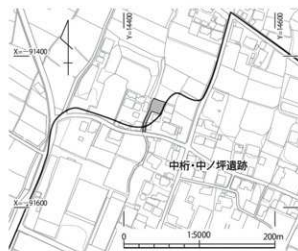
調査面積 7,694 m<sup>2</sup> (対象面積 635.67 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年10月6日

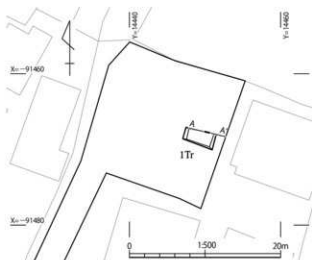
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

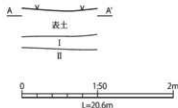
調査の結果 土器細片2点が出土したものの、遺構は検出されなかった。旧表土の堆積も薄く、明確に遺物包含層を形成しているとは言えない。埋蔵文化財の希薄なエリアと判断される。



第63図 中桁・中ノ坪遺跡第19地区 位置図



第64図 中桁・中ノ坪遺跡第19地区 トレンチ配置図、セクション図



- I 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまり強、粘性なし、大淵スコリア多量、
- II 褐色土 (7.5YR4/4) しまり強、粘性なし、劣岩、  
基盤層

## 26. 寺下遺跡 第6地区 1次調査

所在地 神戸657-1

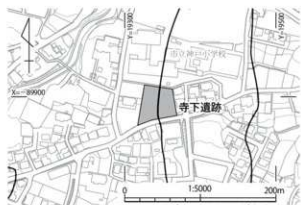
調査面積 23,481 m<sup>2</sup> (対象面積 1,963 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年10月12日

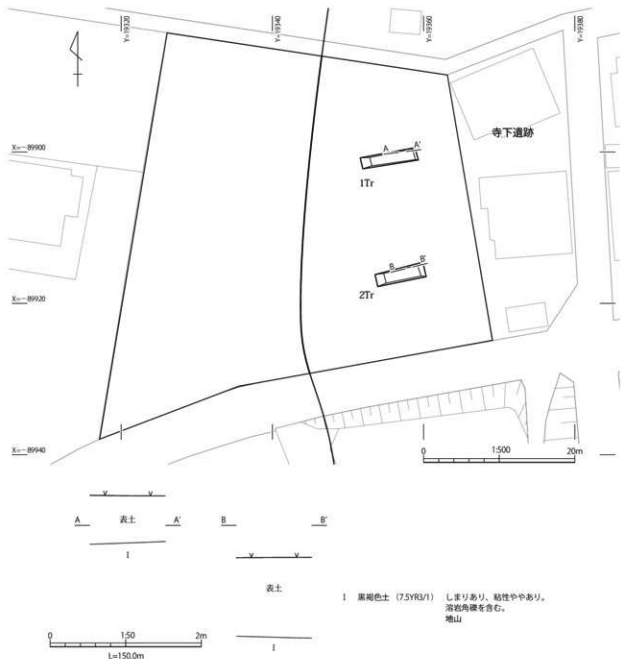
調査の原因 宅地分譲

調査の概要 敷地内に2箇所の特レンチ (1～2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第65図 寺下遺跡第6地区 位置図



第66図 寺下遺跡第6地区 トレンチ配置図、セクション図

## 27. 川坂遺跡 第10地区 1次調査

所在地 天間 846-16

調査面積 2,946 m<sup>2</sup> (対象面積 166.48 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年10月14日

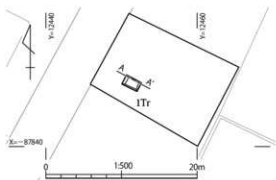
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(ITr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第67図 川坂遺跡第10地区 位置図



第68図 川坂遺跡第10地区 トレンチ配置図、セクション図



- I 褐色 (7.5YR4/4) しまりややあり、粘性ややあり。  
径2~4cmの小石を少量含む。  
地山

## 28. 天間沢遺跡 第65地区 1次調査

所在地 天間 1812-8

調査面積 3,144 m<sup>2</sup> (対象面積 297.83 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年10月14日

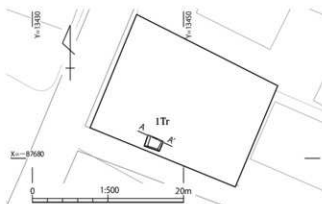
調査の原因 店舗建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(ITr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

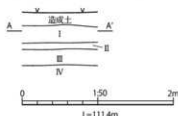
調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第69図 天間沢遺跡第65地区 位置図



第70図 天間沢遺跡第65地区 トレンチ配置図、セクション図



- I 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性なし。赤色粒子多量。  
II 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。  
赤色粒子・白色粒子中量。  
III 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子中量。  
IV 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子少量。

### 29. 天間沢遺跡 第67地区 1次調査

所在地 天間1208-1

調査面積 6,314㎡ (対象面積 205.41㎡)

調査期間 令和3年11月15日

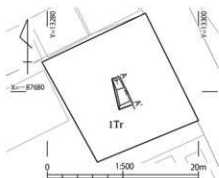
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第71図 天間沢遺跡第67地区 位置図



- |     |                 |  |
|-----|-----------------|--|
| I   | 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。大沢ラビリを多く含む。                               |
| II  | 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。  |
| III | 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。オレンジ粒子を少量含む。                              |
| IV  | 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性なし。しまりややあり、粘性なし。径5～10cmの小石を極少量に含む。旧河道の床と推定される。 |



第72図 天間沢遺跡第67地区 トレンチ配置図、セクション図

### 30. 東平遺跡 第143地区 1次調査

所在地 伝法3091

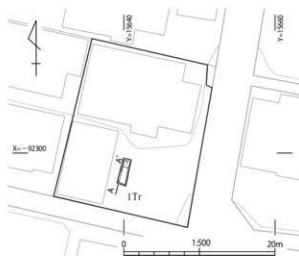
調査面積 3,974㎡ (対象面積 363㎡)

調査期間 令和3年10月20日

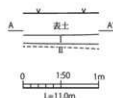
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構は検出されなかったが、旧表土から奈良時代の土器が出土した。敷地内には希薄ながらも埋蔵文化財が残存している可能性が高い。



第73図 東平遺跡第143地区 位置図



- |    |                 |                       |     |
|----|-----------------|-----------------------|-----|
| I  | 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまり弱、粘性なし。大洲スコリア少量含む。 | 旧表土 |
| II | 黒褐色土 (7.5YR3/2) | しまり強、粘性なし。大洲層状地塊積物層。  |     |

第74図 東平遺跡第143地区 トレンチ配置図、セクション図

31. 東平遺跡 第144地区 1次調査

所在地 伝法2556-4

調査面積 10,326 m<sup>2</sup> (対象面積 993.99 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年10月25日～10月27日

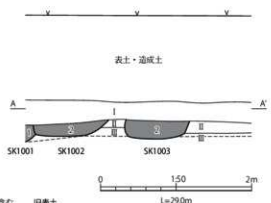
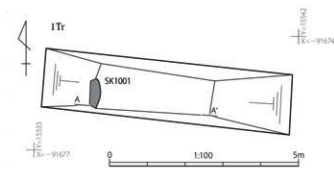
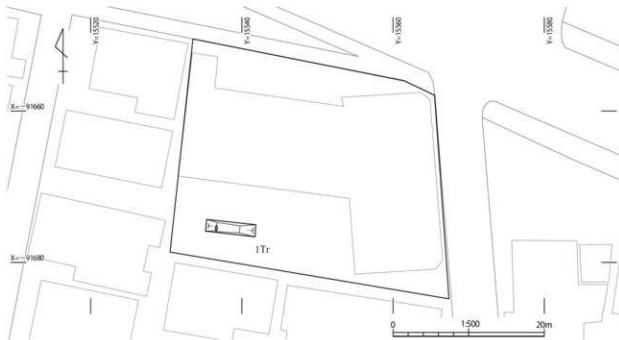
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(ITr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺物の出土は認められないものの、地表下1.4mにおいて古代(奈良・平安時代)及び中近世と想定される遺構(土坑)を検出した。敷地内には埋蔵文化財が残存していると想定できる。



第75図 東平遺跡第144地区 位置図



- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| Ⅰ 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。オレンジ粒子中量含む。 |
| Ⅱ 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。オレンジ粒子中量含む。 |
| Ⅲ 黒褐色土 (7.5YR3/2) | しまりややあり、粘性なし。大淵層状堆積物層。     |
| 1 黒色土 (7.5YR2/1)  | しまりややあり、粘性なし。地山ブロック少量含む。   |
| 2 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア少量含む。   |

- |                         |
|-------------------------|
| 旧表土                     |
| 旧表土?                    |
| 地山                      |
| SK1001 覆土 (古代)          |
| SK1002・1003 覆土 (中近世土坑か) |

第76図 東平遺跡第144地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

### 32. 沖田遺跡 第164次調査地点1次調査

所在地 比奈958-1

調査面積 18,687 m<sup>2</sup> (対象面積 1,811 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年11月17日～11月18日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に2箇所の特レンチ(1～2Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

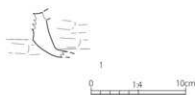
調査の結果 地表下約1.8mにおいて河川堆積物と推測される砂礫層を検出し、その中から土器(古墳時代から平安時代)が少量出土した。土器片は内外面ともに磨滅していることから、周辺の河川から混入したものと想定される。

遺構は検出されず、調査地は旧河川部分にあることから、遺物包含層が形成されなかった埋蔵文化財の希薄なエリアと判断される。

出土遺物 第78図1は土師器高坏の脚部片である。低脚の柱状脚で、柱状部はハの字状に開き、屈折して端部へ至る。脚部の上部が坏部の底となる。脚部外面はヘラケズリ後、ヨコナデ調整され、わずかに赤彩が施されていた痕跡が残る。脚部内面もヨコナデで丁寧に整えられており、内面頂部に先の丸い棒を刺したようなくぼみが認められる。中見代I式期以降、古墳時代中期に位置づけられる。



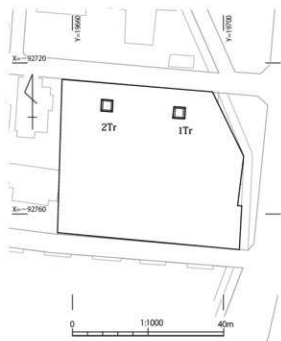
第77図 沖田遺跡第164次調査地点 位置図



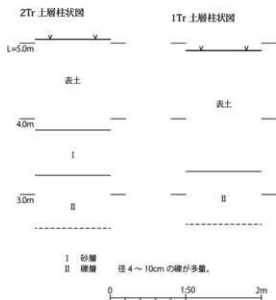
第78図 沖田遺跡第164次調査地点 出土遺物実測図

第9表 沖田遺跡第164次調査地点 出土遺物観察表

探出番号	R番号	写真 図版	出土 層位	種別	類別	時代
第78図1	0001	PL.10	1Tr	土師器	高坏	古墳
出量 (cm)	地成	残存 率	内面色調	外面色調		
白径 底径 器高		良好	7.5YR7/4 (L:5-I) 橙	7.5YR7/4 (L:5-I) 橙		



第79図 沖田遺跡第164次調査地点 トレンチ配置図、セクション図



33. 中原遺跡 第31地区 1次調査・2次調査

所在地 伝法462-1ほか

調査面積 1次調査：65,178 m<sup>2</sup>  
 2次調査：112,756 m<sup>2</sup>  
 (対象面積 3,273 m<sup>2</sup>)

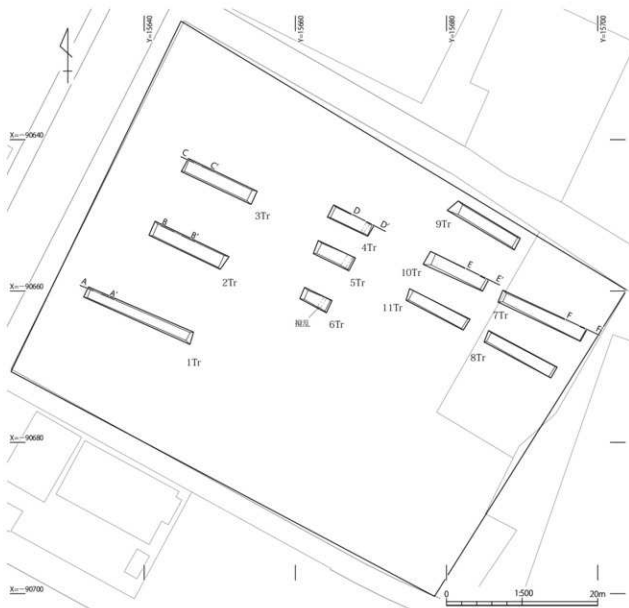
調査期間 1次調査：令和3年11月10日  
 2次調査：令和3年11月29日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 当該地の北西には、多種多量の副葬品が出土した中原第4号墳が存在した。当該地にも古墳が残存する可能性を想定し、11箇所のトレンチ(1次調査1～3Tr、2次調査4～11Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。



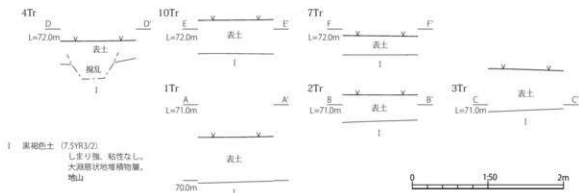
第80図 中原遺跡第31地区 位置図



第81図 中原遺跡第31地区 トレンチ配置図

**調査の結果** 遺構・遺物は検出されなかった。

当該地には、伝法沢にむかって傾斜する地形が残存していることが明らかとなった。しかし、古墳時代に相当する土層は確認されず、古墳の存在した痕跡についても確認されなかった。



第 82 図 中原遺跡第 31 地区 セクション図

34. 沖田遺跡 第 165 次調査地点 1 次調査

所在地 今泉 624-2

調査面積 15,939 m<sup>2</sup> (対象面積 3,042 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和 3 年 12 月 1 日

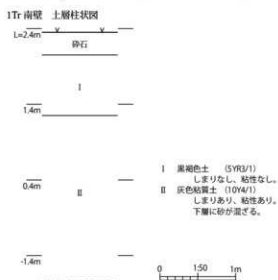
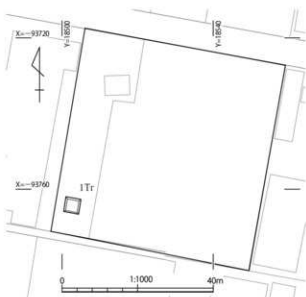
調査の原因 自動車修理工場建設

調査の概要 敷地内に 1 箇所のトレンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第 83 図 沖田遺跡第 165 次調査地点 位置図



第 84 図 沖田遺跡第 165 次調査地点 トレンチ配置図、セクション図



## 35. 天間沢遺跡 第68地区 1次調査

所在地 天間 1124-1

調査面積 25,875 m<sup>2</sup> (対象面積 1,286.14 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年11月24日～11月25日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に8箇所のトレンチ(1～8Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

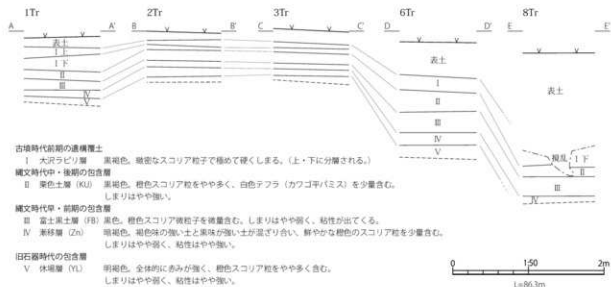
調査の結果 遺構・遺物は確認できなかった。



第85図 天間沢遺跡第68地区 位置図



第86図 天間沢遺跡第68地区 トレンチ配置図



第 87 図 天間沢遺跡第 68 地区 セクション図

### 36. 元吉原宿遺跡 第 7 地区 1 次調査

所在地 今井一丁目 1-18

調査面積 11,721 m<sup>2</sup> (対象面積 229.17 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和 3 年 11 月 19 日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に 1 箇所の特レンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構は確認できなかったものの、Ⅲ層・Ⅳ層・Ⅴ層から陶磁器や金属製品が比較的まとまって出土した。

Ⅲ層から出土した遺物は 18 世紀後半から 19 世紀前葉のものが多い。

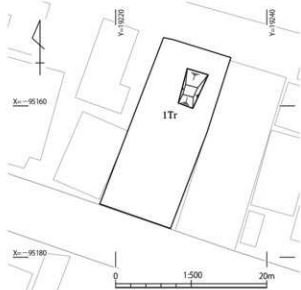
Ⅳ層・Ⅴ層からは 17 世紀代の遺物が出土した。中でも第 91 図の 1・2 は 17 世紀前半に位置づけられるものであり、本遺跡が東海道の宿場「吉原宿」として活動していた頃の文化財が残存していることが確認された。

出土遺物 陶器 6 点 (第 91 図 1～6)、鉄製品 1 点 (第 91 図 7) を図示した。

1 は瀬戸・美濃の志野軸の志野皿で、17 世紀前葉のものである。2 は瀬戸・美濃の鉄軸の碗である。生地が灰色を呈しており、新しいものの可能性もあるが、17 世紀前半とする。3 は肥前の内野山窯の皿



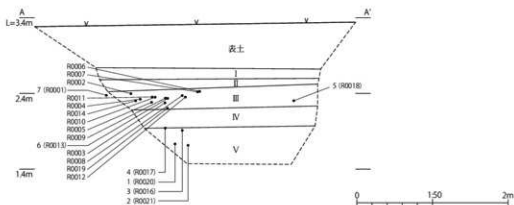
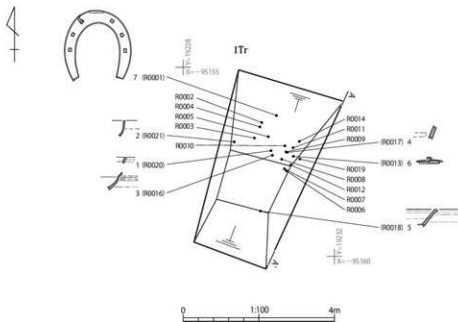
第 88 図 元吉原宿遺跡第 7 地区 位置図



第 89 図 元吉原宿遺跡第 7 地区 トレンチ配置図

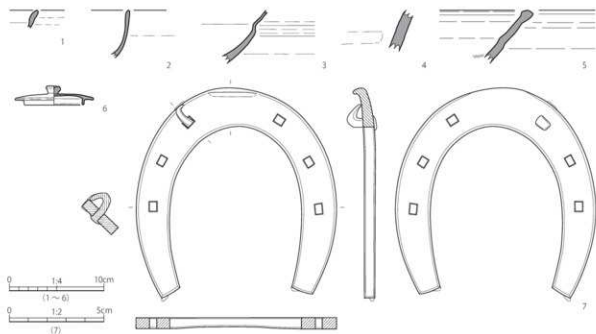
で、緑釉と鉄軸を掛け分けている。17世紀後葉のものである。4は常滑の甕の胴部片で、年代は不明である。5は瀬戸美濃のすり鉢の口縁部である。鉄軸で、18世紀後半のものである。6は土瓶の蓋で、上面のみに鉄軸が施軸される。近世から19世紀に関西で作られたものとみられる。

7は蹄鉄である。馬のひづめに接する面の先端部分に、幅23mm、高さ3mmほどの突出部がある。釘を通すための方形の孔が左右に3箇所ずつあり、左の1箇所には曲がった釘が残存している。



- |     |             |           |                                     |        |
|-----|-------------|-----------|-------------------------------------|--------|
| I   | 暗オリーブ褐色砂層   | (2.5Y3/3) | しまりなし、粘性なし。                         |        |
| II  | 暗オリーブ褐色砂層   | (2.5Y3/3) | しまりややあり、粘性ややあり。暗灰黄褐色粘土を多量に含む。炭化物多量。 | 近代生活圏か |
| III | 暗オリーブ褐色砂層   | (2.5Y3/3) | しまりなし、粘性なし。炭化物中量含む。径5~10cmの礫を少量含む。  |        |
| IV  | 暗オリーブ褐色砂層   | (2.5Y3/3) | しまりなし、粘性なし。炭化物中量含む。径5~10cmの礫を少量含む。  |        |
| V   | 暗オリーブ褐色砂質土層 | (2.5Y3/3) | しまり弱、粘性弱。全体的にしまりがあり、土壌化している。        |        |

第90図 元吉原宿遺跡第7地区 トレンチ平面図、セクション図



第91図 元吉原宿遺跡第7地区 出土物実測図

第10表 元吉原宿遺跡第7地区 出土物観察表

種別番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	年代	法量 (cm)		焼成	残存 率	内面色調	外面色調
							口徑	底径				
第91図1	0020	PL.12	ITr	陶器	志野皿	17C 前葉	-	(1.9)	良好	-	2.5YR/2 (灰白)	2.5YR/2 (灰白)
第91図2	0021	PL.12	ITr	陶器	碗	17C 前半	-	(5.0)	良好	-	5YR4/3 (にがい赤褐)	5YR4/3 (にがい赤褐)
第91図3	0016	PL.12	ITr	陶器	皿	17C 後葉	-	(5.6)	良好	-	緑釉 7.5Y5/2 (灰オリーブ) 鉄釉 5YR3/4 (暗赤褐)	10YR6/2 (灰黄褐)
第91図4	0017	PL.12	ITr	陶器	甕	不明	-	(4.4)	良好	-	10YR5/2 (灰黄褐)	7.5YR5/3 (にがい褐)
第91図5	0018	PL.12	ITr	陶器	すり鉢	18C 後半	-	(5.6)	良好	-	2.5YR4/3 (にがい赤褐)	2.5YR4/4 (にがい赤褐)
第91図6	0013	PL.12	ITr	陶器	土瓶蓋	近世~19C	6.1	-	2.0	良好	7.5YR7/4 (にがい赤)	2.5YR4/4 (にがい赤褐)

種別番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			重量 (g)
							全長	幅	厚さ	
第91図7	0001	PL.12	ITr	鉄製品	蹄鉄	近世	11.1	10.6	0.55	164.3

### 37. 川坂遺跡 第11地区 1次調査

所在地 天間 898-6

調査面積 18,227 m<sup>2</sup> (対象面積 999 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年12月20日

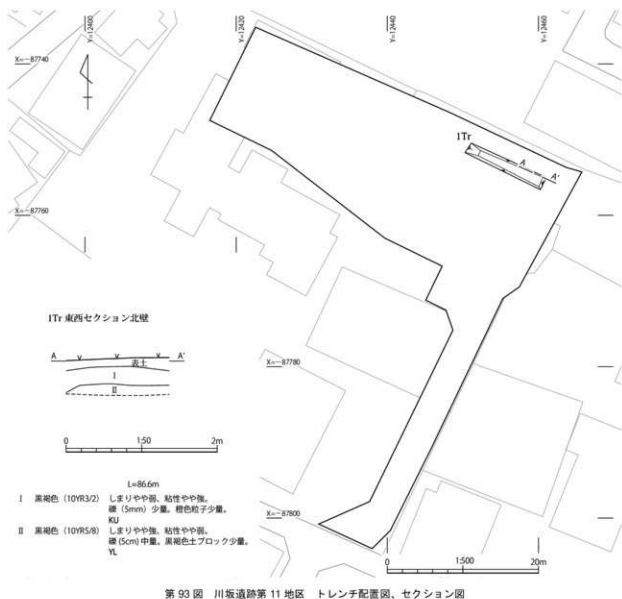
調査の原因 宅地造成

調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下約0.1~0.2mにおいて基盤層である栗色土層 (KU)・休場層 (YL) を検出し、それらの層を中心に精査したものの、遺構や遺物は確認されなかった。敷地内は近代の造成によって基盤層まで削平されており、埋蔵文化財は存在しないものと判断される。



第92図 川坂遺跡第11地区 位置図



### 38. 沖田遺跡 第 166 次調査地点 1 次調査

所在地 今泉五丁目 1087-1

調査面積 3,300 m<sup>2</sup> (対象面積 192.01 m<sup>2</sup>)

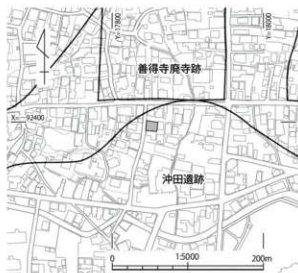
調査期間 令和 3 年 12 月 14 日

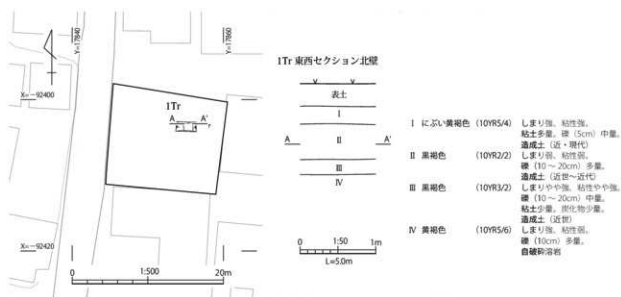
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に 1 箇所のトレンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 近世以降の建物建設に伴う造成の痕跡 (II 層・III 層) や陶磁器片が確認された。出土した陶磁器片には 1820 年代のものが認められることから、造成は 19 世紀前葉に行われたものとみられる。

中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。





第95図 沖田遺跡第166次調査地点 トレンチ配置図、セクション図

### 39. 宇東川遺跡 第32地区 1次調査

所在地 原田623-13

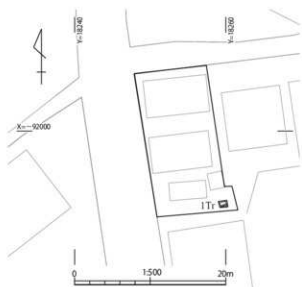
調査面積 0.911㎡ (対象面積 191.17㎡)

調査期間 令和3年12月8日

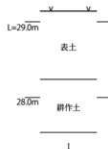
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ(ITr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

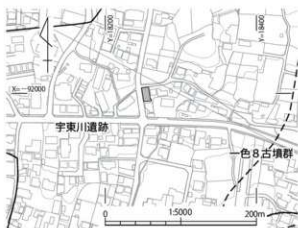
調査の結果 地表下約1.6mにおいて、大淵スコリアを含む土層(1層)を確認したが、地山の検出には至らず遺構を確認することができなかった。土器片が出土したものの、1点のみの出土であり遺物包含層を形成しているとは判断できない。



ITr北壁土層柱状図



第97図 宇東川遺跡第32地区 トレンチ配置図、セクション図



第96図 宇東川遺跡第32地区 位置図

## 40. 沖田遺跡 第167次調査地点1次調査

所在地 比奈880-2

調査面積 3,013 m<sup>2</sup> (対象面積 94.71 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和3年12月28日

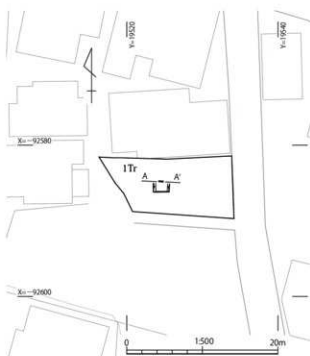
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第98図 沖田遺跡第167次調査地点位置図



第99図 沖田遺跡第167次調査地点 トレンチ配置図、セクション図

ITr 東西セクション北壁



表土

I

II



- I 黒褐色 (25Y3/2) しまりやや強、粘性やや強。  
礫 (5cm) 少量。
- II 褐色 (10YR4/6) しまりやや強、粘性強。  
礫 (10cm) 多量。

## 41. 善得寺廃寺跡 第8地区1次調査

所在地 今泉五丁目1064-1

調査面積 14,584 m<sup>2</sup> (対象面積 999 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和4年2月2日

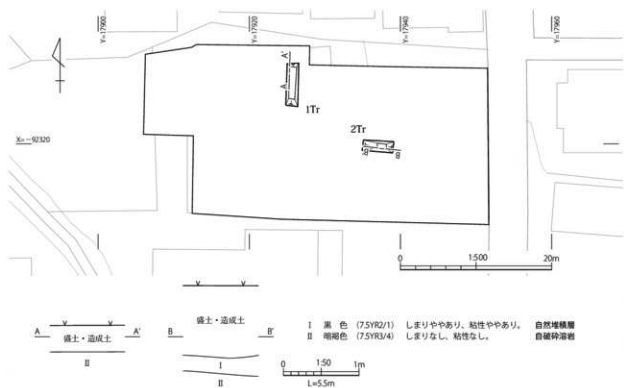
調査の原因 宅地造成

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ (1～2Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第100図 善得寺廃寺跡第8地区位置図



第101図 善得寺庚寺跡第8地区 トレンチ配置図、セクション図

#### 42. 東平遺跡 第145地区 1次調査

所在地 伝法3055-6

調査面積 9.916 m<sup>2</sup> (対象面積 195 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和4年1月31日

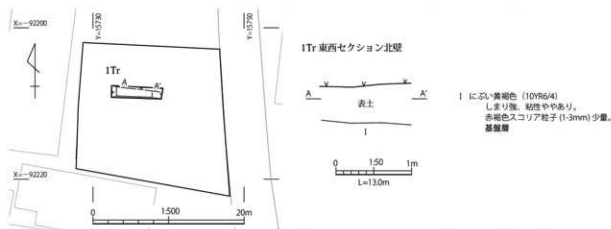
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第102図 東平遺跡第145地区 位置図



第103図 東平遺跡第145地区 トレンチ配置図、セクション図



#### 43. 川坂遺跡 第12地区 1次調査

所在地 天間910-4

調査面積 37,313 m<sup>2</sup> (対象面積 981 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和4年1月27日

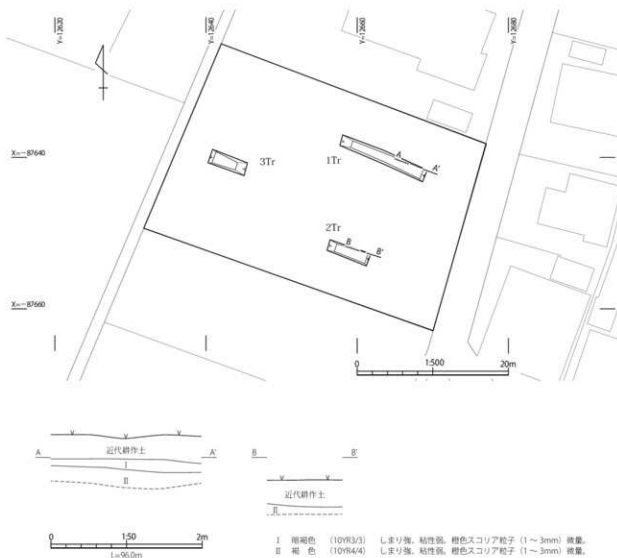
調査の原因 宅地造成

調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチ(1~3Tr)を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下約0.3m以下において基盤層であるI層(KU)やII層(YL)を検出し、それらの層を中心に精査したが、遺構や遺物は確認されなかった。敷地内は近代の造成によって基盤層まで削平され、埋蔵文化財は存在しないものと判断される。



第104図 川坂遺跡第12地区 位置図



第105図 川坂遺跡第12地区 トレンチ配置図、セクション図

#### 44. 天間沢遺跡 第69地区 1次調査

所在地 天間1072-7ほか

調査面積 8,719㎡ (対象面積 230㎡)

調査期間 令和4年2月3日

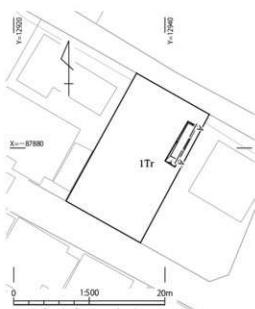
調査の原因 土地売買

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

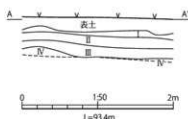


第106図 天間沢遺跡第69地区 位置図



第107図 天間沢遺跡第69地区 トレンチ配置図、セクション図

1Tr 南北セクション東壁



- I 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや強、粘性ややあり。褐色スコリア中量。  
天間沢遺跡標準土層I層 (大沢ラブリ層)
- II 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性ややあり。褐色スコリア少量。  
天間沢遺跡標準土層II層 (KU)
- III 黒色 (10YR2/1) しまりやや強、粘性ややあり。褐色スコリア微量。  
天間沢遺跡標準土層III層 (FB)
- IV 褐色 (10YR4/4) しまり強、粘性あり。灰色土中量。  
天間沢遺跡標準土層IV層 (Zn)

#### 45. 東平遺跡 第146地区 1次調査

所在地 伝法3080-1

調査面積 21,341㎡ (対象面積 303㎡)

調査期間 令和4年2月9日

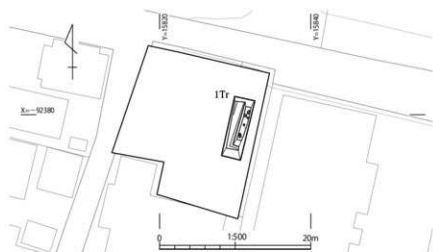
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

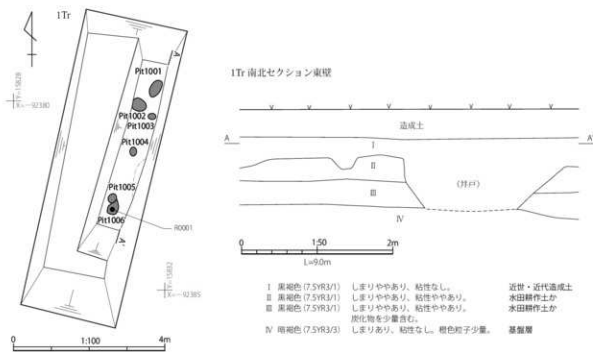
調査の結果 地表下約1.3mから古代 (奈良・平安時代) と想定される遺構 (Pit1001~1006) が検出された。また、遺構から小破片ながら土器が出土した。地山直上は水田耕作土と考えられ、旧表土と想定される土層の堆積は明確ではない。



第108図 東平遺跡第146地区 位置図



第109図 東平遺跡第146地区 トレンチ配置図



第110図 東平遺跡第146地区 トレンチ平面図、セクション図

#### 46. 滝下遺跡 O地区 1次調査

所在地 伝法1942-2ほか

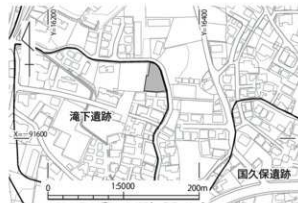
調査面積 9,558 m<sup>2</sup> (対象面積 690 m<sup>2</sup>)

調査期間 令和4年1月31日

調査の原因 建売個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第111図 滝下遺跡O地区 位置図



第112図 潜水遺跡O地区 トレンチ配置図、セクション図

#### 47. 東平遺跡 第147地区 1次調査

所在地 伝法2860-5外

調査面積 6,752㎡ (対象面積 179.04㎡)

調査期間 令和4年2月25日

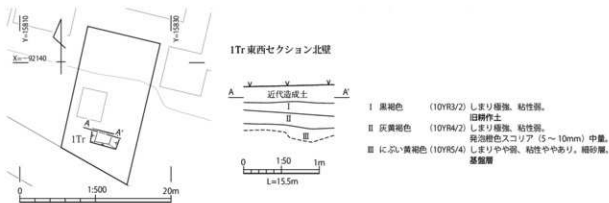
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所の特レンチ (ITr) を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下約0.2mにおいて大淵スコリアを含む古代の自然堆積層とみられる灰黄褐色土層 (II層) を検出した。その前後の層を中心に精査したが、遺構や遺物は確認されなかった。



第113図 東平遺跡第147地区 位置図



第114図 東平遺跡第147地区 トレンチ配置図、セクション図

## 第2章 児森遺跡の調査

### 第1節 児森遺跡の概要

児森遺跡は、富士火山地と愛鷹火山地の境を流れる赤瀬川と、その東を流れる須津川に挟まれた富士市中里の地に所在する集落跡である。赤瀬川東岸の丘陵先端から須津川の扇状地にかけて、東西約140m、南北約245mを包蔵地範囲とし、標高は南で約20m、北で約36mである。

富士火山地・愛鷹火山地の丘陵と浮島ヶ原低地の間には、通称「根方街道」と呼ばれる古道が東西に走る。弥生時代後期以降、この道に沿ってコーカン畑遺跡、宮添遺跡、林宜ノ前遺跡、宇東川遺跡、舟久保遺跡などの集落が営まれ、相互に関係性を有していたとみられる。児森遺跡も、こうした集落のひとつであったとも考えられるが、調査事例が少なく、集落の実態は明らかでない。

児森遺跡でこれまでに発掘調査が行われたのは3箇所（第1～3地区）のみである。

遺跡北端の第1地区では、遺構は確認されなかったが、返りのつく須恵器杯蓋（あるいは坏身）や灰種陶器の碗などが出土している（富士市教育委員会2012b）。平成13年度に実施した第2地区の調査では、現地表下約3.5mの深さで7世紀代の堅穴建物の一部を検出した（富士市教育委員会2012a）。本章次節で報告する第3地区では、ピットから古墳時代前期の土師器高坏が出土している。

児森遺跡西側の丘陵先端部には、古墳時代後期初頭（5世紀末葉～6世紀前葉、TK47～MT15型式併行期）に築造された新興の首長墳である天神塚古墳が現存する。天神塚古墳の墳丘盛土直下には、富士山の噴火活動により5世紀末葉（TK23～TK47）に噴出・降下したとされる大淵スコリアの純粋堆積層が存在し、墳丘盛土と古墳築造以前の自然堆積土からは、古墳時代前期（大廓式期）から後期初頭（TK23～TK47）の遺物が出土している。このことから、周辺に当該期の集落（天念寺遺跡）が存在し、集落が大淵スコリアの降下により被害を受け衰退し

た後に、天神塚古墳が築造されたことが想定されている（藤村2012）。

児森遺跡から北北西に500mほどの赤瀬川東岸に位置する向山遺跡、中尾沢遺跡では、古墳時代前期（大廓式Ⅱ期）に位置づけられる土器を伴う集落跡が確認されているが、その存続期間は短期間と推定されている（静岡県埋蔵文化財センター2013）。

児森遺跡周辺には、天神塚古墳を始めとし、馬形埴輪が出土した寺屋敷古墳（MT15～TK10）、琴平古墳（後期中葉～後葉、TK10～TK43）、中里大久保古墳（6世紀末葉～7世紀初頭、TK209～飛鳥Ⅰ）などの多数の古墳が築かれている。

児森遺跡の西に隣接する天念寺遺跡では、令和元年度の調査で奈良時代の堅穴建物1軒を検出している（中里2古墳群第3地区として調査。）（富士市教育委員会2021）。

児森遺跡、天念寺遺跡とも調査事例が少ないため、当地に営まれた集落の実態は明らかでないが、少なくとも古墳時代前期から奈良時代に至るまで、集落として、あるいは墓域として、当地に連続と人の営みがあり続いた様子を見てとることが出来る。

#### 参考文献

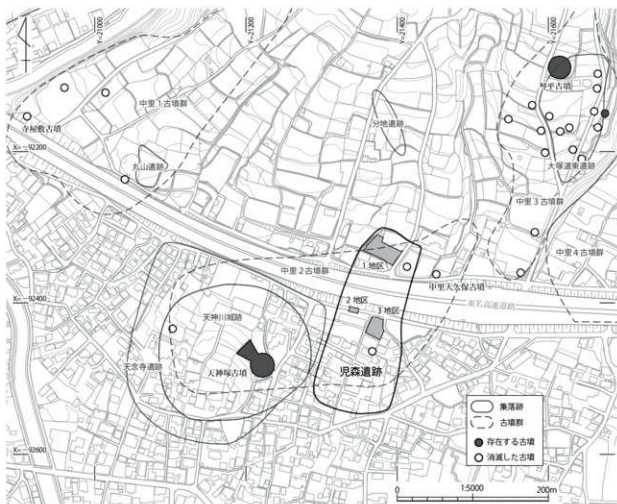
- 静岡県埋蔵文化財センター 2013『富士岡1古墳群他』静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第37集  
 富士市教育委員会 2012a『児森遺跡 第2地区』『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市埋蔵文化財調査報告 第51集  
 富士市教育委員会 2012b『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成11・12年度』富士市埋蔵文化財調査報告 第53集  
 富士市教育委員会 2021『富士市内遺跡発掘調査報告書 一令和元年度』富士市埋蔵文化財調査報告 第70集  
 藤村 翔 2012『古墳時代後期初頭における2つの首長墳とその評価』『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成11・12年度』富士市教育委員会



第115図 児森遺跡の位置



第116図 周辺遺跡分布図



第117図 児森遺跡 調査履歴図

第11表 児森遺跡 調査履歴一覧表

地区	次	調査年度	調査種別	所在地	調査の契機	調査期間	遺構	遺物	報告書
1地区	1次	H11	確認	中里 1638-1 外	製茶工場建設	19990712 ~ 19990715	なし	須恵器・灰釉陶器	A
2地区	1次	H13	確認	中里 1380-1 地先	消防水利整備	20010904	壱穴建物	土師器・須恵器	B
2地区	2次	H13	本発掘	中里 1380-1 地先	消防水利整備	20010905 ~ 20010906	壱穴建物	土師器・須恵器・陶器	C
3地区	1次	R03	確認	中里 1379-1	宅地造成	20211206	ピット	土師器	本書
3地区	2次	R03	本発掘	中里 1379-1	宅地造成	20211220 ~ 20211222	ピット	土師器	本書

## 【報告書】

A 『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成11・12年度一』富士市埋蔵文化財調査報告 第53集 (2012)

B 『平成13年度 富士市内遺跡・伝法因久保古墳 埋蔵文化財発掘調査報告書』(2011)

C 『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市埋蔵文化財調査報告 第51集 (2012)

## 第2節 児森遺跡第3地区の調査成果

### 1 調査の概要

#### 確認調査に至る経緯

土地所有者(個人)は富士市中里1379番1(496㎡)において宅地造成工事を計画した。

当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「児森遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。



第118図 児森遺跡第3地区 位置図



第119図 児森遺跡第3地区 トレンチおよび本調査区配置図

令和3年11月26日、土地所有者から富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」と「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて、文化振興課職員による確認調査を実施することとなり、静岡県知事宛に、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を提出した(令和3年12月3日付け富市文発第774号)。

#### 確認調査(1次調査)

確認調査は令和3年12月6日に実施した。

敷地の南寄りに東西方向のトレンチを1本設定し(1Tr、17.067㎡)、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

その結果、地表下0.75mで、古墳時代前期の高坏(第121図1)などの遺物と、ビット1基(Pit1001)を検出した。

出土した遺物については、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(令和3年12月8日付け富市文発第785号)を、静岡県知事宛に「出土品保管証」(令和3年12月8日付け富市文発第785-2号)を提出し、静岡県知事により埋蔵文化財の認定を受けている(令和3年12月20日付け文財第2072号)。

確認調査の結果について、土地所有者ならびに静岡県知事宛に「発掘調査結果概要」(令和3年12月10日付け富市文発第793号)を提出した。

#### 本発掘調査に至る経緯

事業者(個人)は当該地において個人住宅新築工事を計画した。確認調査の結果を受けて、埋蔵文化財の現地保存についての協議を行ったものの、敷地の擁壁設置部分については掘削が深くまで及ぶため、現地保存が不可能である、との結論に至った。

事業者から提出された文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」を静岡県知事に進達し(令和3年12月10日付け富市文発第798号)、これに対して静岡県知事から、擁壁設置部分について本発掘調査を実施するように指示が通知された(令和3年12月13日付け文財第1995号)。



この通知を受けて、文化振興課職員による本発掘調査を実施することとなり、静岡県知事宛に、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を提出した（令和3年12月16日付け富市文発第832号）。調査に係る費用は『国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金』および、『静岡県文化財保存費補助金』を充てることとした。

#### 本発掘調査（2次調査）

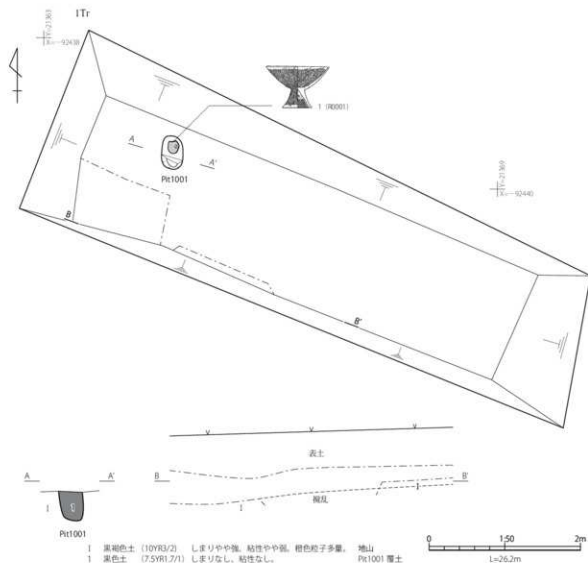
本発掘調査は、敷地南端の擁壁設置部分を本調査区（64.624㎡）とし、令和3年12月20日から12月22日にかけて実施した。

重機により表土を除去した後、人力による精査を行った。その結果、ピット3基（Pit2001～2003）

と不明遺構1基（SX2001）を検出した。その後、遺構の掘削、遺物の取り上げ、測量と写真撮影による記録作業などを行い、調査を終了した。

出土した遺物については、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（令和3年12月27日付け富市文発第848号）を、静岡県知事宛に「出土品保管証」（令和3年12月27日付け富市文発第848-2号）を提出し、静岡県知事により埋蔵文化財の認定を受けている（令和4年1月11日付け文財第2237号）。

本発掘調査の完了について事業者に報告し（令和3年12月23日付け富市文発第856号）、調査結果について事業者ならびに静岡県知事宛に「発掘調査結果概要」（令和3年12月27日付け富市文発第863号）を提出した。



第120図 児森遺跡第3地区 確認調査1トレンチ 平面図、セクション図

## 調査体制

児森遺跡第3地区に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体] 富士市教育委員会 教育長 森田嘉幸  
 [担当機関] 富士市役所市民部 部長 有川 一博  
 文化振興課 課長 久保田伸彦  
 文化財担当 統括主幹 植松良夫  
 参事 楠 石川武男  
 調査担当 主査 佐藤祐樹  
 調査員 小島利史  
 若林美希  
 調査補助員 渡辺美規子

## 2 調査の成果

### 確認調査

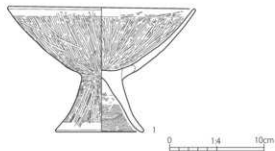
敷地の南寄りに設定した1Trにおいて、地表下0.75 mで高坏1点（第121図1）が出土した。周囲を精査したところ、高坏を内包するピットのプランを検出し（Pit1001）、半截した。

### ・ピット

Pit1001の平面は楕円形、断面はU字形を呈し、規模は長軸44cm、短軸28cm、深さ40cmを測る。

### ・遺物

Pit1001から高坏1点（第121図1）が出土した。脚部はハの字状に開き、脚部の上部が坏部の底となる。坏部は直線的に開き、内外面の全面に丁寧なヘラミガキが施される。脚部外面は縦ハケ目後、縦ヘラミガキで、坏部との接合部のみ横ヘラミガキを施す。脚部内面は横ハケ目調整で整えられる。古墳時代前期（大塚Ⅲ～Ⅳ式）に位置づけられる。



第121図 児森遺跡第3地区 出土遺物実測図

## 本発掘調査

本調査では、敷地南端の擁壁設置部分を本調査区として調査を行った。その結果、ピット3基（Pit2001～2003）と不明遺構1基（SX2001）を検出・完掘し、記録保存を行った。

### ・ピット

Pit2001～2003は調査区中央でまとまって検出された。その配置に規則性は認められない。規模等の詳細は第13表に示す。

### ・不明遺構

SX2001は調査区西端で遺構プランの東辺を検出した。検出された東辺は長さ1.68 mを測る。西辺は調査区外に位置するため全体の規模は不明であるが、検出幅は2.33 m、深さは0.95 mを測る。

東壁は上端から垂直に近く下がり、65cmほどの深さでひとつめの平坦面（中段）となる。中段の幅は45～80cmを測り、径約20cm、深さ約28cmのピット2基（SX2001Pit01～02）が掘り込まれている。中段から緩やかに下がってふたつ目の平坦面（下段）となり、調査区外に至る。この緩やかな斜面から下段にかけて径約40cm、深さ約40cmのピット1基（SX2001Pit03）が掘り込まれている。

SX2001に伴う遺物はなく、明確な時期は不明であるが、戦時中の退避壕として掘られた可能性が考えられる。

### ・遺物

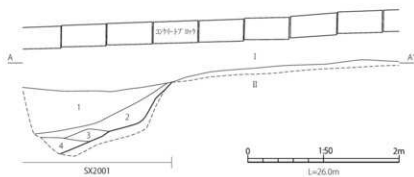
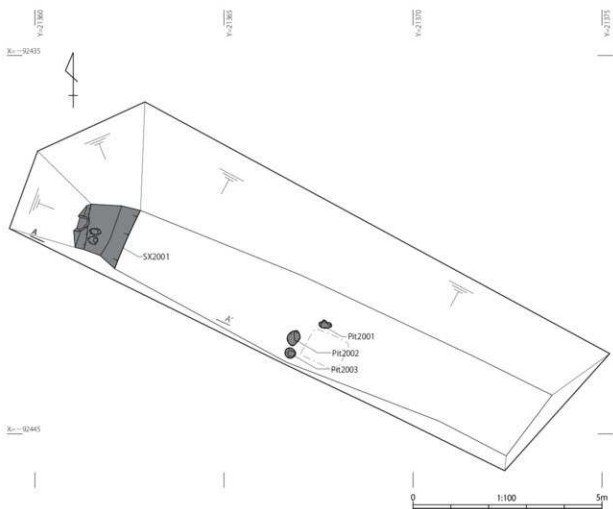
表土掘削の際に少量の土器片が出土したが、図化には至らなかった。

第12表 児森遺跡第3地区 出土遺物観察表

拝発番号	R番号	写真 図版	出土 遺物	種別	細別	時代								
第121図1	0001	PL-18	1Tr	Pit1001	土器部	高坏	古墳							
					残存 口縁	底径	器高	焼成 率	内面色調	外面色調				
					19.6	9.1	13.2	13.2	良好	90%	2.5YR6/8	(照)	2.5YR6/8	(照)

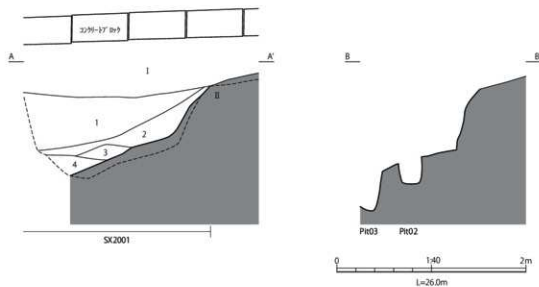
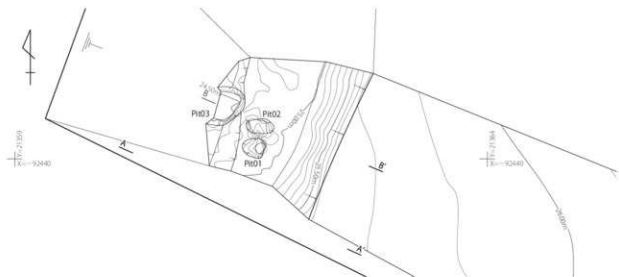
第13表 児森遺跡第3地区 ピット一覧表

遺構 番号	種別	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	出土 遺物
2001	Pit	35	22	32	不整形	丸底	—
2002	Pit	42	30	33	楕円形	丸底	—
2003	Pit	29	28	12	正円形	浅い丸底	—



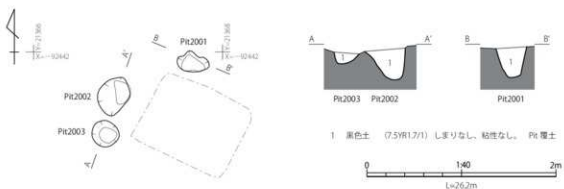
- |    |               |                                     |           |
|----|---------------|-------------------------------------|-----------|
| 1  | 黄褐色 (10YR3/2) | しまりやや弱、粘性やや弱。礫 (5~10mm) 少量。         | 旧耕作土      |
| II | 褐色 (10YR4/6)  | しまり強、粘性強。棕色粒子微量。                    | 地山        |
| 1  | 黄褐色 (10YR3/2) | しまりやや強、粘性やや強。褐色粒子少量。礫 (2~3cm) 少量。   | SX2001 覆土 |
| 2  | 黄褐色 (10YR2/2) | しまりやや強、粘性やや強。黄褐色土ブロック少量。礫 (5mm) 微量。 | SX2001 覆土 |
| 3  | 褐色 (10YR4/4)  | しまり強、粘性強。黄褐色土ブロック多量。                | SX2001 覆土 |
| 4  | 黄褐色 (10YR2/2) | しまり強、粘性やや強。黄褐色土ブロック中量。              | SX2001 覆土 |

第122図 児森遺跡第3地区 本調査区 全体図、セクション図



- |     |               |  |           |
|-----|---------------|--|-----------|
| 1   | 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや弱, 粘性やや弱, 礫 (5~10mm) 少量。          | 旧耕作土      |
| II  | 褐色 (10YR4/6)  | しまり強, 粘性強, 褐色粒子微量。                     | 地山        |
| III | 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや強, 粘性やや強, 褐色粒子少量, 礫 (2~3cm) 少量。   | SK2001 覆土 |
| 2   | 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや強, 粘性やや強, 黄褐色土ブロック少量, 礫 (5mm) 微量。 | SK2001 覆土 |
| 3   | 褐色 (10YR4/4)  | しまり強, 粘性強, 黄褐色土ブロック多量。                 | SK2001 覆土 |
| 4   | 黒褐色 (10YR2/2) | しまり強, 粘性やや強, 黄褐色土ブロック中量。               | SK2001 覆土 |

第 123 図 児森遺跡第 3 地区 SX2001 平面図、セクション図



- 1 黒色土 (7.5YR1.7/1) しまりなし, 粘性なし。 Pit 覆土

第 124 図 児森遺跡第 3 地区 Pit2001~2003 平面図、セクション図

## 第3章 大道上遺跡の調査

### 第1節 大道上遺跡の概要

大道上遺跡は愛鷹山南麓に延びる丘陵先端部の標高5～18mほどの緩斜面上に立地する遺物散布地である。本遺跡の遺物散布量は比較的多く、縄文時代および弥生時代後期の土器、石器が採集されている。しかし、これまでに発掘調査が実施されたことはなく、遺跡の実態については明らかでない。

愛鷹火山地の丘陵と浮島ヶ原低地の間には、通称「根方街道」と呼ばれる古道が東西に走る。弥生時代後期以降、この道に沿ってコーカン畑遺跡、宮添遺跡、林宜ノ前遺跡、宇東川遺跡、舟久保遺跡などの集落が営まれ、相互に関係性を有していたとみられる。

大道上遺跡の西に隣接する場的遺跡においても、東海道新幹線の敷設工事に先立って昭和37年に行われた発掘調査で、弥生時代後期から古墳時代初頭の竪穴建物が6軒、古墳時代後期前葉の竪穴建物が2軒発見されている。遺物は、縄文時代中期の土器と石器、弥生時代中期中葉から古墳時代初頭の土器、古墳時代後期の土師器・須恵器が出土している。また、平安時代末期あるいは鎌倉時代初頭と推定される陶質土器片・瓦塔破片が出土している。

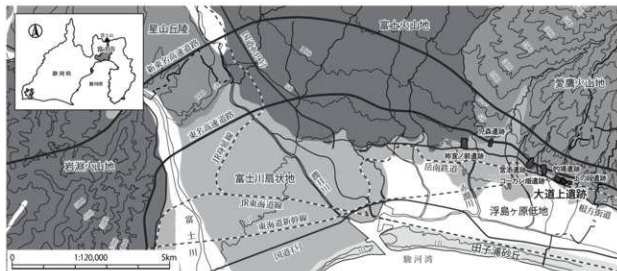
大道上遺跡の東に隣接する上の段遺跡では、配石遺構や埋壘など、縄文時代中期後半を主体とする遺構・遺物が検出されている。

また、大道上遺跡の近辺には、剣3振と玉類が出土した栗師塚古墳（船津L-第131号墳）や、眉庇付きの金銅製冑が出土したと伝わる上ノ段古墳（船津L-第129号墳）などがかつて存在した。

こうした集落跡や古墳に囲まれた場所に立地することから、大道上遺跡にも同時期の集落跡などが存在した可能性が高く、発掘調査によって実態が明らかになることが期待される遺跡のひとつである。

#### 参考文献

- 静岡県教育委員会 1965 『4 栗師塚古墳』『東海道新幹線静岡県内工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』静岡県文化財調査報告書 第6集
- 静岡県教育委員会 1965 『5 的場遺跡』『東海道新幹線静岡県内工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』静岡県文化財調査報告書 第6集
- 富士市教育委員会 1986 『富士市の埋蔵文化財（遺跡編）』
- 富士市教育委員会 1988 『富士市の埋蔵文化財（古墳編）』
- 吉原市教育委員会 1958 『吉原市の古墳』



第125図 大道上遺跡の位置

## 第2節 大道上遺跡第1地区の調査成果

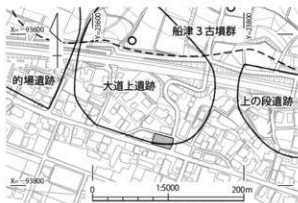
### 1 調査の概要

#### 確認調査に至る経緯

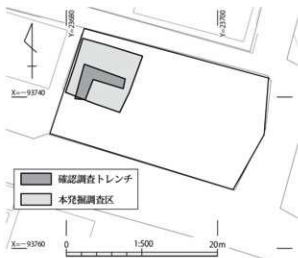
事業者(個人)は富士市境303番地の3(424.77㎡)において個人住宅の建設を計画した。

当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「大道上遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

令和3年11月19日、事業者から富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」と「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて、文化振興課職員による確認調査を実施することとなり、静岡県知事宛に、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を提出した(令和3年11月30日付け富市文発第769号)。



第126図 大道上遺跡第1地区 位置図



第127図 大道上遺跡第1地区 トレンチおよび本調査区配置図

#### 確認調査(1次調査)

確認調査は令和3年12月1日から12月2日にかけて実施した。

敷地の西寄りにL字形のトレンチを1箇所設定し(1Tr, 12.876㎡)、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

その結果、地表下約0.3mにおいて、古墳時代から飛鳥時代の堅穴建物とみられる遺構(SB1001)と、少量の土器片を検出した。

出土した遺物については、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(令和3年12月7日付け富市文発第783号)を、静岡県知事宛に「出土品保管証」(令和3年12月7日付け富市文発第783-2号)を提出し、静岡県知事より埋蔵文化財の認定を受けている(令和3年12月20日付け文財第2071号)。

確認調査の結果について、事業者ならびに静岡県知事宛に「発掘調査結果概要」(令和3年12月10日付け富市文発第789号)を提出した。

#### 本発掘調査に至る経緯

確認調査の結果を受けて、埋蔵文化財の現地保存についての協議を行ったものの、住宅建設箇所については掘削が深くまで及ぶため、現地保存が不可能である、との結論に至った。

事業者から提出された文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」を静岡県知事に進達し(令和3年12月10日付け富市文発第802号)、これに対して、遺跡の保護が図れない部分について本発掘調査を実施するように指示が通知された(令和3年12月24日付け文財第2105号)。

この通知を受けて、文化振興課職員による本発掘調査を実施することとなり、静岡県知事宛に、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を提出した(令和4年1月5日付け富市文発第872号)。調査に係る費用は『国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金』および、『静岡県文化財保存費補助金』を充てることとした。

### 本発掘調査（2次調査）

本発掘調査は住宅建設箇所を本調査区(62,564 m<sup>2</sup>)とし、令和4年1月12日から1月27日にかけて実施した。

重機により表土を除去した後、人力による精査を行った。その結果、方形土坑2基(SK2001～2002)、溝状遺構1条(SD2001)、ピット10基(Pit2001～2010)などを検出した。確認調査(1次調査)で検出した遺構(SB1001)は方形土坑(SK2001)であることが判明した。その後、遺構の掘削、遺物の取り上げ、測量と写真撮影による記録作業などを行い、調査を終了した。

出土した遺物については、富士警察署長宛に「埋藏物の発見届」(令和4年2月1日付け富市文発第930号)を、静岡県知事宛に「出土品保管証」(令和4年2月1日付け富市文発第930-2号)を提出し、静岡県知事により埋藏文化財の認定を受けている(令和4年2月9日付け文財第2427号)。

本発掘調査の調査結果について事業者ならびに静岡県知事宛に「発掘調査結果概要」(令和4年2月9日付け富市文発第952号)を提出した。

### 調査体制

大道上遺跡第1地区に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

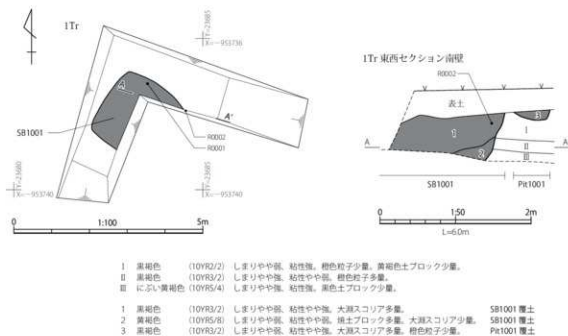
[調査主体]富士市教育委員会 教育長 森田嘉幸  
[担当機関]富士市役所市民部 部長 有川一博  
文化振興課 課長 久保田伸彦  
文化財担当 統括主幹 植松良夫  
参事補 石川武男  
調査担当主査 佐藤祐樹  
調査員 小島利史  
調査補助員 服部孝信  
渡辺美規子

## 2 調査の成果

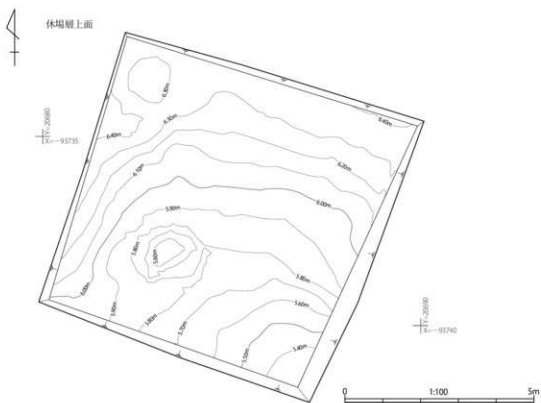
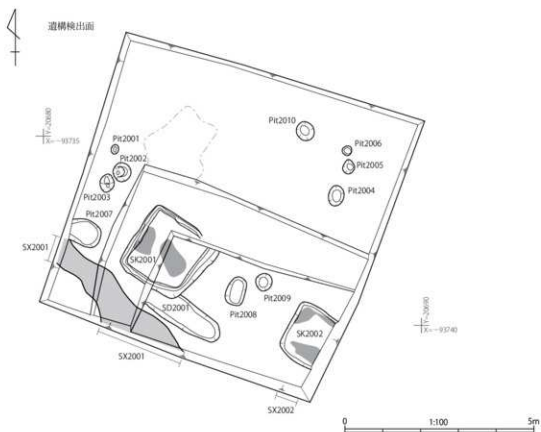
### 確認調査

敷地の西寄りにL字形に設定した1Trの地表下約0.3mにおいて1辺2mほどと推定される竪穴建物(SB1001)を検出した。覆土には大量の大濶スコリアが含まれており(1層)、古墳時代から飛鳥時代の遺構と推定される。

遺物は縄文時代および古墳時代に位置づけられる土器片が少量出土したが、図化には至らなかった。



第128図 大道上遺跡第1地区 確認調査1トレンチ 平面図、セクション図



第129図 大道上遺跡第1地区 本調査区全体図



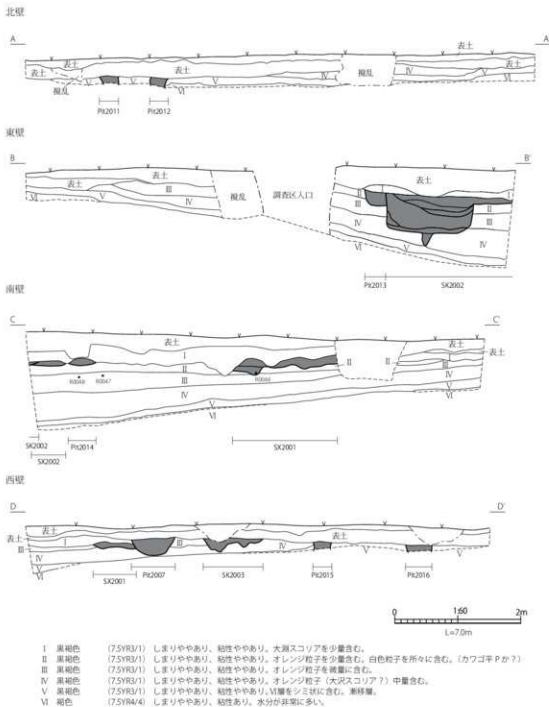
## 本発掘調査

住宅建設箇所を本調査区とした。その結果、断面のみで確認されたものも含めて、方形土坑2基(SK2001～2002)、土坑1基(SK2003)、溝状遺構1条(SD2001)、ピット16基(Pi2001～2016)、不明遺構2基(SX2001～2002)を検出・完掘し、記録保存を行った。確認調査で検出されたSB1001は、方形土坑SK2001であることが確認された。

## ・方形土坑

## SK2001

確認調査でSB1001とした遺構である。1辺1.9m四方の方形のプランで、検出面からの深さは45cmを測る。壁は直線的に立ち上がり、遺構床面では、幅15cmほど、深さ6cmほどの溝が壁に沿って全周する。南に位置するSD2001を切っている。



第130図 大道上遺跡第1地区 本調査区セクション図

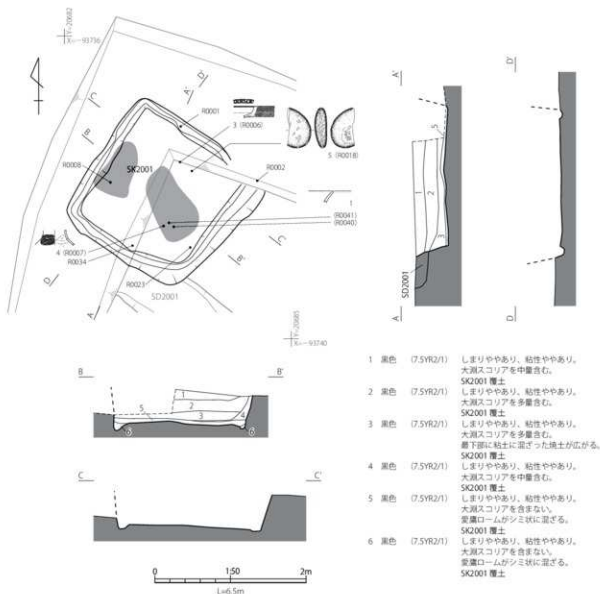
覆土（1～3層）に大瀬スコリアと推定されるスコリアを多量に含むが、このスコリアが古墳時代中期末に降下したものか、7世紀に降下したものかは不明である。また、3層下部には粘土に混ざった焼土が部分的にひろがるものの、炉やカマドといった焼土施設が存在した痕跡はない。覆土の最下層（5層）には大瀬スコリアを含まない。

大瀬スコリアを含む層からは縄文時代や弥生時代後期の遺物が出土するが、大瀬スコリアを含まない5層から出土した遺物（第137図1）は、古墳時代中期末から後期初頭に位置づけられる。

常葉大学の嶋野先生のご教示によれば、スコリアが遺構内に直接降下したものと考えられず、遺構

の掘り込みに5層が自然堆積した後、降雨などによる土石流などで、北西方向の丘陵からスコリアが縄文時代、弥生時代の遺物とともに流れ込み、堆積したものと推定される。本遺構の時期は、最下層（5層）の遺物から、古墳時代中期末から後期初頭と判断される。

遺構完掘後、調査区全体を休場層まで掘削したところ、本遺構の場所が窪地となっていることが判明した。窪地を選んで本遺構がつけられていたと考えられ、本遺構の用途としては、井戸が想定される。遺構床面で壁沿いに全周する溝は、井戸枠などの設置に伴うものと考えられる。



第131図 大道上遺跡第1地区 SK2001 平面図、セクション図

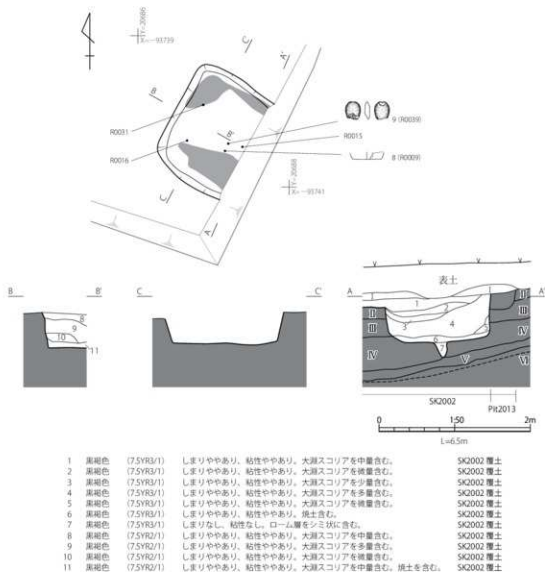
## SK2002

調査区の南東部分で検出した。遺構の東半は調査区外に位置する。南北幅 1.56 m、東西検出幅 1.10 m、検出面からの深さは 50cm を測る。SK2001 の床面にあるような溝は確認されない。覆土の最下層には焼土が部分的に広がるが、検出部分には炉やカマドなどといった燃焼施設の痕跡はない。用途は SK2001 と同様に井戸と想定され、SK2001 よりやや小規模なものと思われる。調査区東壁で確認される南北セクションでは、床面の中央に幅 17cm、深さ 20cm の掘り込みが認められるが、これが遺構の機能に関わる人為的な掘削なのか、あるいは自然現象によるものなのかは、明らかでない。

## ・土坑

## SK2003

調査区の西壁土層断面で検出された土坑である。断面は不整形で、III層を掘り込み、覆土には大溜スコーリアを少量含む。



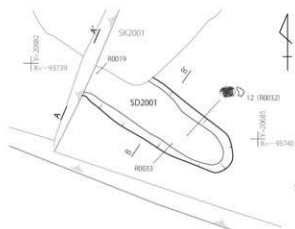
第132図 大道上遺跡第1地区 SK2002 平面図、セクション図

## ・溝状遺構

## SD2001

SK2001の南に位置する、東西方向の溝である。確認調査時には判然とせず、西半はトレンチ掘削により失われている。東端はまるくおさまり、北辺の一部をSK2001に切りられている。幅0.73m、残存長2.20m、検出面からの深さ16cmを測る。広く平らな底面をもち、断面形は逆台形を呈する。覆土には大淵スコリアを多く含む。

井戸と推定されるSK2001と切り合うが、SK2001に伴う溝として、排水などの機能を有した可能性も考えられる。



第133図 大道上遺跡第1地区 SD2001 平面図、セクション図

## ・ピット

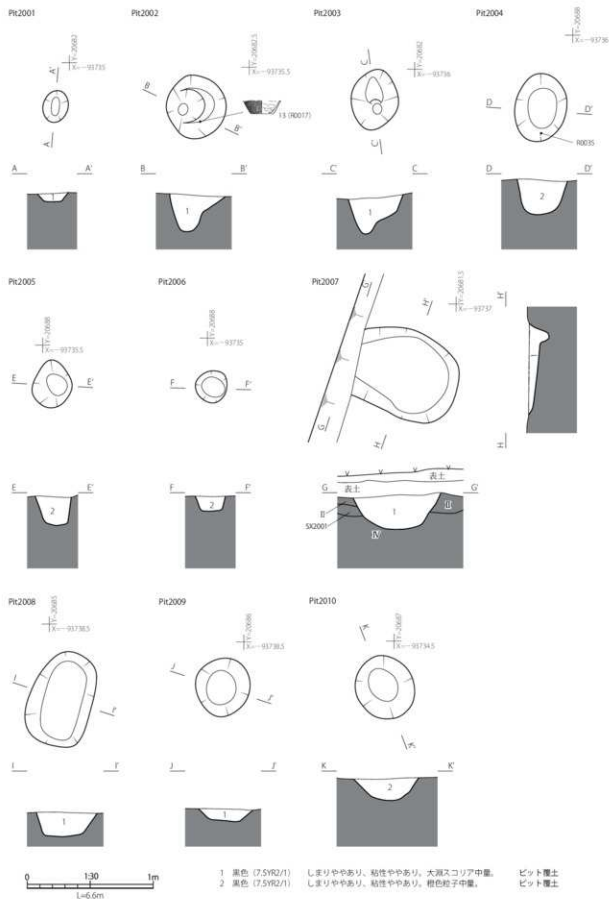
16基のピット (Pit2001～2016) を検出した。ただし、そのうち6基 (Pit2011～2016) は調査区壁面で断面のみが確認されたものである。平面が確認された10基は、調査区全体に散在し、他の遺構と切り合うものはない。覆土は、大淵スコリアを含むもの(1層)と、大沢スコリアを含むもの(2層)とに大別される。ピットの配置に規則性は認められず、掘立柱建物や櫓列などを構成する可能性は低い。規模等の詳細は第14表に示す。

1 黒色 (7SYR2/1) しまりややあり、粘性ややあり、大淵スコリアを中量含む、SD2001覆土

0 150 2m

第14表 大道上遺跡第1地区 ピット一覧表

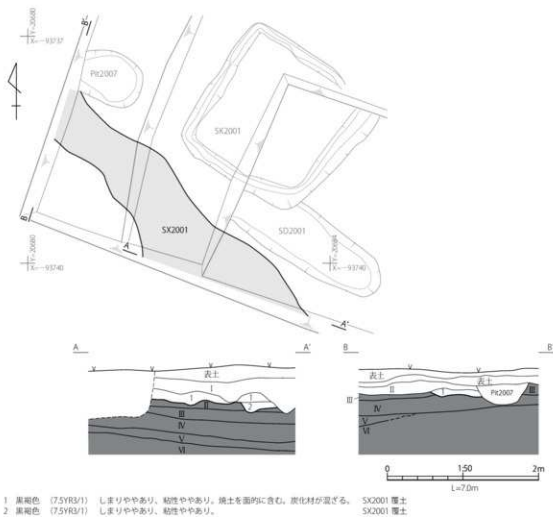
遺構番号	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	出土遺物	その他
2001	Pit	23	19	7	楕円形	浅い丸底		
2002	Pit	47	44	28	楕円形	有段丸底	R0017 R0024 R0037	
2003	Pit	43	33	28	楕円形	有段丸底	R0025	
2004	Pit	51	37	27	楕円形	浅い丸底	R0035 R0036	
2005	Pit	33	26	24	楕円形	丸底		
2006	Pit	24	23	23	正円形	丸底		
2007	Pit	(82)	71	7	楕円形	浅い平底		
2008	Pit	76	47	19	楕円形	浅い丸底	R0038	
2009	Pit	44	39	9	正円形	浅い丸底		
2010	Pit	52	45	18	楕円形	浅い丸底		
2011	Pit							調査区北壁で検出
2012	Pit							調査区北壁で検出
2013	Pit							調査区東壁で検出
2014	Pit							調査区南壁で検出
2015	Pit							調査区西壁で検出
2016	Pit							調査区西壁で検出



第134図 大道上遺跡第1地区 ビット 平面図、セクション図

・不明遺構

SX2001～2002の2基を検出した。いずれも調査区壁面で断面のみが確認されたもので、明確な平面プランや規模などは不明である。覆土には焼土や炭化材が含まれる。



第135図 大道上遺跡第1地区 SX2001 平面図、セクション図



第136図 大道上遺跡第1地区 SX2002 平面図、セクション図

## ・出土遺物（第137図）

1～5はSK2001から出土した遺物である。覆土最下層（5層）から出土した1が遺構の時期を示す遺物であり、2～5は流れ込んだ遺物と判断される。

1は古墳時代中期末から後期初頭に位置づけられる土師器甕の口縁部片である。

2は縄文土器の口縁部片である。器壁に対して垂直の棒状工具による刺突と、上斜めからの竹管状工具による刺突が、横方向の沈線に沿って規則的に施される。五領ヶ台式併行の中期初頭の土器である。3と4は弥生土器である。3は複合口縁の壺の複合部で、外面には細かい羽状縄文、端部にはキザミが施される。上部の平坦面には縄文施文後、円形貼付文が施される。4は壺の頸部で、外面に細かい縄文が施される。5は磨砕石である。片面の一部に磨り面が、側縁に沿って敲打痕が認められる。

6～10はSK2002から出土した遺物であるが、SK2001と同様流れ込んだ遺物と判断される。

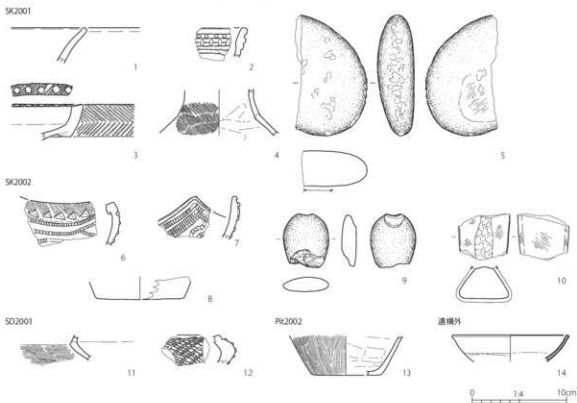
6・7は縄文土器の口縁部片である。6は縄文施文後、横方向に三角形の刺突文が連続する。その下部には細い隆帯が横方向に貼り付けられ、隆帯上には半裁竹管状工具による連続刺突が施される。五領ヶ

台式併行の中期初頭の土器である。7は波状口縁で、口縁に沿って施された細い隆帯上に、半裁竹管状工具による連続刺突が施文される。縄文時代中期、北裏C式の土器である。8は縄文土器の底部片である。底面は平坦で、網状痕などは認められない。9は打欠石錘である。10は断面が台形を呈する磨砕石で、短辺の1面を敲打面とし、残る3面を磨り面としている。

11・12はSD2001から出土した。11は土師器甕の頸部片で、内面を横ハケ目調整している。12は縄文土器の破片で、器壁を肥厚させた部分に斜め方向の沈線を施文し、沈線と交差するように斜めの棒状浮文を貼り付けている。五領ヶ台式併行の中期初頭の土器である。

13はPt2002から出土した土師器の遠江系長胴甕の底部である。内面はヨコナデ、外面は縦ハケ目調整である。8世紀代（富士I～富士III）に位置づけられる。

14は遺構外出土の灰軸陶器碗である。体部内外面に漬掛け施軸され、施軸方法からはO-53型式以降とみられるが、高台がなく、時期の特定はできない。



第137図 大道上遺跡第1地区 出土遺物実測図

第15表 大道上遺跡第1地区 出土遺物観察表

神田番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			地蔵 保存 率	内面色調	外面色調	
							口径	底径	器高				
第137図1	0040 0041	PL.26	SK2001	土師器	甕	古墳	-	-	-	良好	-	7.5YR7/6 (橙)	5YR7/6 (橙)
第137図2	0028	PL.26	SK2001	縄文土器		五領+台式併行	-	-	-	良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)
第137図3	0006	PL.26	SK2001	弥生土器	甕	弥生	-	-	-	良好	-	7.5YR8/6 (浅黄褐)	5YR7/6 (橙)
第137図4	0007	PL.26	SK2001	弥生土器		弥生	-	-	-	良好	-	7.5YR8/6 (浅黄褐)	7.5YR8/6 (浅黄褐)
第137図6	0044	PL.26	SK2002	縄文土器		五領+台式併行	-	-	-	良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)
第137図7	0044	PL.26	SK2002	縄文土器		北真C式	-	-	-	良好	-	10YR4/2 (灰黄褐)	7.5YR6/4 (濃い橙)
第137図8	0009	PL.26	SK2002	縄文土器			-	(9.0)	(2.4)	良好	40%	10YR5/3 (濃い黄褐)	7.5YR7/6 (橙)
第137図11	0012	PL.26	SD2001	土師器	甕		-	-	-	良好	-	7.5YR7/4 (濃い橙)	7.5YR7/4 (濃い橙)
第137図12	0032	PL.26	SD2001	縄文土器		五領+台式併行	-	-	-	良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR6/6 (橙)
第137図13	0017	PL.26	PG2002	土師器	長柄甕	8世紀	-	[7.2]	(4.1)	良好	20%	10YR3/3 (暗褐)	2.5Y7/3 (浅黄)
第137図14	0011	PL.26	遺構外	灰釉陶器	碗		[12.2]	-	(2.8)	良好	-	7.5Y7/2 (灰白)	7.5Y7/2 (灰白)

神田番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別	細別	時代	法量 (cm)			重量 (g)
							全長	幅	厚さ	
第137図5	0018	PL.26	SK2001	石器	磨製石		12.7	7.0	3.8	520.74
第137図9	0039	PL.26	SK2002	石器	石錘		5.7	4.7	1.5	55.99
第137図10	0044	PL.26	SK2002	石器	磨製石		4.6	5.3	3.3	131.13



# 第4章 国指定史跡 浅間古墳レーザー測量報告

## 第1節 浅間古墳をめぐるこれまでの調査・研究概要

静岡県富士市増川に所在する浅間古墳は、古墳時代を通じて県内最大規模を有する前方後方墳として、昭和32年7月1日に国指定史跡に指定されている。かつては、足立銀太郎氏により大型の前方後円形の崩れたものとして認識され（足立1927・静岡縣1930ほか）、現在でも文化庁のホームページでは「富士山麓に近い広潤な緩傾斜の地域に存するもので前方部をほぼ東南に面する前方後円型をなしている。主軸の長さ約97メートルを有し、葺石の一部が存する。後円部に浅間神社の社殿が存し、やや旧規を損しているが、発掘の厄にあわず、駿河地方における壮大な墳丘として価値高いものがある。」とあることから、行政的には、当時の『旧縣史』での認識が引き継がれてしまっている。

指定時の官報（第9154号）には、以下のようである。

### 文化財保護委員会告示 第四十五号

文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第六十九条第一項の規定により、次のとおり指定する。

昭和三十二年七月一日

文化財保護委員会委員長 河井 彌八  
種別 史跡 名称 浅間古墳  
所在地 静岡県吉原市大字増川字西村  
地域 六二四番、六二五番ノ一、六二五番ノ二 右地域内に介在する道路敷

④文化財保護委員会告示第四十五号  
文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第六十九条第一項の規定により、次のとおり指定する。  
昭和三十二年七月一日  
種別 史跡 名称 浅間古墳  
所在地 静岡県吉原市大字増川字西村  
地域 六二四番、六二五番ノ一、六二五番ノ二 右地域内に介在する道路敷

第138図 浅間古墳 指定告示

④文化財保護委員会告示第十六号  
文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第七十一条の第二項の規定により、史跡浅間古墳（昭和三十二年文化財保護委員会告示第四十五号）の管理団体として、大府府原郡市を指定する。  
昭和三十三年二月十三日  
文化財保護委員会委員長 河井 彌八

④文化財保護委員会告示第十七号  
文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第七十一条の第二項の規定により、史跡増山古墳（昭和三十一年文化財保護委員会告示第二十号）の管理団体として、大府府原郡市を指定する。  
昭和三十三年二月十三日  
文化財保護委員会委員長 河井 彌八

④文化財保護委員会告示第十八号  
文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第七十一条の第二項の規定により、史跡丸山古墳（昭和三十一年文化財保護委員会告示第二十号）の管理団体として、大府府原郡市を指定する。  
昭和三十三年二月十三日  
文化財保護委員会委員長 河井 彌八

第139図 浅間古墳 管理団体告示



第140図 浅間古墳 指定範囲

なお、翌年には、以下の通り、管理団体として吉原市が指定されている。

官報（第9341号）

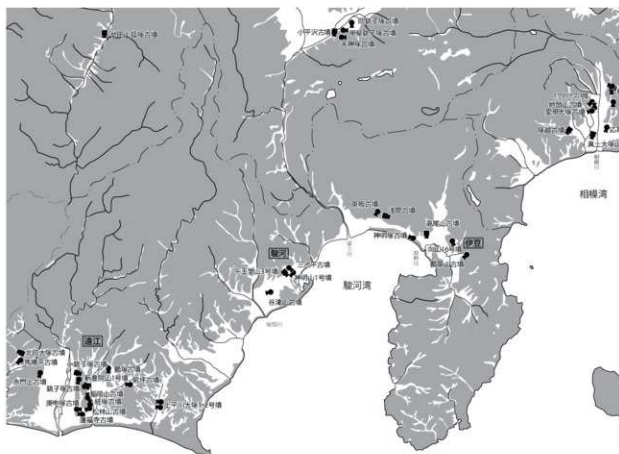
**文化財保護委員会告示 第十六号**

文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第七十一条の二第一項の規定により、史跡浅間古墳（昭和三十二年文化財保護委員会告示第四十五号）の管理団体として、静岡県吉原市を指定する。

昭和三十二年二月十三日

文化財保護委員会委員長 河井 彌八

一方、国の史跡指定の際に必要なであるとの認識から始まった静岡大学の内藤兎氏による測量により浅間古墳は、初めて前方後方墳であることが明確に示された。さらに、長軸103m、後方部幅61m、同高11.8m、前方部幅40m、同高8mという復元値が示



第141図 駿河を中心とした太平洋沿岸の前期古墳

された点は、その後の40年間、修正されることのない、浅間古墳研究において最も重要な定点として評価される(内藤1958)。なお、内藤氏の報告中において「前方部は、現在の農道によって大きく切断され、さらにその後数箇のイモ穴が掘りこまれたため著しく破壊されている」との記述に対する注釈として「吉原市は浅間古墳が国の史蹟として指定されると同時に、全墳丘とその隣接地を買収し、破壊された部分を復旧して完全な保護を加えている。」と記載されているが、それが、イモ穴部分のみを示しているのか、墳丘の別の部分を指すのかは明らかではない。

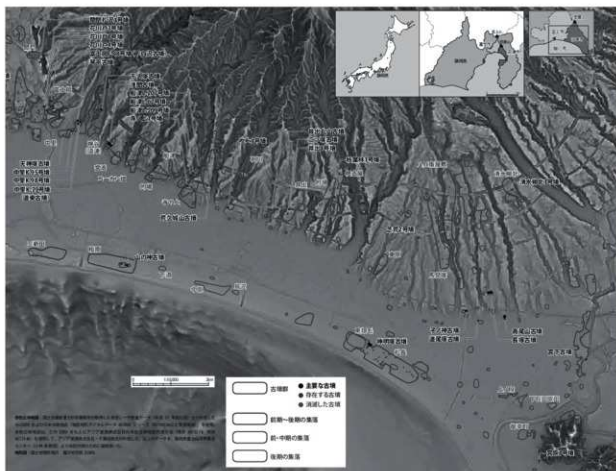
内藤氏の調査後、改めて静岡大学による測量調査が実施され、墳丘長など見直しがはかれ、「墳長約90m、後方部長約60m、南西側墳裾からの後方部高約10m」の後方部二段、前方部一段の前方後方墳とされた(静岡大学人文学部考古学研究室1998)。

また、近年では、それまでの古墳自体の規模等に対する視点に加えて、駿河湾全体から臨むことので

きる古墳立地から「海浜型前方後円(方)墳」の典型例(広瀬2013)としての評価、交通路とどのエリアから古墳を認識することができるのかという視認性の観点からの評価が行われている(佐藤2012)。その視点の延長として、駿河湾側と山側の墳裾の高さの違いに注目し、海側からの視認性を強く意識した築造の結果としての「基壇」の存在を指摘し、墳丘復元を試みるとともに、古墳築造地の選定に対する検討の必要性が改めて浮き彫りにされた(佐藤2019)。これは、「浮島ヶ原ネットワーク」(佐藤2018)として評価される、富士市東坂古墳や沼津市高尾山古墳、神明塚古墳などを含めた巨視的な視点で東駿河の前期古墳を捉えていかなければならないということを物語っている。

その際に、示した墳丘の復元値は以下のとおりである(佐藤2019)。

全長90.8m 後方部長54.5m 前方部長36.3m、  
後方部高11m(南側基準)・4.75m(北側基準)、  
前方部高7m(南側基準)・2m(北側基準)



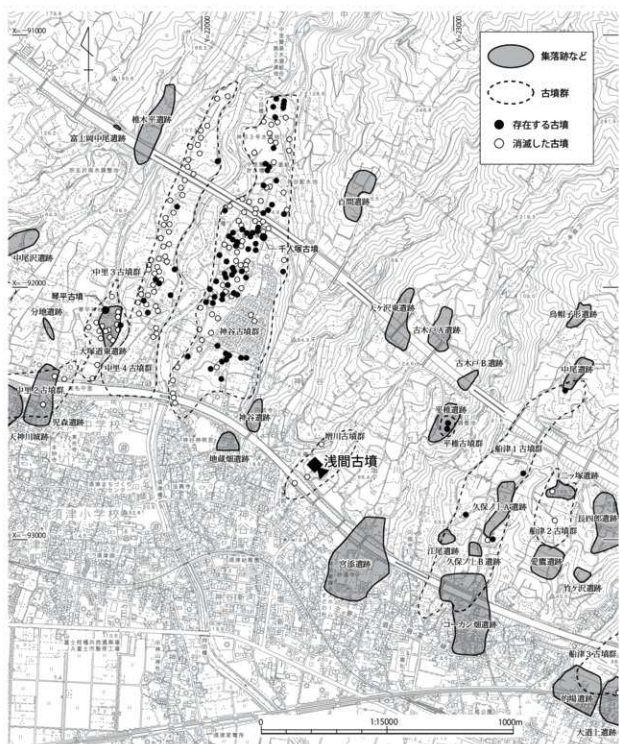
第142図 愛鷹山南麓の古墳・集落

一方、令和元年10月上旬～中旬に富士市教育委員会が主体となり、墳丘平坦部全体における地中レーダー探査を実施した。

地中レーダー探査の解析結果からは後方部墳頂平坦面の、古墳の主軸直交方向において、地表から2.0から2.5mの深さで、長辺約9.5m、短辺約6.8mの範囲に隅丸方形の異常反応が確認された。また、

異常反応範囲の内側部分においては全く反応を示さない範囲が長辺約7.4m、短辺2.2mの範囲で認められた。

以上のことから、後方部主軸直交方向において、幅1～2m前後の天井部分が石材などではない堅穴式石室もしくは、粘土槨の可能性が想定されるようになった(佐藤2021)。



第143図 浅間古墳の位置

## 第2節 UAVレーザ測量調査の経緯と調査成果

### 調査経緯

墳丘規模を確定するためには、発掘調査を実施することが最も明確ではあるものの、それが難しい状況においては、より詳細な測量と地形観察を実施するほかない。浅間古墳においては、特に後方部の墳堀について、墳丘部分と自然地形部分との区分が明確ではなく、前述のようなより詳細な地形観察が必要になってくる。

また、古墳自体に対する詳細な測量に加えて、周辺地形についても同様の精度での測量を行うことで、古墳築造の痕跡を広く認識することができるようになり、また、古墳の視認性や古墳築造における地形的制約など様々な情報を得ることができるようになる。

そのため、浅間古墳ではUAVを使用して、墳丘を中心に300m×450mの範囲を測量し、詳細な等高線図、数値地形図を作成することとした。調査は2カ年に分けて実施し、令和2年度は墳丘を中心に150m×300mの範囲を対象にし、令和3年度は古墳南側の周辺地形を中心に300m×300mの範囲を対象とすることとした。



第144図 UAV計測 作業風景

### 調査方法

調査は、UAVを使用したレーザ測量とした。実際の測量及び等高線図等の作成については株式会社フジヤマに作業を委託した。

UAV計測は、令和2年度は6月10日にRiegl社のminiVUX-1UAVを使用して実施し、令和3年度は11月15日にRiegl社のVUX-ILRを使用して実施した。また、測量範囲内に東名高速道路が含まれており、管理を行う中日本保全サービスセンターとの協議の結果、高速道路上空を飛行させない飛行経路でデータを取得することとした。さらに、UAVレーザ計測範囲において3次元計測データから取得できない地形、地物などについては、現地補足を実施している。

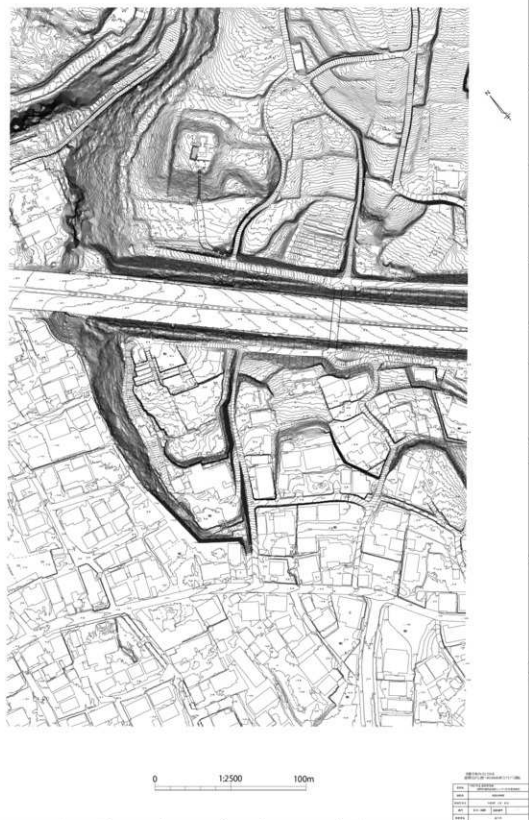
### 調査結果

1998年に公表された静岡大学考古学研究室の測量成果に基づく復元値を以前示しているが、それについては现阶段では修正の必要性はないと考えている。改めて示すと以下ようになる。

全長90.8m、後方部長54.5m、前方部長36.3m、後方部高11m（南側基準）・4.75m（北側基準）、前方部高7m（南側基準）・2m（山側基準）

また、周辺地形の測量により、浅間古墳が丘陵先端ではなく、やや奥まったところに傾斜に対して古墳主軸を直交させて築造していることが明確となった。これには、いくつか理由が考えられるが、まず指摘できるのは、丘陵先端は最大幅60m程度しかなく、90m級の古墳を築造するには狭すぎるといえる点である。幅の狭い丘陵上でも古墳主軸を傾斜と並行させることで大型の古墳を築造することできるが、古墳の主軸を90度回転させることとなってしまう、視認性を無視した主軸設定となってしまうため、採用されなかったものと考えられる。90mを超える墳丘の大きさや前方後方墳の視認性を両立させた結果の墳丘立地であると結論付けられよう。

また、墳丘の南側は、周辺地形の傾斜に比べて明らかに傾斜が緩いことが明確となった。これは、墳丘の南側（海側）に平坦部を造り出していたことを



第 145 図 浅間古墳 数値地形図



第146図 浅間古墳 測量図・墳丘エレベーション図

示している可能性が高い。これは、墳丘南側を自然地形からそのまま墳丘に移行するような正面観ではなく、墳丘前面の平坦部分を造りだし、墳丘をより際立たせる効果を意図してのことと考えられる。

#### 参考文献

- 足立銀太郎 1927 「最近に調査したる駿東富士の古墳につき」『静岡県史蹟名勝天然記念物調査報告』第3輯
- 佐藤祐樹 2012 「駿河における前期古墳—古墳の景観と路の視点から—」『東日本における前期古墳の立地・景観・ネットワーク』第17回東北・関東前方後円墳研究大会
- 佐藤祐樹 2019 「国指定史跡浅間古墳の再検討」『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書—平成29年度—』富士市教育委員会
- 佐藤祐樹 2021 「地中レーダー探査から想定される浅間古墳の埋葬施設」『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書—令和元年度—』富士市教育委員会
- 佐藤祐樹 2022 「伊豆・駿河・遠江における主要前期古墳データ」『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書—令和2年度—』富士市教育委員会
- 静岡県 1930 『静岡県史』第1巻
- 静岡大学人文学部考古学研究室 1998 「静岡県富士市 国指定史跡・浅間古墳測量調査の成果」『静岡県の重要遺跡』（静岡県内重要遺跡詳細分布調査報告書）静岡県教育委員会
- 滝沢 誠 2022 「浅間古墳と古墳時代前期の東日本」『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書—令和2年度—』富士市教育委員会
- 内藤 晃 1958 「遠江・駿河の前方後方墳」『私たちの考古学』第5巻第1号

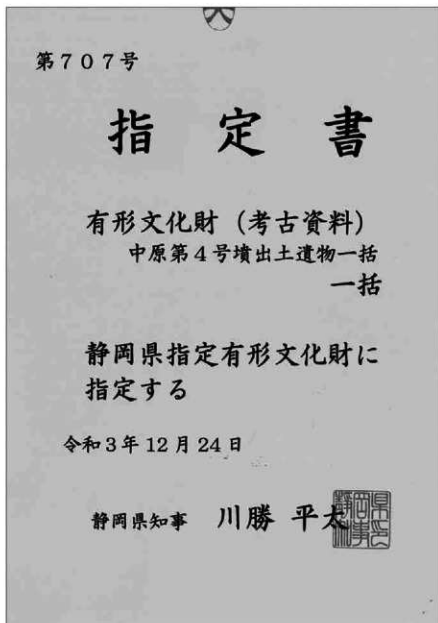


## 第5章 中原第4号墳出土遺物の 静岡県指定有形文化財への指定について

中原第4号墳は、富士市伝法宇中原に所在した古墳時代後期の小規模円墳で、倉庫の建設工事に伴い、平成4年度に富士市教育委員会により本発掘調査が実施された。調査の時点で墳丘の大半は失われていたが、南側の一部を除いて全周する幅約1.7mの周溝が確認され、周溝内側で東西10.88m、南北10.46mの墳丘規模をもつことが明らかとなってい

る（富士市教委2016）。古墳は調査終了後、消滅しており現存しない。

一方、出土品については、富士市文化財保護条例第4条第1項の規定により、平成29年2月21日付けで富士市指定有形文化財に指定されていた。その後、指定を記念しての富士山かぐや姫ミュージアム第55回企画展『産業の種蒔く人—伝法中原4号墳



第147図 指定書（表面）

と古代のエンジニアたち』の開催（富士山かぐや姫ミュージアム2017）や、企画展開催中には、市指定文化財記念シンポジウム『中原第4号墳の被葬者に迫る』講演会の実施（富士市2018）など、資料の活用を進めてきた。また、令和2年6月からは文化庁主催の『発掘された日本列島2020』に出品し、全国5か所の巡回展示がなされた（文化庁2020）。

そうした展示・活用により資料の持つ価値がさらに高められることとなり、市指定よりもさらに上位の指定に向けての協議が進められ、令和3年12月1日には富士市長から静岡県知事に対して『静岡県指定有形文化財指定申請書』が提出された。12月

17日には静岡県知事から県文化財保護審議会へ指定についての諮問がなされ、同日の答申を受けている。その後、12月24日、静岡県知事からの告示（静岡県告示第932号）をもって、静岡県指定有形文化財に指定された。

#### 参考文献

- 富士山かぐや姫ミュージアム2017『産業の種蒔く人－伝法中原4号墳と古代のエンジニアたち－』展示解説図録  
 富士市2018『中原第4号墳の被葬者に迫る』シンポジウム資料集  
 富士市教育委員会2016『伝法中原古墳群』  
 文化庁2020『発掘された日本列島展2020』

所有者	所有者の住所	所在の場所	交付年月日
富士市	富士市永田町一丁目100番地	富士市伝法66-2 富士市立博物館	令和3年12月24日
所有者	所有者の住所	所在の場所	変更の年月日
			年 月 日
			年 月 日
			年 月 日
			年 月 日
			年 月 日

注 意 次の場合にはこの指定書を添えて静岡県に届け出ること。

- 1 所有者が変更したとき。
- 2 所有者が氏名、名称、住所を変更したとき。
- 3 所在の場所を変更したとき。
- 4 当該指定文化財が滅失したとき。

第148図 指定書（裏面）

第16表 県指定文化財指定書（指定通知書）交付台帳

指定番号	707	名 称	中原第4号墳出土遺物一括
整理番号			
指定年月日	令和3年12月24日		
交付年月日	同上		
指定種別	有形文化財（考古資料）	員 数	一括
所有者 （管理者）名	富士市	指定理由	指定基準 県指定有形文化財指定基準 考古資料の部3
所有者 （管理者）住所	富士市永田町 一丁目100番地		
文化財所在 の場所	富士市伝法66-2 富士市立博物館		
再交付年月日及び その理由		当該文化財の 特徴を示す事項	<p>中原第4号墳は、富士市伝法字中原に所在した古墳時代後期（6世紀）の直径約11mの小規模円墳で、伝法沢川東岸の大淵扇状地上に分布する伝法古墳群のうちの1基である。</p> <p>中原第4号墳では、未盗掘の無袖形の横穴式石室内及び周溝内から、玉類、刀剣、鉄鍔、農具、鍛冶具等の生産用具、馬具、用途不明鉄製品、須恵器、土師器など多種の遺物が出土している。</p> <p>なかでも、古墳時代後期には副葬されることが少ない鍔、鋤先、鎌、鑿などの農具や、東海地方では稀有な遺物である鉄器生産に不可欠な鍛冶具（鉄鉗）、服飾生産に係る針などの多種の生産用具が特徴的である。</p> <p>また、3組の鉄製馬具は馬の生産・飼育との関わり、100本を超える鉄鍔は被葬者の武人的な性格、銀象嵌鐔付大刀、銀象嵌鐔付鹿角装剣は大和王権との関係、横穴式石室、鉄鍔、玉類は西日本との交流が窺えることも重要である。</p> <p>当古墳の多種多様な出土遺物は、大和王権や西日本とのつながりを示すとともに、富士地域に鉄器生産、馬の生産・飼育、食糧生産などの産業全般にかかわる多角的な先進技術を導入し、地域の新たな開発に関与した有力層の存在を示すものであり、静岡県の古代史を理解する上で欠かせない資料として重要である。</p>
		付属図面及び 写真枚数	
		文 献	
		備 考	

第17表 県指定文化財 報告遺物リスト

番号	文化財の名称	用途	器種	数量	寸法 (cm)	報告書掲載%	取り上げ/注記	報告書
中原4号墳	土器	土器 (周溝出土)	土師器	1	3.80	1	P120	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器 (周溝出土)	土師器	1	7.30	2	P120	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器 (周溝出土)	土師器	1	9.20	3	P120	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	3.24	4	T49	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	3.27	5	T13	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	3.08	6	T14	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	3.06	7	T27	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	3.05	8	T18	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	2.94	9	T28	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	3.07	10	T17	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	2.74	11	T39	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	2.64	12	T15	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	2.62	13	T24	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	2.64	14	T20	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	勾玉	1	1.63	15	T76	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	3.43	16	T00-1	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.92	17	T03-2	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.49	18	T19	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.35	19	T55	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.36	20	T87	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.24	21	T88	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.20	22	T82	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.17	23	T73-2	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.19	24	T75	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.09	25	T74	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.22	26	T81	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.00	27	T80	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	2.03	28	T94	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	1.96	29	T77	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	1.91	30	T84	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	1.94	31	T89	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	1.88	32	T86	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	1.76	33	T85	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	1.73	34	T92	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	1.95	35	T78	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	1.81	36	T93	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	1.88	37	T79	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	碧玉	1	1.77	38	T48	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.70	39	T40	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.63	40	T31	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.50	41	T53	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.50	42	T60	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.50	43	T65	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.73	44	T59	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.65	45	T38	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.69	46	T41	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.76	47	T42	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.71	48	T45	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.74	49	T58	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.58	50	T50	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.52	51	T44	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.45	52	T05	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.50	53	T32	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.41	54	T43	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.45	55	T51	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.62	56	T52	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.54	57	T56	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.55	58	T57	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.41	59	T63	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.33	60	T61	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	切子玉	1	1.19	61	T90	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	薬玉	1	1.21	62	T04-133	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	薬玉	1	1.27	63	T21	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	薬玉	1	1.62	64	T54	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	薬玉	1	1.50	65	T01-2	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	薬玉	1	1.59	66	T01-1	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	薬玉	1	0.87	67	T83	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	白玉	1	0.38	68	T04-132	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	白玉	1	0.28	69	T04-126	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	白玉	1	0.45	70	T04-127	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	白玉	1	0.29	71	T04-128	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	石製品	装身具	白玉	1	0.36	72	T04-129	『伝法 中原古墳群』

系統	文化財の種類	用途	図種	数量	寸法 (cm)	報告書掲載%	取り上げ状況	報告書
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.29	73	T04-130	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.30	74	T04-131	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	白玉	1	0.40	75	T91	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.57	76	T01-3	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.55	77	T01-4	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.60	78	T01-5	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.70	79	T01-6	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.61	80	T01-7	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.69	81	T01-8	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.61	82	T01-9	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.82	83	T01-10	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.71	84	T01-11	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.82	85	T01-12	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.72	86	T01-13	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.76	87	T01-14	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.75	88	T01-15	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.77	89	T01-16	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.77	90	T01-17	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.74	91	T01-18	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.72	92	T01-19	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.68	93	T01-20	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.76	94	T01-21	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.71	95	T01-22	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.70	96	T01-23	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.76	97	T01-24	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.72	98	T01-25	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.70	99	T01-26	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.70	100	T01-27	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.71	101	T01-28	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.74	102	T01-29	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.74	103	T01-30	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.75	104	T01-31	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.70	105	T01-32	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.72	106	T01-33	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.67	107	T01-34	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.73	108	T01-35	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.74	109	T01-36	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.64	110	T01-37	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.65	111	T01-38	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.70	112	T01-39	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.67	113	T01-40	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.66	114	T01-41	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.73	115	T01-42	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.70	116	T01-43	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.63	117	T01-44	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.66	118	T01-45	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.64	119	T01-46	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.62	120	T01-47	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.65	121	T01-48	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.72	122	T01-49	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.71	123	T01-50	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.63	124	T01-51	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.67	125	T01-52	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.59	126	T01-53	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.66	127	T01-54	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.67	128	T01-55	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.61	129	T01-56	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.68	130	T01-57	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.64	131	T01-58	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.63	132	T01-59	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.66	133	T01-60	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.65	134	T01-61	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.66	135	T01-62	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.64	136	T01-63	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.63	137	T01-64	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.62	138	T01-65	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.59	139	T01-66	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.63	140	T01-67	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.62	141	T01-68	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.62	142	T01-69	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.58	143	T01-70	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.64	144	T01-71	『伝法 中原古墳群』

番号	文化財の名称	用途	形状	数量	寸法 (cm)	報告資料番号	取り上げ状況	報告書
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.60	145	TO1-72	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.59	146	TO1-73	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.61	147	TO1-74	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.66	148	TO1-75	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.58	149	TO1-76	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.64	150	TO1-77	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.57	151	TO1-78	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.61	152	TO1-79	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.59	153	TO1-80	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.65	154	TO1-81	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.59	155	TO1-82	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.64	156	TO1-83	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.59	157	TO1-84	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.53	158	TO1-85	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.57	159	TO1-86	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.62	160	TO1-87	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.57	161	TO1-88	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.60	162	TO1-89	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.59	163	TO1-90	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.57	164	TO1-91	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.51	165	TO1-92	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.58	166	TO1-93	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.56	167	TO1-94	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.57	168	TO1-95	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.54	169	TO1-96	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.58	170	TO1-97	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.58	171	TO1-98	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.60	172	TO1-99	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.56	173	TO1-100	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.73	174	TO1-106	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.65	175	TO1-107	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.60	176	TO1-108	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.64	177	TO1-109	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.60	178	TO1-110	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.56	179	TO1-111	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.57	180	TO1-112	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.55	181	TO1-113	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.00	182	TO1-114-1	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.73	183	TO1-114-2	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.68	184	TO1-114-3	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	装身具	丸玉	1	0.75	185	TO1-114-4	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.41	186	TO4-121	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.24	187	TO4-122	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.36	188	TO4-123	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.30	189	TO4-124	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.21	190	TO4-125	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.20	191	TO4-1	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.30	192	TO4-2	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.26	193	TO4-3	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.20	194	TO4-4	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.19	195	TO4-5	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.49	196	TO4-6	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.25	197	TO4-7	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.23	198	TO4-8	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.19	199	TO4-9	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.27	200	TO4-10	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.15	201	TO4-11	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.28	202	TO4-12	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.19	203	TO4-13	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.21	204	TO4-14	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.16	205	TO4-15	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.47	206	TO4-16	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.19	207	TO4-17	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.20	208	TO4-18	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.14	209	TO4-19	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.32	210	TO4-20	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.21	211	TO4-21	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.24	212	TO4-22	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.22	213	TO4-23	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.19	214	TO4-24	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.35	215	TO4-25	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.19	216	TO4-26	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.20	217	TO4-27	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.48	218	TO4-28	『伝法 中原古墳群』







名称	文化財の種類	用途	器種	数量	寸法 (cm)	報告書掲載%	取り上げ注記	報告書
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.23	367	T04-186	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.25	368	T04-187	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.22	369	T04-188	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.15	370	T04-189	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.20	371	T04-190	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.18	372	T04-191	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.28	373	T04-192	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.18	374	T04-193	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.22	375	T04-194	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.20	376	T04-195	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.23	377	T04-196	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.20	378	T04-197	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.26	379	T04-198	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.25	380	T04-199	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.19	381	T04-200	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.22	382	T04-201	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.23	383	T04-202	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.16	384	T04-203	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.23	385	T04-204	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.15	386	T73-1	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.63	387	T06	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.44	388	T07	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.47	389	T08	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.56	390	T09	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.49	391	T10	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.70	392	T11	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.68	393	T12	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.62	394	T16	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.57	395	T22	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.53	396	T23	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.52	397	T25	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.55	398	T26	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.63	399	T29	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.54	400	T30	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.70	401	T33	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.57	402	T34	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.51	403	T35	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.50	404	T36	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.51	405	T37	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.52	406	T46	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.56	407	T47	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.55	408	T62	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.51	409	T64	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.53	410	T67	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.56	411	T68	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.38	412	T69	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.36	413	T70	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.82	414	T71	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.70	415	T72	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.61	416	T96-1	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	ガラス製品	装身具	小玉	1	0.60	417	T96-2	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	大刀	1	85.90	418	F21-01	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	大刀片ヤ	1	74.60	419	F75-15	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	大刀片ヤ	1	(5.00)	420	F10	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(46.30)	421	F54	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(6.20)	422	F08	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(12.50)	423	F36	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(9.70)	424	F65	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(5.40)	425	F86	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(21.00)	426	F01-05	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	10.96	427	F41-01	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	12.20	428	F23-02	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(9.80)	429	F26-01	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	9.90	430	F23-04	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(7.50)	431	F62	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(7.20)	432	F59-02	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(12.60)	433	F33	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(9.00)	434	F37	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	10.40	435	F68	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(6.60)	436	F03-02	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(11.80)	437	F22	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(12.70)	438	F47	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	14.40	439	F23-01	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鏡	1	(8.00)	440	F26-02	『伝法中原古墳群』

番号	文化財の名称	用途	器種	数量	寸法 (cm)	報告資料番号	取り上げ状況	報告書
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.50)	441		『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(5.80)	442	P00-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.90)	443	F34	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.10)	444	F04	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(6.00)	445	F30	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.30)	446	P03-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(9.00)	447	F42	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(9.30)	448	F31	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	11.00	449	F06	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(5.80)	450	F23-03	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(9.00)	451	F67-18	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(9.60)	452	F67-02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(10.50)	453	F77	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(9.20)	454	F67-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	9.30	455	F67-22	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.30)	456	F05	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.80)	457	F35-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.40)	458	F70-14	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	17.30	459	F02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(14.20)	460	F41-02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	17.30	461	F28	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(14.70)	462	F48	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(15.50)	463	F75-04	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(5.20)	464	F76-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.00)	465	F70-19	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(15.90)	466	F59-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.80)	467	F70-07	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.00)	468	F70-21	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(5.00)	469	F70-24	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.10)	470	F70-08	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.10)	471	F70-32	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.60)	472	F70-33	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.10)	473	F70-42	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.20)	474	F70-20	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.00)	475	F70-22	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.10)	476	F70-23	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.20)	477	F70-30	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.60)	478	F70-25	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.70)	479	F70-28	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	25.30	480	F67-15	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(10.20)	481	F40	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(9.00)	482	F45	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.70)	483	F76-02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(17.30)	484	F67-14	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(19.60)	485	F75-03	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(8.40)	486	F75-10	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(15.90)	487	F75-05	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(14.70)	488	F75-07	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.00)	489	F89-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(5.10)	490	F38-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.70)	491	F67-27	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(8.50)	492	F70-06	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(7.00)	493	F16	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(6.20)	494	F35-02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(12.80)	495	F75-06	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(10.00)	496	F32	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(8.80)	497	F70-15	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(8.30)	498	F70-16	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(8.70)	499	F23-05	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(6.80)	500	F70-17	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.40)	501	F83	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.80)	502	F70-18	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.80)	503	F39	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.60)	504	F70-26	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.30)	505	F67-03	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(6.50)	506	F26-03	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(14.50)	507	F75-08	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(14.10)	508	F75-11	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(9.70)	509	F75-09	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(8.30)	510	F15-02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(8.10)	511	F85-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(5.60)	512	F85-02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.60)	513	F75-17	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.70)	514	F29-01	『伝法 中原古墳群』

名称	文化財の種類	用途	器種	数量	寸法 (cm)	報告書掲載%	取り上げ注記	報告書
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.90)	515	F89-02	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.40)	516	F67-28	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.90)	517	F75-19	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.80)	518	F75-22	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.90)	519	F75-21	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.30)	520	F75-16	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.60)	521	F67-29	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.50)	522	F29-02	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.30)	523	F66	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.60)	524	F70-09	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.10)	525	F70-12	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.00)	526	F70-27	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.20)	527	F70-29	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.20)	528	F70-41	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.50)	529	F70-51	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.10)	530	F90	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(7.20)	531	F67-24	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.70)	532	F70-50	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.90)	533	F70-54	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.70)	534	F55-02	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.40)	535	F70-11	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.20)	536	F70-31	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.00)	537	F70-40	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.40)	538	F70-52	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.70)	539	F70-53	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.90)	540	F70-55	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.90)	541	F70-56	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.40)	542	F70-57	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.60)	543	F87	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.40)	544	F70-58	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.50)	545	F70-48	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.10)	546	F70-13	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.50)	547	F70-35	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.00)	548	F75-18	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.10)	549	F75-20	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.00)	550	F19-02	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.00)	551	F19-03	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.20)	552	F38-02	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(3.40)	553	F70-10	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(6.20)	554	F19-01	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(5.00)	555	F56	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(5.30)	556	F59-03	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(4.30)	557	F63-J51	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(5.90)	558	F75-13	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.10)	559	F70-34	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.50)	560	F70-36	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.00)	561	F70-37	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.90)	562	F70-45	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.30)	563	F70-46	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.20)	564	F70-38	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.10)	565	F70-44	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(2.50)	566	F70-47	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃	1	(1.90)	567	F70-49	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃 矛	1	23.30	568	F70-03	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃 矛	1	12.70	569	F70-01	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃 矛	1	18.80	570	F70-02	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃 矛	1	12.00	571	F70-05	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	武器	鉄鏃 矛	1	11.50	572	F70-04	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	石製品	農工具	砥石	1	9.90	573	T66	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	石製品	農工具	砥石	1	9.40	574	T95	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鎌	1	(3.55)	575	F67-25	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鎌	1	(2.50)	576	F67-07	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鎌	1	(6.80)	577	F07	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鎌先	1	15.30	578	F52	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鎌先	1	15.10	579	F27	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鎌先	1	15.20	580	F20	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鎌先	1	12.35	581	F53	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	21.00	582	F18	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	(15.00)	583	F73	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	15.10	584	F50	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	(13.60)	585	F14	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	14.70	586	F75-02	『伝法中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	(12.50)	587	F67-19	『伝法中原古墳群』

番号	文化財の名称	用途	形種	数量	寸法 (cm)	報告資料番号	原り上/下/注記	報告書
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	13.20	588	F49	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	13.40	589	F11-02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	8.20	590	F-13	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	13.80	591	F67-13	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	5.30	592	F46	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	5.80	593	F67-04	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	7.30	594	F11-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	刀子	1	13.90	595	F71	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鉄斧	1	9.00	596	F25-02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鉄斧	1	9.30	597	F84	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鉄斧	1	13.45	598	F25-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鍬	1	14.20	599	F67-20	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鍬	1	15.20	600	F67-16	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鍬	1	12.50	601	F60	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鍬	1	11.10	602	F67-17	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鍬	1	18.30	603	F24	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鋸	1	21.85	604	F67-12	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鉄鋸	1	19.30	605	F67-11	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	鋸子	1	19.90	606	F67-23	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	針	1	17.00	607	F67-21	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	農工具	針?	1	14.10	608	F74	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	轡	1	15.50	609	F57	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	轡	1	20.10	610	F55-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	轡	1	15.45	611	F64-01	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	鍔形金具	1	42.5	612	F61	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	鍔形金具	1	43.4	613	F58 - 69	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	帯形金具	1	4.60	614	F79	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	帯形金具	1	4.50	615	F81	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	帯形金具	1	3.00	616	F17-02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	帯形金具	1	2.35	617	F44	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	帯形金具	1	2.10	618	F72	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	帯形金具	1	2.00	619	F80	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	鞆留金具	1	4.05	620	F64-02	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	鞆留金具	1	12.90	621	F64-03	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	鍔珠?	1	11.40	622	F67-30	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	鍔珠	1	6.50	623	F67-06	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	鍔珠	1	6.05	624	F67-05	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	鍔珠	1	13.90	625	F82	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	金属製品	馬具	鍔珠	1	4.90	626	F43	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	4.50	627	P-22.69.76.80.67	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	4.10	628	P-10-15	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	4.20	629	P16.25.35.31.42.46.55.33.71	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	3.80	630	P-28.47.49.61.59	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	3.90	631	P-62.27.42.72.44.86	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	4.80	632	P34.64.38.56.47.84.74.64.74.84	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	4.10	633	P-18.68.73.79.86	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	3.90	634	P-32	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	4.50	635	P-11	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	4.00	636	P19	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	3.90	637	P-14	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	3.80	638	P1.86.40	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	11.80	639	P-12	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	14.50	640	P-24.60	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	15.20	641	P7	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	15.80	642	P-16	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	14.60	643	P-2.4.石室内?	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	18.20	644	P-65	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	12.40	645	P-70	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	13.10	646	P-9	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	12.10	647	P-23	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	9.75	648	P-20.21.30.52.68.78.54	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	27.10	649	P-8	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	21.30	650	P-26	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	18.70	651	66	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	16.90	652	R-34	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	20.30	653	P-13	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	28.20	654	P-17	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	須恵器	1	30.50	655	P-6.3.5	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土器	土器	土師器	1	4.20	656	P53.57.63.43.39.48.75.45.78.50	『伝法 中原古墳群』
中原4号墳	土製品	供養具	瓦王	1	0.69	657	645 (須恵器) 内出土	『伝法 中原古墳群』

名称	文化財の名称	用途	器種	数量	寸法 (cm)	報告書掲載%	取り上げ注記	報告書
中照4号墳	土製品	供養具	丸玉	1	0.72	658	645 (昭和色) 内出土	『伝法中照古墳群』
中照4号墳	土製品	供養具	丸玉	1	0.68	659	645 (昭和色) 内出土	『伝法中照古墳群』
中照4号墳	土製品	供養具	丸玉	1	0.61	660	645 (昭和色) 内出土	『伝法中照古墳群』
中照4号墳	土製品	供養具	丸玉	1	0.55	661	645 (昭和色) 内出土	『伝法中照古墳群』

第18表 県指定文化財 未報告遺物リスト

名称	文化財の名称	用途	器種	数量	寸法 (cm)	報告書掲載%	取り上げ注記	備考
中照4号墳	土器	土器	須恵器・土師器			P-118		周溝3区
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器2		周溝2区
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器3	P-89	石室内覆土
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器4	P-105	周溝排土中・覆土中?
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器5	P-114	周溝東1/3付近
中照4号墳	土器	土器	須恵器・土師器			未報告土器6	P-111	周溝南西
中照4号墳	土器	土器	須恵器・土師器			未報告土器7	P-119	周溝2区
中照4号墳	土器	土器	須恵器・土師器			未報告土器8	P-115	周溝南
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器9	P-102	周溝東
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器10	P-123	周溝2区
中照4号墳	土器	土器	須恵器・土師器			未報告土器11	P-112	周溝東西
中照4号墳	土器	土器	須恵器・土師器			未報告土器12	P-120	周溝3区北
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器13	P-104	
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器14	P-121	周溝1区
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器15	P-113	周溝覆土(東)
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器16	P-84	
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器17	P-124	周溝3区
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器18	P-125	周溝4区
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器19	P-122	周溝3区
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器20	P-116	封鎖部覆土
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器21	P-108	周溝南部
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器22	P-101	石室内覆土内
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器23	P-13	
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器24	P-26	
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器25	P-77	
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器26	P-106	周溝覆土(北側)
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器27	P-90	石室内覆土 中層～下層
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器28	P-88	石室内覆土土層(封鎖石直上?)
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器29	P-66	
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器30	P-83	
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器31	P-86	
中照4号墳	土器	土器	須恵器・土師器			未報告土器32	P-110	周溝東南部
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器33	P-109	周溝(東部)
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器34	P-107	周溝(東)
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器35	P-23	
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器36	P-103	周溝西
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器37	P-125	
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器38	P-111	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器39	P-119	周溝2区
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器40	P-118・P-122	周溝
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器41	P-119	周溝2区
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器42	P-112	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器43	P-112	周溝
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器44	P-111・P-119・P-127	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器45	P-111	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器46	P-105	周溝
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器47	P-120	周溝3区
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器48	P-119	周溝2区
中照4号墳	土器	土器	土師器			未報告土器49	P-117・P-118	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器50	P-117	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器51	P-105・P-117	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器52	P-110・P-111・P-115 ・P-117・P-120	周溝2区,3区北
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器53	P-105	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器54	P-118	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器55	P-110・P-117	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器56	P-105	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器57	P-108・P-112	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器58	P-104・P-107・P-108 ・P-111・P-120	周溝南部,3区
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器59	P-109・P-111	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器60	P-112・P-115・P-118	周溝
中照4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器61	P-112	周溝

番号	文化財の名称	形状	部類	数量	寸法 (cm)	報告書掲載%	取り上げ注記	備考
中原4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器 62	P-117	簡説
中原4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器 63	P-117	簡説
中原4号墳	土器	土器	須恵器			未報告土器 64	P-119・P-117	簡説 3 志
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 1	F70-30	X線番号-
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 2	F92	X線番号 6960
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 3	P67-10	X線番号 6995
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 4	F54-2	X線番号 18250
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 5	F67	X線番号 6992
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 6	F70-43	X線番号-
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 7	F70-59	X線番号 9734
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 8	P67-9	X線番号 6995
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 9	P67-8	X線番号 6993
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 10	P67-26	X線番号 6994
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 11	F78	X線番号 18244
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 12	F75-1	X線番号-
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 13		X線番号 6987
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 14	F26-4	X線番号 9716
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 15	F75-12	X線番号-
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 16		X線番号-
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 17	67-31	X線番号-
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 18		X線番号 6958
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 19	F12	X線番号 9720
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 20	F26-5	X線番号 9716
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 21	F21-2	X線番号 6957
中原4号墳	金属製品	金属製品				未報告金属製品 22		X線番号-

## 第6章 愛鷹山に眠る開拓者たち

### 東海最大級の古墳群と地域の再生

本章は、令和3年度 沼津市・富士市連携 埋蔵文化財活用特別展示・講演会『愛鷹山に眠る開拓者たち 東海最大級の古墳群と地域の再生』の開催に伴い、動画配信という形で講演会と共におこなったトークイベントの内容を文字に起こしたものである。パネラーにより若干の修正、語句の統一などを図っている。

なお、講演会資料集は本書103頁から掲載している。

【実施日】 令和4年2月20日

【場 所】 沼津市文化財センター

【パネラー】（所属は当時のもの）

滝沢 誠（筑波大学）

菊池 吉修（静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課）

木村 聡（沼津市教育委員会文化振興課）

佐藤 祐樹（富士市市民部文化振興課）

藤村 翔（富士市市民部文化振興課）

**木村** 沼津市文化振興課の木村です。ここからは発表者によりまずトークイベントに移っていきたいと思います。

昨年度は会場にいる皆様からの質問をお受けしてそれに回答するような進行だったので、今年度、残念ながら私の目の前に誰もお客さんがおりませんので、いくつかテーマを設定しまして深掘りをしていく形態で進めたいと思います。

トークイベントにつきましては富士市の文化振興課の佐藤さんに加わっていただき、木村と共に進めていきます。佐藤さん、皆さん、よろしくお願いたします。

**佐藤** 富士市文化振興課の佐藤と申します。木村さんと一緒にトークイベントの司会をつとめさせていただきます。

もし会場に観覧いただいている方がいらっしゃったら、まあこんな質問がでるんじゃないか、と言うことを想定しながら講師の方々に話をふっていただければと思います。お願いいたします。

**木村** それではまず、二つの大きなテーマをあげていきます。

1点目は冒頭で、本来は趣旨説明で話すべきだったのですが、今、富士市と沼津市は共に「文化財保存活用地域計画」という計画を作っております。富士市さんの方が先行して進めている状況ではあるんですけども、その中で愛鷹山の古墳群というのはですね、先ほど菊池さんから話もございました、「地域らしさ」を非常に表す文化財になる。そういった観点があり、今回のテーマで今日もお話を進めてまいりました。そういうこともございまして、冒頭で私がお話ししましたよ



第149図 トークイベントの様子

うに、両市の基礎、礎の部分に、この愛鷹山の古墳群が大きく関わっているんじゃないかという考え方もあろうかと思います。そういった観点も踏まえまして、トークイベントでは、まず1点目として愛鷹山の古墳群、それから今回の講演会に含めましたタイトルの回叙といましようか、「開拓者」、「東海最大級」、「地域の再生」、というキーワードですね、このあたりを深掘りしていきたいです。

後半戦は、この「地域の再生」というキーワードを基にして、現代、この文化財をどうやって活かしていくのか、こういう話題にいければというふうに考えております。なかなかゴールの見えづらいトークイベントということになるかもしれませんが、ぜひ皆様よろしくお願ひしたいと思います。

それでは早速スタートしていきたいと思っておりますが、まずですね、滝沢先生、少しお話をいただいたところもあるので、今回焦点をあてた東駿河の古墳時代後期のお話、ただその前の様子ですね、古墳時代中期とはどんな時代だったのか、ここの部分、非常に集落とか古墳が少なくなっていくなど、全国的にどんな状況だったのか、それから、富士市の藤村さんの方からありました富士山の活動とかですね、そういったことについて、この地域が古墳時代後期にわっと古墳が広がっていく前の段階というのを一回整理したいと思います。滝沢先生からお願いいたします。

**滝沢** はい。ちょっと大きな課題をいただいてしまいました。



第150図 トークイベントの様子（木村氏）

古墳時代中期がどういう時期だったのか、というご質問ですが、古墳時代中期というのはほぼ5世紀にあたる時期になるのですが、その時期には、皆さんもよく知っている非常に巨大な前方後円墳が大阪平野に造られる時期です。実はそれだけではなくて、各地でも非常に大きな規模の古墳が造られる時期になっています。

例えば東日本の群馬県では、200メートルを超えるような古墳（太田天神山古墳）がその時期に造られていますし、西日本では岡山県内で200メートル300メートル級の古墳（作山古墳、造山古墳）が造られるのもこの時期なんです。ただ、古墳時代前期では比較的小さな地域単位で有力な古墳が造られているのですが、古墳時代中期という5世紀の時期になると、どうもそれらがいくつかに広い範囲にまとめられて、広い範囲の中で、一つ規模の大きな古墳が造られるという状況が生まれてくる地域が多いんですね。

東駿河の地域では、いまのところそのような広域を統括する有力者の墓と見られる古墳が、少なくとも古墳時代中期、5世紀の頃にはどうも見当たりません。これは何も東駿河だけではなく、静岡平野、清水平野の辺りでも不明瞭です。静岡県内でいいますと、西の方にあたる遠江地域の磐田市に堂山古墳という100メートル級の古墳が古墳時代中期中頃に造られていますので、その地域には、古墳時代中期的なより広い範囲を支配する、大首長と呼べるような人物が葬られたと思われる古墳があって、その人物を頂点としたピラミッド的な社会構造が見て取れるのですが、どうも東駿河ではその点がよくわかりません。今回、時間の関係でそこまでの話はできないと思いますが、古墳時代中期の古墳が無いわけではなくて、今回取り上げた船津古墳群など、愛鷹山麓でも5世紀代の遺物を出土している古墳がありますので、そういったものを今後どう考えていくのかという点が問題だと思います。

いずれにしても、古墳時代前期から中期になると、先ほど言ったように、いくつかの小さな地域単位のまとまりから、それらがまとめられていくような時期になります。ところがやがて古



墳時代後期になると、それがまたバラけて小さな単位に分かれるという変化をたどるわけで、古墳時代中期というのは、いったん大きな政治的まとまりが汎列島のいくつもできていくような時期、そういう意味では政治的に大きな変動があった時期だということは間違いないと思います。その背景には、当時、朝鮮半島で軍事的緊張が大きく高まる中で、皆さんもよく知っているように、ヤマト王権を束ねていたであろう倭王たちが何度も中国の南朝に使者を送って、いわゆる倭の五王が外交活動を繰り返しているわけですが、そういった動きも含めてかなり大きな政治的変動があった時期だと思われます。

ただ、実際に地域中での集落の動きを見ると、それだけでは読み解けない要因がそこに介在しているように思われますので、その辺りを考える上でも、この地域の様相を一つのケーススタディとして見るのも面白いと思います。すみません、ちょっと長くなりましたが。

**木村** ありがとうございます。今の、様相、というところを含めて、少し藤村さんの方から補足いただければと思います。

**藤村** 東駿河ですと、大きな古墳が5世紀代にはあまり見られないというお話だったかと思います。その一方でですね、地域的な観点からちょっと補足させていただきますと、この時期にどうも富士山の噴火活動もそれなりに活発であったということがいえると思います。近年、火山の研究者の方々により、富士山の噴出物の年代測定が進んでくる中で、4世紀の終わり頃から5世紀代にかけて、富士山の噴出物が南側や東側へかなり飛んでいるということがわかっております。

考古学的に発掘調査で集落を実際に覆った火山灰というのが特定できた例はそんなに多くないのですけれども、唯一、5世紀の末頃に富士山の南麓にかけて噴出した、「大淵スコリア」と我々考古学の研究者が呼んでいる例がございます。それで今回お話に出てきた愛鷹山麓の集落とか、あるいはまた浮島沼ラグーンを挟んで反対側の田子の浦砂丘の集落周辺に、厚さ30cm以上の火山灰・スコリアが堆積しているということがわかっ

ておりますので、そうしたものが堅穴建物を埋めている例もございます。それがだいたい5世紀の末頃ですので、ようやく古墳の築造が再開し始める段階でもあるのですが、そういったものが古墳の築造動向と、あるいは環境的な要因などともどのように組み合わせっていくかというのを、これから読み解いていく作業が必要なのかな、というふうに考えております。

**佐藤** ありがとうございます。そうしましたら、今回のメインのテーマの方に少し入っていけるかなと思います。

今回タイトルに「愛鷹山に眠る開拓者たち」、副題として「東海最大級の古墳群と地域の再生」、そんなテーマを掲げさせていただきました。

東海最大級の古墳群ということで、藤村さんの発表の中でもありましたけれども、沼津市と富士市にまたがるこの愛鷹山の中に、1000基程度古墳があるということが、今回の展示内容の検討でも整理できました。

「開拓者たち」という言葉からは、皆様方いろんなイメージを持たれるかというふうに思いますが、まず滝沢先生のご発表の中でも、この愛鷹山の古墳群を築いた人たちの生活域というのは田子の浦砂丘上にあるんだという、お話をいただきました。その中で開拓者たちという側面に加えて、滝沢先生は馬具の出土から交通路の整備ですか、そういったことを切り口として提示をいただきました。

また一方で藤村さんのほうからは、田子の浦砂丘上にある沼津市中原遺跡の調査例などからです



第151図 トークイベントの様子（佐藤）

ね、水産加工、それから手工業生産センターのようなものも開拓者たちの素顔の中に切り口として提示をしていただきました。

違った切り口でこの「開拓者たち」というをみてきたわけですが、滝沢先生のほうからも藤村さんの切り口に対して、もしくは藤村さんの方からは滝沢先生の切り口に対して、お互い相反する切り口ではないんだろうというふうに思いますので、少し感想めいたものでも結構ですので、一言いただければというふうに思いますが、まず滝沢先生のほうから藤村さんにですね、一言いただければと思います。

**滝沢** はい、藤村さんの今回のご報告をいただいて、私も大変勉強になりました。

「開拓者」、これをどういうふうに捉えるかですが、例えば一般の皆さんがそういう言葉の背後に普通感じるのは、それはどこからか別の人ややってきたのか、それとも在来の人たちが何か新しい事業に関わったのか、というようなところではないかと思えます。

地域の中の考古学的な証拠においてそのあたりはどうか、何か読み解けるような材料があるのか、という点を教えていただければと思います。

**藤村** はい。「開拓者がどこから来たのか」というのは、勉強している我々にとっても興味関心のあるテーマです。

愛鷹山麓の古墳だけでやっていると我々もまだ見えきれていないところもありますので、隣の富士山麓の事例で恐縮なのですが、富士市の伝法地区に、中原4号墳という6世紀後半から末頃

に造られた、手工業生産に関わる遺物が多数出土した古墳がございます。その古墳の報告書を作っていく中で、この被葬者がどこから来たのか、あるいは在地の人なのか、ということにもやはり関心がおよんだ経緯がございます。その中で、中原4号墳の被葬者の例をあげさせていただくと、そのアクセサリーのパターンですとか、あるいは持っている馬具の種類ですとか、あとは鉄鍔の形ですとか、そういったところから、西日本と関係のある人ではないかと考えました。特に装身具、アクセサリーからはですね、今の愛知・岐阜から更に西側の滋賀とか、もっとそれより以西の人たちの装身具のラインナップ（種類や特徴）とよく似ているということが報告書の中で指摘されております。まあ、その一人の成果をもって、なかなか一般化はできないかもしれないですけど、同じような無袖の横穴式石室で、さらに菊池さんのお話の中にもありました中原4号墳と共通する段構造の石室というのも、この大規模群集墳の横穴式石室の特徴の一つだと思いますので、そういったところから行くと、中原4号墳と同じように外の地域からやってきた人たちというのが一定数いたとしてもおかしくはないかな、というふうに考えております。

**木村** 菊池さんのほうで、横穴式石室において東駿河でまとまりがあるよ、というお話いただいたんですけど、このあたり、石室のほうからなかなかご意見ありますでしょうか。

**菊池** はい。横穴式石室なんですけれども、先ほど少しご説明しましたとおり、富士より西側、静岡から伊勢湾岸にかけては非常によく似た原理と構造を持つものが分布してますけれども、この地域だけ少し特殊なものがありますので、もしかしらこの地域の人たちは、そういった東海の西部の方を飛び越えた地域との交流があったというふうに考えたほうがいいんじゃないかなと思います。

ただそれがどこの場所かと言われると、なかなかそれはむずかしいところですけど、西日本に広く求めていくのがいいかなと思いますし、また滝沢先生のお話にもあったように、関東とかそういったところとの繋がりとかも考える必要がある



第152図 トークイベントの様子（滝沢氏）

んじゃないかな、というふうに考えております。

**佐藤** はい、ありがとうございます。藤村さんの発表のほうでも一つ、中原遺跡で掲げていただきました、水産加工ですとか各種手工業生産ですとかの存在した証拠が発掘調査で明らかになってきたという話がありました。

中原遺跡の成果について知らないという方々もいらっしゃると思いますので、実際、報告書をまとめられた木村さんの方から少し中原遺跡の紹介をいただく中で、この愛鷹山の古墳群が築かれていく背景みたいな、そういうことも、一言いただければと思います。

**木村** はい、中原遺跡ですね。実際私も掘った面積はそれほど多くなくて他のスタッフが発掘を担当して、現在もまだ発掘調査中でして、今私が話すことは平成22年まで掘っていた分の成果というふうにお考えいただきたいと思います。ですので、今後、ちょっと評価が変わってくるかも知れないということを最初に申し上げさせていただきます。

私がまとめた分に関しては、集落としては6世紀末頃から9世紀初頭位までで、最盛期は7世紀。ちょうど今回タイトルに入れてますけれど、古墳群が作られている時期が最盛期ですね。それから8世紀前半くらいまでが非常に多いという状態です。

手工業生産品、私の方の報告で出しましたけれども、8世紀入るかもしれませんが鉄鉗、これ以外にガラス小玉の鋳型、それから紡錘車、それから水産加工の罎や釣り針、こういったものなんかも多数出ています。それから鉄製品もたくさん出ているというのが特徴的なところなんです。ただ、中原遺跡で工房が見つかったかということ、そういうものは実際に見つかっていないということになります。愛鷹山の古墳群、1000基築かれていて、そこに入っている副葬品をこういった集落が作っていたとなると、相当な数を作らなきゃいけないということになります。そういう工房とか、そういうものについての遺構としては、はっきりよくわからないということになります。

今回前提としまして、かなり中原遺跡と古墳群

の関係がある、という前提で話をしてきましたけれども、もう少し実は詰めなきゃいけないことがある、そういうような状態になっています。

**佐藤** はい、ありがとうございます。中原遺跡のほうで、水産加工や手工業生産ですとか、そういう工業センター的な側面と、それからそれを外に運ぶための物流ターミナル的な側面など、いろいろな側面を中原遺跡に当てはめていく中で、そういった人たちが愛鷹山の古墳群、1000基以上の古墳を造っていく。そんな歴史の状況が見て取れるのかなと思いますが、7世紀にそれほど多くの古墳を作った愛鷹山の古墳文化も、いずれ終わりが見えてくるわけです。

今回のテーマのひとつでも、その後がどうなっているのかというの、趣旨説明で木村さんのほうからあったと思うんですけど、愛鷹山の古墳群が造られなくなった後、沼津、富士のそれぞれの地域がどういった地域発展を遂げていくのか、そんな話に移っていければと思います。

まず富士市の状況からできればというふうに思いますが、先ほど伝法古墳群といわれる、先程藤村さんのほうから紹介された古墳があるわけなんですけれど、その後7世紀以降、8世期の状況、愛鷹山の古墳の終焉から含めて、改めて提示していただければと思うんですが。

**藤村** 古墳とそれ以後の状況ということですが、先程も、私の方でもお話で出させていたしております、富士市の伝法地区のあたりの古墳群において、6世紀の後半から7世紀代にかけて、



第153図 トークイベントの様子（藤村）

非常に卓越した副葬品を持つ古墳が継続的に造られているという状況がございます。

その古墳群が作られていた位置に、まさに8世紀の初め頃に、どうも古代の駿河国富士郡の役所に関連する建物ですとか、役所の関連施設、倉庫のような施設、あるいはその役所に出入りする人たちが住んだ堅穴建物がたくさん作られるようになっており、そういった（古墳群から郡家へという）変遷を遂げるのが伝法古墳群の一つの大きな特徴になってまいります。

このことから考えるに、どうも伝法古墳群のリーダーたちというのが、8世紀にそのまま富士郡の役所を管轄するような、いわゆる郡領氏族と呼ばれる地域を代表する指導者に成長していくのだろうというふうに考えております。

また一方で、愛鷹山麓にもたくさん古墳が築かれていたわけですが、富士市域、あるいは富士郡域のような（古墳群から集落・郡家へという）変遷を遂げるかといえば、愛鷹山麓だけみると、それはちょっと言えないかなという印象です。

**佐藤** ありがとうございます。そうしましたら、沼津市域の状況について、木村さんの方からお話いただければと思います。

**木村** 私の方からは、沼津市側のお話をしたいと思います。先ほどの質問の中に、古墳時代中期、ここからだいぶ集落とか大規模な首長墳とか見えないうって話からスタートしているんですけども、「地域の再生」というタイトルをつけたというのは、まずそこで一回、東駿河の状況がなかなか見え辛くなるというところから、古墳時代後期

にパーッと古墳だとか集落が増えていく、それがある意味、「地域の再生」というふうなイメージで捉えていくわけですが、それが8世紀になりますと、中原遺跡、先ほども言いましたが8世紀前半くらいまでが最盛期で、後半になると急激に、中原遺跡は集落の堅穴建物の数も減ったりするんですね。そして、沼津と富士の市境域っていうのがだいぶ見えなくなって、むしろ8世紀後半、それから9世紀くらいにかけて、今の沼津の中心市街地あたりに大規模な集落が展開していく、もう少し前くらい、8世紀の前半くらいから実際は展開し始めるわけですが、かなり変わっていくようなイメージがあります。

そういった感じで見ていきますと、古墳の終焉とともに中原遺跡がだいぶ下火になっていって、その人たちが実際に富士や沼津に移動したのか、それはちょっとわかりませんが、沼津の中心部には、さきほど私の話にもありましたが上ノ段遺跡とか、下石田原田遺跡とか、かなり大きな集落、あわせて日吉庵寺とかの寺院なんというものが出てくる。そして、滝沢先生のお話に引きつけますと、それが古代の東海道の近くに作られている。つまりですね、7世紀代としてつくられてきた道という交通路の問題に乗っかりながら沼津の中心市街地にですね、大きな集落等が展開していく。まだ実際の場所というのは特定できませんが、駿河郡の中心域というのがそういったところで出てくるのではないかとこの風を考えられます。

**佐藤** ありがとうございます。今回、「愛鷹山に眠る開拓者たち」という、愛鷹山に存在する1000基以上の古墳群を共通のテーマとして、我々富士市の職員、それから沼津市の職員です、勉強してきたわけですが、こういった一つのテーマをもとに、沼津らしさ、富士らしさ、現代に繋がる部分がどうあるのかというのを、今回少しづつ明らかにしてきました。

二つ目のテーマとして、現在行政的に富士市と沼津市とわかれておりますけれども、「文化財を今後どう活かしていくのか」という、そういったことも今進めている最中です。そういった部分で



第154図 トークイベントの様子（菊池氏）

菊池さんの方から、地域計画、そんなお話もいただきました。現在、富士市の方では令和2年度、令和3年度と2カ年で地域計画というのを策定をしている最中です。その座長には滝沢先生についていただきまして、菊池さんのほうには県の職員としての立場で、我々の策定する計画を見ていただいている最中です。今日ですね、動画撮影日を基準にしますと明日、又その会議が富士市のほうでありますので、滝沢先生には連日我々のこういった文化財に対するイベントにお付き合いいただいているわけです。

富士市では先行して進めてまいっておりますが、沼津市さんの方も来年度以降、地域計画の策定に入るという風に聞いております。

富士市の方では、富士市の歴史や文化を示す15個のストーリーを関連文化財群とし、菊池さんの方からお話がありましたけれども、関連文化財群を活かして取り組むというのを設定しました。その中で、実は15のストーリーの中でも、2つ古墳のテーマをかかげて、かなり古墳推しのテーマを掲げております。

またもう一個、菊池さんのほうからもありました文化財保存活用区域というのがありますが、まあ一つの地域の中にいろんな文化財が集中している地域がある、そういったものを周辺の環境を含めて文化的な空間を創出するための計画をする区域というふうに言えると思うんですが、我々富士市の方では古墳が密集している須津地区をその一つに選んでいければ、と現在策定を進めている最中です。

またこういった県の立場でお付き合いをいただいている菊池さんの方から、富士市の方で今進めている地域計画に対して、また今後沼津市さんが進めていくであろう地域計画に対して、アドバイスの部分を一言いただければと思います。

**菊池** 今回の講演とも絡むんですけど、非常にこの浮島の地区というのが交通の結節点になったという話があるので、ぜひ沼津市さんのほうでこれから取り組むときには、広域連携ということを視野にいれていただければと思います。

今回の沼津市さんと富士市さんの共同の開催

事業も広域連携の第一歩なのかもしれないけれども、もちろんこの地域の古墳というものもそうですけど、他の地域との連携というのも視野に入れてもらうことで、沼津市らしさ、さらに関連地域との関わりがたくさんあるよということで、歴史的な視点を加えることができるんじゃないかなと思います。

またこの今回のタイトルで、「愛鷹山に眠る開拓者たち」ということになっていきますけれど、古墳の開拓者はもちろんなんですけれど、浮島沼は近世から昭和にかけての干拓の歴史もあって、そういった開拓者っていうのもキーワードになってくるかと思いますが、できればぜひ目指していただきたいのが、古墳の活用の、開拓者となるような両市になっていただければと考えております。

**佐藤** はい。重い宿題が与えられたような気がしますが。

滝沢先生の方には今、県の大綱の策定の座長もお務めいただきまして、富士市の方の計画の座長もお務めいただいております。また、明日の会議にもまたご出席いただくわけですけども、滝沢先生の方から、我々の文化財にに対する宿題でもいいですし、文化財を活用していくにあたって、もしくはそれを守り伝えていくのは、もしかしたらこの動画を見ていただいている皆さん方かもしれませんけれど、いろいろな人に対して、我々に対してもそうですし、文化財を取り巻く人々に対するメッセージをいただきたいと思います。

**滝沢** はい。ただいま大役を仰せつかったのですが、まずそこに行く前に、富士市の方が先行して地域計画が策定されようとしているわけですが、隣接する市であるとは言え、それぞれに特徴があるという点にふれておきたいと思います。

富士市の方は、さらに北側にある富士宮市も含め、富士山というのが一つの大きなテーマになるわけです。もちろん沼津市からも富士山は見えるわけですが、沼津の場合は伊豆半島の一部も含まれていて、そこは一つ沼津の大きな特徴にもなってくるのだと思います。そうした個性を活かしたかたちで、特にこれから地域計画を作成していく沼津市に関してはその点への意識が期待され

るところだろうと思います。

ただし、だからといってそうした個性の部分だけではなく、愛鷹山麓の古墳文化などは、まさに両市の接点になるようなテーマですから、今回企画された講演会のように一層連携が深められればいいのではないかと考えています。富士市の方は先行して地域計画を作っていますが、その点については私もとりまとめ役としてなかなか考えが及ばなかった部分もあるかもしれません。

おそらく、各自治体で作成する地域計画というものは、それぞれの行政の中で閉じた形になりがちなのではないかと懸念していますが、これから進めていく沼津市は、後からスタートするという利点を活かしてそういったところを考えていくのも一つの手かなと考えます。もちろん、それぞれの行政では、その範囲でいろいろプランを作らざるをえない側面があると思うのですが、お互いの接点をうまく接続できるような、開放できるようなあり方を模索していくのも重要だと思います。そういう意味では、愛鷹山麓の古墳を協力して位置づけていくというのは、両市にまたがる非常に重要な課題であって、それはいま述べた点を実現していく典型的なケースになりうると思います。

まず、そのことを申し上げた上で、最初のご質問についてですが、こういった文化財を保存し、後世に伝えながら活用していく、あるいはみんなでそれをもとに学んでいく、という場合の主役は、市民のみならず、国民のみならずですので、今回のような形で文化財に対する発信が近年どんどん進んできている中で、興味をもっていろいろなイベントに参加し、関心を深めていただいて、行政の方にも忌憚のないご意見を寄せていただければいいのではないかと考えています。そういうことが、今後の文化財の姿を形作っていくことになるでしょうし、それがひいては地域づくり、街づくりにも役に立って行くんだらうと思いますので、ぜひ、大いに関心をもって、古墳に限らず、文化財について学び、そして見守っていただきたいと思いますところですね。

**佐藤** はい、ありがとうございます。

動画を本日ご覧いただいている皆さん方、沼津

市の方々ですと、沼津市といえば、古墳と言えば高尾山古墳、富士市で言えば浅間古墳、確かに古墳時代の前期の大型の前方後方墳としては全国的にも有名な古墳ですし、またその保存についてもいろいろと議論がかわされてきたところでありませうけれども、皆さん方ももしかしたら、そういった大型の古墳についてのテーマをまた今度やってほしいなあというふうなご意見があるかもしれません。

また、今回ですね、我々が進めていることは、滝沢先生の方からもありましたけれど、こういった連携の事業というものはまず第一歩ですので、お互い地域計画ということを作ることももちろんそうなんですけれども、我々文化行政の担当者レベルできちんと連携をとりあって、今回のこういったテーマ、連携の事業で終わることなく、また今後も、またそういった高尾山古墳や浅間古墳といった、また別の切り口での連携を、またさらに進めていって皆さん方が、この富士市らしさ、もしくは沼津市らしさ、もしくは古墳文化ということ、文化財そのものに触れることのできる機会をなるべく多くつくって、みんなで文化財を守って、みんなで文化財を活かして、楽しんでいきたいと、そんなふうにご考えております。皆さん方から次またこんなテーマでやってほしいよということがあれば、またわれわれのほうにどしどしご意見いただければ、皆さん方を、我々、応援団というふうにご考えて、次のテーマをどんどん進めていきたいなあというふうに思います。

では、最後に木村さんのほうから、今回の企画を我々と一緒に作り上げてきた木村さんの方から、最後に閉めの一言をいただいております。

**木村** 最後の言葉になります。あまり長くはないようにしておきたいです。

今回、やっぱり愛鷹山の古墳群の特徴というか、中期の全国レベルの大首長が築いた古墳だという話ではなくて、今話が出ましたけど高尾山古墳、浅間古墳のような、大規模な王が地域を治めているような、そういうストーリーじゃなく、藤村さんがヒストグラムなんか出していただきましたけ

れど、中規模な、まあ、1000基ということですから、かなりその並びたつような、そこは大きな階層性っていうのは、そこまでいえないっていうような、そうした人たちが築いてきた文化ということになるかと思います。それが沼津と富士にまたがっているということ、こういうところが今回のポイントだったのではないかな、というふうに思います。これがですね、もしかしたら、まだまだ掘り下げも必要でしょうし、検討する課題というのたくさんあるということは理解はしておりますけれども、こういう人たちがいろんな側面を持っていた、その「開拓者」という言葉でまとめましたけど、水産加工であったり、鉄の加工であったり、いろんな、道のことだったり、そういったものを含めると、それがあ意味「地域らしさ」というものに繋がってくるのではないかと思います。今、考えているところです。

こういった試みが、うまく皆様方にお伝えできたのかなというところで、若干の不安がありますけれども、今回こういった意図をもって講演会をさせていただいたということになります。

ちょっと慣れない動画撮影ということで、本来であればお客さんとのキャッチボールなんているのがあってですね、我々行政レベルでの交流以外、やっぱり市民の中での交流ですね、みんなで文化財を守っていきましょうということになりますので、そういったものも本当はできればよかったのですが、是非こういった動画を見ていただいてですね、沼津市と富士市の方々、それだけでなく、動画をみていただいている隣の地域の方々と手を取り合っていたいただいて、みんなで文化財をまもっていくと、そういった流れになっていく、それがうまくいけば今回の講演会の役目を果たしたのではないかと思います。長時間でございましたけど、最後まで観ていただきまして、ありがとうございました。





令和3年度 沼津市・富士市連携 埋蔵文化財活用 特別展示・講演会

# 愛鷹山に眠る**開拓者**たち

東海最大級の古墳群と地域の再生

講演会資料集



講演会資料集



令和4年3月

沼津市教育委員会・富士市





フナーツくん  
船津古墳群の妖怪

#### 【表紙写真】

- 〔中央〕 南から愛鷹山を望む / 沼津市 (沼津市教育委員会蔵)  
 〔左下〕 単鳳環頭大刀柄頭 / 芝荒2号墳 (沼津市教育委員会蔵)  
 〔右下〕 単鳳環頭大刀柄頭 / ニツ塚古墳 (沼津市教育委員会蔵)

#### 【裏表紙写真】

- 〔中央〕 船津古墳群 / 富士市 (富士市蔵)  
 〔右上〕 馬具(杏葉) / 荒久城山古墳 (沼津市教育委員会蔵)  
 〔左下〕 玉類 / 船津L-207号墳 (富士市蔵)



シバーラちゃん  
芝荒古墳群の妖怪



ノビーちゃん  
曾比奈牧の馬



【富士市】須津古墳群出土の馬具

千人塚古墳、中里大久保古墳(K-95号墳)、K-98号墳、K-99号墳からの出土品。須津古墳群は、愛鷹山麓周辺における馬の生産や飼育、馬を使った交通網の管理などを行った集団の墓域とみられる。(富士市蔵)



【沼津市】

荒久城山古墳出土の馬具（杏葉）

船津古墳群の南東に位置する古墳から出土した。この古墳の主は、駿河東部地域ではいち早く金銅装馬具セットを入手した有力者とみられる。(沼津市教育委員会蔵)



馬具の名称と役割



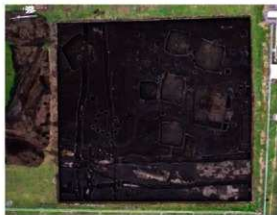
【富士市】船津 L-62 号墳出土の馬具

(富士市蔵)

## 海辺の集落と手工業生産



〔沼津市〕中原遺跡から浮島沼と愛鷹山麓の古墳群を望む



〔沼津市〕中原遺跡の調査状況

第6章

愛鷹山に眠る開拓者たち

東海最大級の古墳群と地域の再生



〔沼津市〕中原遺跡出土のガラス小玉鑄型  
(沼津市教育委員会蔵)



〔富士市〕  
中原4号墳の横穴式石室と  
出土農具

中原4号墳は富士山南麓に築かれた径11mの円墳。農具や鍛冶具、生産用具が多数副葬された状況から、この古墳の主は、土木開発や農業・林業、布・皮生産、鉄器生産に携わる渡来人を含む技術者集団を多数率いた「富士山麓の開発王」と評価されている。このような指導者が、愛鷹山の古墳群の集団と共同でプロジェクトを実施していた可能性も十分に考えられる。

(富士市蔵)

## 例 言

- 1 本書は、令和3年度 沼津市・富士市連携 埋蔵文化財活用 特別展示・講演会『愛鷹山に眠る開拓者たち 東海最大級の古墳群と地域の再生』の開催にあわせて動画公開した講演会に係わる資料集である。
- 2 特別展示・講演会は、沼津市教育委員会と富士市の共催により実施した。事業費は『地域の特色ある埋蔵文化財活用事業』の補助を得て実施した。
- 3 本書の編集は、富士市文化振興課が行った。
- 4 特別展示・講演会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、当初の開催方法・日程を大きく変更して実施した。以下に関連する資料や動画などを提示する。

富士山かぐや姫ミュージアム秋のテーマ展 令和3年度 沼津市・富士市連携 埋蔵文化財活用 特別展示

『愛鷹山と生きる一原始・古代の生存戦略』

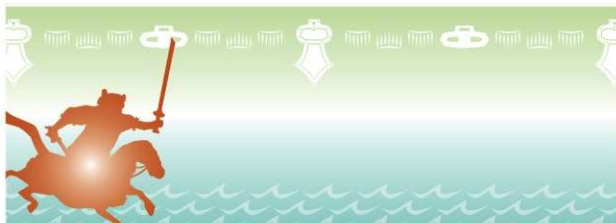
2021（令和3）年9月13日（土）から同年11月28日（日） 会場 富士山かぐや姫ミュージアム



令和3年度 沼津市・富士市連携 埋蔵文化財活用 特別展示

『愛鷹山に眠る開拓者たち ～東海最大級の古墳群と地域の再生』

2022（令和4）年3月10日（木）から同年3月24日（木） 会場 沼津市立図書館4階展示ホール



# 愛鷹山に眠る**開拓者**たち

東海最大級の古墳群と地域の再生



講演会資料集



## 目次



### 巻頭図版

愛鷹山麓の古墳群と馬具  
海辺の集落と手工業生産

### 例言

### 目次

愛鷹山に眠る開拓者たちとは ～本企画の開催趣旨にかえて～ (木村 聡) …… 1

愛鷹山麓の後期古墳を考える (滝沢 誠) …………… 3

愛鷹山南麓の古墳群と浮島ラグーンの開発 (藤村 翔) …………… 9

古墳を地域で活かす (菊池 吉修) …………… 13

愛鷹山周辺遺跡分布図



## 愛鷹山に眠る開拓者たちとは



本企画の開催趣旨にかえて～

木村 聡

### 1 はじめに

「沼津が「お町（都市）」として発展し始めたのはいつごろですか？」学芸員として地域の方々に沼津の歴史を紹介しているところした質問を受けることがある。これは立場によってさまざまな回答があるが、例えば江戸時代の沼津城を中心とした町割りから現在の町割りへ大きく変化させた大正時代は、回答の一つの候補だろう。令和5年度に市制100周年を迎えるということからも、行政的には沼津「市」としての歴史はこの時から始まるといえる。

しかし日ごろから古来の豊かな歴史文化に触れている考古学の専門職員としては、別の回答を提示してみたい。歴史を紐解いてみると、沼津市域には37,000年前ごろから始まる旧石器時代から人々が暮らし始めているが、古い遺跡は愛鷹山の山中で見つかるケースがほとんどで、現在の沼津駅周辺、いわゆる市中心域の開発はまだ始まっていない。3世紀

中葉という年代の前方後方墳である高尾山古墳の築造は、様々な地域と交流を持ちつつ、地域を広く治める「王」の登場ともいえる画期であるので、候補としてもよいが、やはりこの段階でも集落は増加しているものの都市的な要素はまだ見ることはできない。さらに古墳時代中期（5世紀）ごろには富士山の噴火によって、富士や沼津にはほとんど人が暮らさなくなる時期があることも、現代の街の発展と隔たりがあるといえるだろう。

では、筆者が考える「お町」の開始時期はいつか。それは8世紀の「奈良時代」と提示としておきたい。首都が奈良に置かれ、畿内から現在の富士・沼津には東海道が整備された時代である。この時代は交通の要衝が中央政権と深い関係を持つことが多く、富士は富士郡として、沼津は駿河郡として、東海道沿いには官衙（古代の役所）、規模の大きな集落、仏教寺院も造られるようになった。道、役所、大規模集落、宗教施設など、まさに現代につながる都市的な要素の登場時期といえ、富士市域では「東平遺跡」（富士市伝法）、沼津市域では「上の段遺跡」（大手町）「日吉庵寺跡」（大岡）などがこうした要素を持った遺跡である（図1）。



図1 奈良時代の官衙関連遺跡と前時代の古墳密集地帯

## 2 古墳時代後期は「お町」誕生の助走期間

しかし、富士・沼津が奈良時代に突如発展したかといえば、必ずしもそうではない。古墳時代後期から飛鳥時代（6世紀後半から7世紀）には、荒廃した富士・沼津において、これまでよりも規模の大きな集落が古代東海道沿いに登場し始め、さらには愛鷹山南麓にはこれら集落の有力者が葬られたと考えられる古墳が約1,000基以上も築かれていることが、近年の集落の調査や古墳の再整理で明らかになってきた。特に1,000基以上という数は東海地方でも最大級となる。

これらの遺跡の出土品をみると、集落では鉄製品やガラス玉を製作していたことを示す手工業製品（写真1）や水産加工工具と考えられるナベなどがあり、また古墳の副葬品には刀や鉄織（やじり）などの武具の他に、物資運搬においても重要な役割を果たしていた馬の存在を示す馬具、製糸や織物のための紡錘車や針、加工工具である刀子、山河の開発を行うのに使用したであろう斧や鎌などがある。これらの遺物には渡来系技術者との関連を示すものもあることから、愛鷹山に葬られた人々は馬や当時最先端の道具等を用いながら地域を治めていた人物であると推定される。つまり、愛鷹山に眠る古墳の被葬者たちこそが5世紀に荒廃した地域を整え、その後の社会の礎を築いた「開拓者」といえるのではないかと、いわば奈良時代における富士・沼津の発展は、古墳時代後期に行われた開発が下地になっているのではないかと、そのように最新の研究成果から考えられるようになってきているのである。



写真1 鍛冶道具

## 3 富士市・沼津市の共同開催の意味

以上のような背景を見出すことができる古墳時代後期の古墳群であるが、その分布の中心は沼津市西部の石川以西、富士市東部の須津や船津以東にあることがこれまでの調査で明らかになっている。また大規模な集落も沼津市西部の一本松や桃里に展開した。このことを鑑みるに、両市の発展の礎の中心は現在の市境付近にあったといえよう。

前節でみた古墳被葬者の評価は、富士市は富士市、沼津市は沼津市、それぞれに研究が進められていたものであるが、行政区分を取り払って両市の学芸員が「愛鷹山南麓の古墳群および集落」という同一の視点で遺跡を見ることで、よりその性格が鮮明になってきた。これは連携事業の大きな成果である。

こうした両市の発展において大きな意味を持つ古墳群の保存活用に対し、今後も連携を図っていくことをも目的に、今回の講演会と特別展示は企画されている。講演会では、沼津市では文化財保護審議会委員、富士市では富士市文化財保存活用地域計画策定協議会委員を務められている滝沢誠氏に愛鷹山南麓の古墳群について最新の研究成果に基づいて全体的な評価をしていただくよう依頼した。さらに富士市からは事例紹介とともに沼津市に先行して実施されている最新の研究成果を、そして静岡県文化財課には近年の文化財活用の現状と課題の紹介と古墳の保存活用をテーマにそれぞれ報告いただく。

特別展示では、富士・沼津両市から出土した初公開のものを含む豊富な出土品を展示し、開拓者たちの素顔に迫っている。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、講演会は無観客となるなど、本企画に参加・見学される方々にはご迷惑をおかけした。ただ、新たな試みとして講演会はYouTube配信となっているため、現地に来られない方もぜひ動画を見て愛鷹山の古墳文化に触れてもらいたい。

（沼津市教育委員会文化振興課）





## 1 愛鷹山麓の古墳

富士山の南側に位置する愛鷹山の南麓には、中小の河川によって開析された深い谷とそれらによって隔てられた尾根が樹枝状に発達している。その眼下に広がる駿河湾の沿岸には、富士川や狩野川の砂礫を供給源として形成された田子の浦砂丘が東西約22kmにわたって弧を描くように延びている。この愛鷹山麓と田子の浦砂丘に挟まれた東西約15kmの浮島ヶ原低地は、昭和の干拓事業によって完全に陸化するまで、現在の田子の浦港付近で駿河湾と接続する内水面（＝浮島沼）を形成していた。

こうした地形的環境にある愛鷹山麓には、6世紀の終わりから7世紀にかけて数多くの古墳が営まれ、その数は1,000基を超えるとみられている。なかでも、富士市須津古墳群、同船津古墳群、沼津市石川古墳群はそれぞれ200基前後の古墳からなり、この一帯を代表する古墳群となっている。これまでの発掘調査によれば、それらを構成する古墳のほとんどは直径10m前後の小規模な円墳で、横穴式石室を埋葬施設としている。まさに、古墳時代後期に特徴的な群集墳の姿そのものと言えよう。

じつは、これほど多くの古墳が密集している場所は、静岡県内はもちろんのこと、東日本全体を見渡してみても数少ない。ここでは、そうした古墳密集地帯が成立した背景を探る手がかりとして、①集落と古墳群の関係、②馬具副葬古墳の分布、③特徴的な籠手の副葬に着目し、愛鷹山麓における後期古墳の特質に迫ってみたい。

## 2 山麓の古墳と海辺の集落

愛鷹山麓は、標高100～200m付近を中心に後期旧石器時代の遺跡が数多く分布することでもよく知られている。つづく縄文時代にも同様の立地をとる遺跡が点在し、湖沼に面した南向きの緩斜面が狩猟や採集、漁撈を生業とした人々にとって好都合な場所であったことがうかがえる。

この一帯における水田稲作は弥生時代中期中葉に始まるが、集落の数が増加するのは弥生時代後期からである。尾根の先端に立地する沼津市目黒身遺跡や低地内の微高地に立地する同離鹿塚遺跡は後期前半を代表する集落で、生産基盤となる低地に隣接し、離鹿塚遺跡では多数の木製農具が出土している。

つづく弥生時代後期後半になると様相は一変し、集落は愛鷹山麓東部の標高100～150m付近に集中的に営まれるようになる。植出遺跡や八兵衛洞遺跡を含む足高尾上遺跡群がそれと、遺跡群の北側には尾根や谷を東西に貫いて掘れた1km以上に及ぶ溝の存在が確認されている。このような高地に密集度の高い大規模な集落が成立する要因については様々な見方があるが、比較的短期間にそれが認められる点からすれば、何らかの社会的インパクトによるものとみるのが妥当であろう。

古墳時代前期になると、集落は再び尾根の先端部や低地部に営まれるようになる。なかでも、富士市赤宜ノ前遺跡や同宮添遺跡のように浮島ヶ原低地の周囲に立地する集落がみられるようになる点は、富士市沖田遺跡で発見された準構造船の存在ともあわせて、浮島沼の内水面を利用した水上交通の発達をうかがわせるものである。ところが、それらの集落の多くは中期になると忽然と姿を消してしまう。その要因としては、河川の氾濫や大規模地震による地盤の変化、富士山の噴火に伴う降灰といった自然災害の影響が指摘されている（藤村2017）。

古墳時代後期の集落は、再び浮島ヶ原低地の周囲に営まれるようになる。とくに、愛鷹山麓に多数の古墳が築かれる後期後半以降の集落は、田子の浦砂丘上に列状に分布している点に大きな特徴がある。富士市新田遺跡、沼津市中原遺跡、同東畑木遺跡などが代表例であり、古墳造営の最盛期と重なるように、それらの多くは7世紀前半に集落形成を開始している（木村2016）。これらの事実をふまえるならば、愛鷹山麓に多数の古墳を営んだ集団の主な居住域は、浮島沼を挟んで対岸に位置する田子の浦砂丘上に求めるのが妥当であろう。集落と古墳群の具体的な対応関係については個別に検討が必要であるが、例えば、大規模古墳群の一つである石川古墳群を造営した集団は、その対岸に位置する中原遺跡に

集落を形成していた可能性が考えられる。

以上のように、古墳時代後期になって砂丘上に居住域を定めたいくつかの集団は、北側に広がる生産域（浮島沼と周囲の低地部）とさらにその北側につづく墓域（愛鷹山麓）という南北方向の細長い範囲を個々のテリトリーとしていたことが想定される。愛鷹山麓の後期古墳を理解するにあたっては、こうした景観的特徴をまずは把握しておく必要があろう。

### 3 馬具副葬古墳と陸上交通

愛鷹山麓における群集墳の特徴として、鉄製馬具を副葬した古墳の多さを指摘することができる。もちろん古墳数自体が多いため、絶対数のみで単純な評価はできないが、一定数の古墳が確認されている伊豆半島海岸部に馬具の副葬がほとんどみられない点からすれば、愛鷹山麓に群集墳を営んだ集団と馬との深いかわりは認めてよいだろう。

馬具副葬古墳は、6世紀に入ると各地で増加していくが、日本列島全体でみると、いくつかの集中域が認められる。西日本では福岡県域に数多くの分布がみられ、東日本では群馬県域を最多として、長野県域や静岡県域にも多数の分布が認められる。そして、それらの馬具副葬古墳は常に一定の分布状態を示しているわけではなく、年代の推移とともに分布状態に変化が生じることが知られている。

図1・2は、東海・中部地方から関東地方にかけての馬具副葬古墳（5世紀後半～7世紀）の分布を年代別に示したものである。あくまでも現状の調査データにもとづく分布図であるが、先述の伊豆半島と同様に、現在の霞ヶ浦よりもはるかに広大な水域が広がっていた茨城県南部における馬具副葬古墳の少なさが目に付く。同地域における古墳調査例は決して少なくないことから、こうした事実は、副葬品として馬具の選択に現実世界での馬利用の多寡が関係していたことを示唆している。つまり、水上交通とのかかわりが深い伊豆半島や茨城県南部などでは馬の利用が低調であったと想定される一方で、馬具副葬古墳が集中する地域では陸上交通と馬とのかわりが検討の視野に入ってくるのである。

そこで、愛鷹山麓を含む静岡県東部に目を向けてみると、5世紀後半（須恵器編年TK208～TK47式期）

～6世紀前半（MT15～TK10式期）の馬具副葬古墳はきわめて乏しく、わずかな事例が北伊豆に知られているのみである。ところが6世紀後半（TK43～TK209式期）～7世紀（TK217～TK48式期）になると、一気にその数は増加に転じる。愛鷹山麓における群集墳の盛行と軌を一にする現象と言えるが、じつは県域全体でみると、5世紀後半～6世紀前半の馬具副葬古墳は西部（遠江）に数多く分布し、6世紀後半～7世紀になると、愛鷹山麓を含む東駿河や北伊豆での事例が増加するという顕著な変化が認められる。

そうした分布の変化は、静岡県域以外でも確認することができる。よく知られているように、長野県域では、5世紀後半から6世紀前半にかけての馬具副葬古墳が南信（伊豆谷）に集中するのに対し、6世紀後半を経て7世紀に入ると、東信（佐久平）に分布の中心が移動する。群馬県域では、6世紀後半～7世紀に西毛で馬具副葬古墳が増加し、7世紀には北部の山間部に馬具副葬古墳の分布が拡大する。同様の動きは神奈川県域でも認められ、そこでは6世紀前半までの散在的なあり方から転じ、6世紀後半～7世紀の馬具副葬古墳は西相模に偏在するようになる（東北・関東前方後円墳研究会編2017）。

こうした変化の背景をめぐっては、房総半島の馬具副葬古墳が古代の東海道ルート（東京湾東岸～印旛沼東岸）に沿うかたちで線状に分布している点などに着目し、古墳時代後期には馬を利用した交通路の整備が進んだとする見解が示されている（松尾2002）。そうした視点に立つと、ほぼ軌を一にして東駿河・北伊豆と西相模に馬具副葬古墳が増加する現象の背景としては、峠越えの陸上交通路とのかかわりを検討する余地があると思われる。また、同様の視点から、東信と西毛における馬具副葬古墳のあり方や、群馬県北部の山間部に馬具副葬古墳が増加する現象も理解できるかもしれない。さらに、その点で言えば、7世紀に入って北伊豆で馬具副葬古墳（横穴墓）が急増する現象も大いに注目しておく必要があろう。

以上のように、愛鷹山麓に馬具副葬古墳が多くみられる現象については、馬を利用した陸上交通の発達という側面から理解することが可能と思われる。

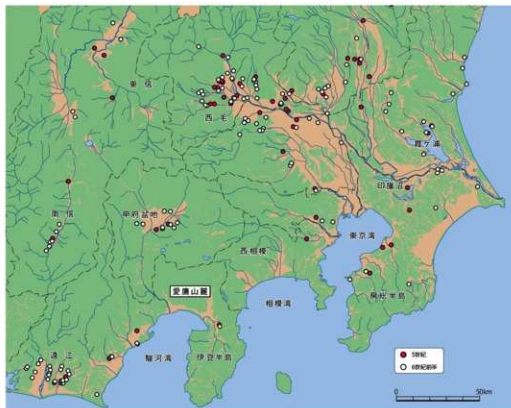


図1 馬具副葬古墳の分布：5世紀～6世紀前半

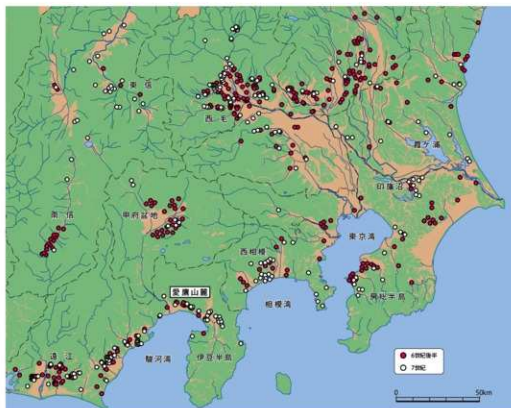


図2 馬具副葬古墳の分布：6世紀後半～7世紀

それが、人や情報の移動、物資の運搬のみならず、軍事にも資するものであったことは想像に難くない。

加えて、愛鷹山麓一帯では、複数組の馬具を副葬した古墳が存在することから、馬匹生産がおこなわれていた可能性が指摘されている（大谷 2016）。その一角には平安時代に岡野牧が設置されており、伊那谷と同様に深い谷によって隔てられた緩斜面が馬の生産と管理に好都合であったことは確かであろう。

東駿河から北伊豆にかけての地域は、関東平野への入り口となる水陸交通の要衝であるが、愛鷹山麓に多くの古墳が営まれた6世紀末から7世紀にかけては、陸上交通の発達に一層の進展があったとみられる。その具体的なルートは、当該期の集落が列状に分布する田子の浦砂丘上に求められ、それが古代東海道のプロトタイプになったと考えられる。愛鷹山麓における群集墳の展開は、馬の生産に適した地形的環境と東西を結ぶ陸上交通の要衝という地理的環境を抜きにして語ることはできない。

#### 4 特徴的な籠手の副葬

馬具副葬古墳のあり方からうかがえる東西方向の結びつきとは別に、愛鷹山麓の後期古墳を考える際に見逃せないのは、南北方向の結びつきである。

愛鷹山麓とその西側にあたる富士山麓の地域は、富士川ルートを通じて歴史的に甲府盆地との結びつきが強い。群集墳が盛行する古墳時代後期においても、東駿河で主流となる特徴的な無袖の横穴式石室が甲府盆地にも分布しているという事実がある。そうした関係を補強する材料として、ここでは特徴的な鉄製籠手の副葬について取り上げてみたい。

言うまでもなく鉄製籠手は下腕部を保護する甲冑の付属具であり、甲冑本体と時を同じくして古墳時代前期から古墳への副葬が認められる。ただし、全国で900箇所程度を数える甲冑副葬古墳の総数に比べてその数は少なく、これまでの確認例は、可能性のあるものを含めても40例程度にとどまっている。それらは形態的特徴によって、籠籠手、筒籠手、板籠手に大別されるが、ほとんどの事例は、細長い籠状の小札を横方向に縦じ付けて下腕部を一周させるかたちの籠籠手である。

愛鷹山麓では、古墳時代をつうじても数少ない鉄製籠手が、沼津市石川119号墳と富士市船津L-212号墳から出土している（図3-1・2）。いずれも6世紀末～7世紀前半の籠籠手で、手の甲を覆う部分（手甲）と本体を構成する長さ20～23cmほどの籠札が出土している。本来両腕で一対をなす籠手の片方が副葬されていた可能性があり、小札甲の破片が一切出土していないことも注目される。

じつは、愛鷹山麓の事例とほぼ同時期に副葬されたとみられる鉄製籠籠手の類例が甲府盆地内に3例知られている。甲府市考古博物館構内古墳、同稲荷塚古墳、笛吹市平林2号墳からそれぞれ出土したもので、前二者では複数の存在が確認できる（図3-3～5）。また、いずれの古墳でも小札甲の存在を示す明確な破片は出土していない。

愛鷹山麓と甲府盆地の籠手副葬古墳には、両腕副葬と片腕副葬の二者があるとみられ、籠札の頭部形状による構造上の差異も指摘できるが、5例とも小札甲の副葬を認めることができず、籠手のみを副葬した事例である可能性が高い。籠手のみを副葬した事例は、鉄製甲冑が出現して間もない古墳時代前期にもわずかに認められるが、前期には冑のみ、あるいは甲のみを副葬した事例がほとんどで、鉄製甲冑そのものの流通量が限られる中で象徴的な部分副葬がおこなわれた可能性が考えられる。一方、小札甲が数多く生産され、一定の流通量が確保されている中で、籠手の副葬は、そこに何らかの特殊事情が介在していたことを疑わざるを得ない。管見による限り、7世紀代の籠手副葬古墳が上記5例のみであることも、その特異性を際立たせている。

6世紀から7世紀にかけての鉄製甲冑は、前方後円墳などの有力者クラスの古墳や、群集墳の中でも中核となる古墳から出土することが多い。上記5例の中には、金銅装馬具（考古博物館構内、稲荷塚、平林2号）や金銅装大刀（石川119号）を出土した事例が認められることから、後者に列せられる可能性があるものの、いずれも墳丘規模は10～15m程度とけっして大きくはない。

これらの古墳は、無袖の横穴式石室を埋葬施設とする点でも共通しており、籠手のみを副葬するというわけて特殊な埋葬行為の背後には、共通の活動

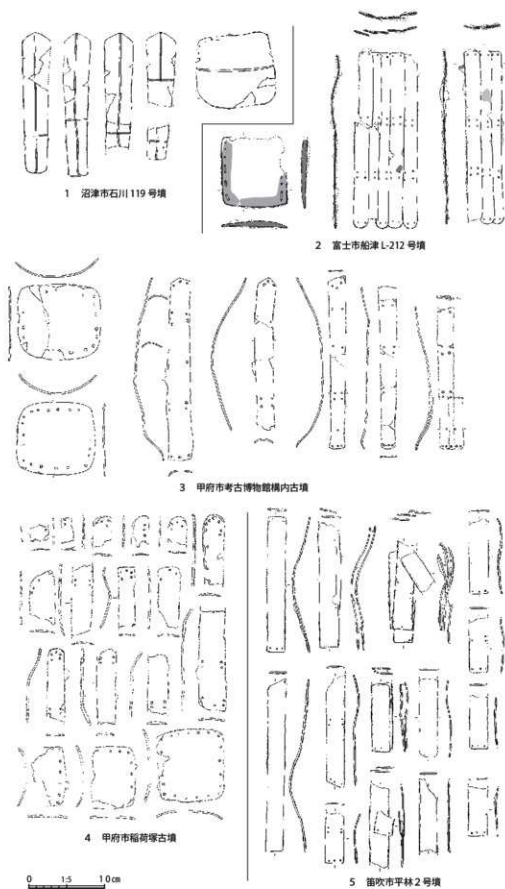


図3 剥離された鼓製籠手 (1/5)

基盤が存在していた可能性が高い。想像を逞くするならば、甲冑の一部（籠手）を死後に象徴的に副葬するという埋葬規範を、何らかの活動をともにする中で共有するに至ったケースが考えられよう。

これまで十分に検討されてこなかった特徴的な籠手の副葬は、無袖の横穴式石室などとともに、愛鷹山麓と甲府盆地の強い結びつきを示すものである。そこには、南北交流にも軸足を置いた愛鷹山麓における後期古墳造営集団の特質を垣間見ることができると。

## 5 結節点としての愛鷹山麓

同時期に営まれた集落のあり方から、愛鷹山麓に多数の古墳を築いた集団の居住域は田子の浦砂丘上に求められ、それらの集団は浮島沼を間に挟んで砂丘から山麓に及ぶ活動領域をもっていたと想定される。また、6世紀後半～7世紀における馬具副葬古墳のあり方は、馬を利用した陸上交通の発達と愛鷹山麓の地形的環境を生かした馬匹生産地としての性格をうかがわせる。加えて、特徴的な籠手の副葬からは、横穴式石室の共通性によって指摘されてきた愛鷹山麓と甲府盆地の強い結びつきをより個別的なレベルで確認することができる。

以上の検討結果をつづいて浮かび上がるのは、東西交通及び南北交通の結節点（ハブ）としての愛鷹山麓の姿である。とりわけ数多くの古墳が営まれた6世紀末～7世紀の動きに焦点を当てるならば、そこには馬を利用した陸上交通の発達という広域に及ぶムーブメントがあり、馬匹生産にも適したこの地域の重要性をいっそう高めたものと推測される。

ただし、忘れてならないのは、愛鷹山麓の眼下に広がる駿河湾の存在であり、依然としてこの地域では海上交通も重要な役割を果たしていたとみられる点である。奈良時代以降の遺跡のあり方から、富士川を越えてしばらく山麓側を東進する古代東海道は、浮島沼の西側で進路を南に向け、その後は田子の浦砂丘上を東進するルートが想定されている。それは、現在の田子の浦港付近に想定される「ミナト」を經由していくルートとみられ、古墳時代後期後半の主な集落が山麓沿い（後の根方街道沿い）ではなく、田子の浦砂丘上に並ぶ現象は、その原型が少なくと

も古墳時代後期後半に遡ることを示している。

こうした見方をふまえるならば、愛鷹山麓に数多くの古墳を営んだ集団は、陸上交通の発達に寄与するだけでなく、海上交通との接続にも関与した集団であったと考えられる。富士市中原4号墳の副葬品が示すような先進的な手工業生産の展開も、そうした交通条件に支えられたものなのであろう。

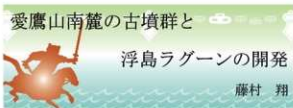
ここでは、三つの視点から愛鷹山麓に多数の後期古墳が営まれた背景を探ってみた。もとより全体像を把握するには不十分であり、今後さらに多角的かつ詳細な検討をつづけて、愛鷹山麓における後期古墳の特質が総合的に解明されることを期待したい。

## 参考文献

- 大谷 宏治 2016「中原4号墳出土土刀剣類・馬具の特徴と被葬者の性格」『伝法中原古墳群』富士市教育委員会  
加藤学園考古学研究所 1976『駿河石川古墳群第三次発掘調査報告書』  
木村 聡 2016「調査の成果」『中原遺跡発掘調査報告書第3分冊』沼津市教育委員会  
塩入 秀敏 1993「長野県の馬具副葬古墳について―科野古代馬匹文化研究のための一作業―」『上田女子短期大学紀要』16  
末木 健 2005「甲斐の馬と馬具」『牧と考古学―馬をめぐる諸問題―』山梨県考古学協会  
東海古墳文化研究会編 2006『東海の馬具と飾大刀』  
東北・関東前方後円墳研究会編 2017『馬具副葬古墳の諸問題』第22回東北・関東前方後円墳研究会大会  
富士市教育委員会 1999『船津古墳群』  
富士市教育委員会 2013『船津古墳群Ⅱ』  
藤村 翔 2017「浮島沼西岸・沖田遺跡の調査からみた湖沼利用の推移」『富士山かぐや姫ミュージアム館報』第32号  
松尾 昌彦 2002『古墳時代東国政治史論』雄山閣  
山梨県教育委員会 1987『岩清水道跡・考古博物館構内古墳』  
山梨県教育委員会 1988『稲荷塚古墳』  
山梨県教育委員会 2000『平林2号墳』

## 挿図出典

- 図1・2：塩入1993、末木2005、東海古墳文化研究会編2006、東北・関東前方後円墳研究会編2017のデータをもとに作成。  
図3：加藤学園考古学研究所1976、富士市教育委員会2013、山梨県教育委員会1987・1988・2000の各掲載図を一部改変して作成。



## 1 はじめに

愛鷹山の山体には、およそ10万年前の火山活動の停止以後、浸食により深い谷がいくつも刻まれ、その南方に広がっていた浮島沼（潟湖、ラグーン）に向かって張り出すように丘陵や河岸段丘が発達する。南麓の谷部や丘陵上には、主として6世紀末から7世紀にかけて、総数1,000基以上を数える多数の古墳群が並立して展開した。ここでは愛鷹山南麓の古墳群を、浮島沼ラグーンを生産基盤とした集団の奥津城として捉え直すことで、地域社会の変遷と大型群集墳の発生要因を検討したい。

## 2 須津古墳群の概要

**須津古墳群とは** 須津古墳群は、愛鷹山南西麓を流れる須津川の周囲に広がる209基の古墳から構成される。4世紀に浅間古墳（前方後方・91m）、5世紀末～6世紀前半に天神塚古墳（前方後円?・51m）、寺屋敷古墳（不明）、琴平古墳（円・30m）が築かれた後、6世紀末頃から中里K支群において横穴式石室を主体部とする群集墳の形成が始まる。

**千人塚古墳の登場** 須津古墳群のなかでは新興の墓域である神谷（須津）支群に7世紀中頃に築かれた千人塚古墳は、駿河東部地域では最大級となる全長11.4m以上の大型横穴式石室を有する。金銅装毛彫馬具のセットを保有する千人塚古墳の主たる被葬者は、飛鳥時代の駿河東部地域を代表する首長の一人であったことは疑いない。とりわけ、愛鷹山南麓を墓域とした集団のなかでは傑出した指導者であったとみられ、東海・関東の境界に設置された後述する王領の現地経営や水陸交通の管理、軍備を担った地域首長として評価できる。

## 3 愛鷹山南麓古墳群の被葬者集団

**横穴式石室からみた集団像** 横穴式石室規模による階層構造からは、各共同体構成員の集団は、中型上位～大型石室の指導者層を上位とするタテの構造

で統率されたことが明らかである。ただし、集団同士は没交渉的なものではなく、石室平面企画の共有状況からは、墓域の異なる集団でも、古墳構築の際にはヨコ同士の活発な繋がりがあったことが推定された。このことは、集落などの生活域において、墓域の異なる集団同士が多量に居住していた可能性も想起させる。

**装飾付大刀からみた集団像** 大刀形式によって表象される役割については、袋頭大刀を軍事活動、環頭大刀を外政・技術を掌握する職掌とみる見解が参考となるが、東海・関東諸地域の有力層においてはまず軍事が第一に重視されるという（内山2019）。

各古墳群単位でも各種の大刀形式がみられる点を重視すれば、一つの集団内に性格や職掌が異なる人格がモザイク状に参画していた状況を推察できるが、そのなかでもまず軍事的な役割が古墳群の指導者層に期待されていたことが窺える。

**農工・生産関連具からみた集団像** 愛鷹山南麓古墳群には、土木具（鎌）、木工具（鉋、錐状鉄製品）、や紡織（紡錘車）、布・皮革生産関連（針）やその関連遺物が副葬されるものがある。また鉄器生産や加工に関連する工具（推紙）や関連祭祀具（鉄鐸）も出土する。こうした農工・生産関連具の特徴は、富士山南麓において土木開発や手工業生産を主導した伝法古墳群でみられた遺物構成ともよく共通し、愛鷹山麓周辺の集団内にも、同種の技術者や彼らを支える指導者が存在したとみられる。また先述した鉄鐸のほか、金銅製鈴や銅劍、装飾付ガラス玉などの渡来系装身具類の副葬状況も顕著であり、集団内部に渡来系技術者が存在した可能性がある。

## 4 浮島ラグーンの開発と倭王権

**田子の浦砂丘上の集落群と中原遺跡** 中原遺跡は駿河湾沿岸部の田子の浦砂丘上、浮島沼に面して立地する集落跡であり、これまでに250棟以上の竪穴建物調査されており、7世紀代における駿河東部地域を代表する集落の一つといえる。7世紀代には豊富な手工業関連遺物（砥石、紡錘車、ガラス小玉鋳型）や、各種鉄製品（鉄鍬、刀装具、馬具）、玉類などが出土するほか、8世紀代に鍛冶具（鉄鉗）や鉄滓といった手工業関連遺物、銅製鉸具、銅が

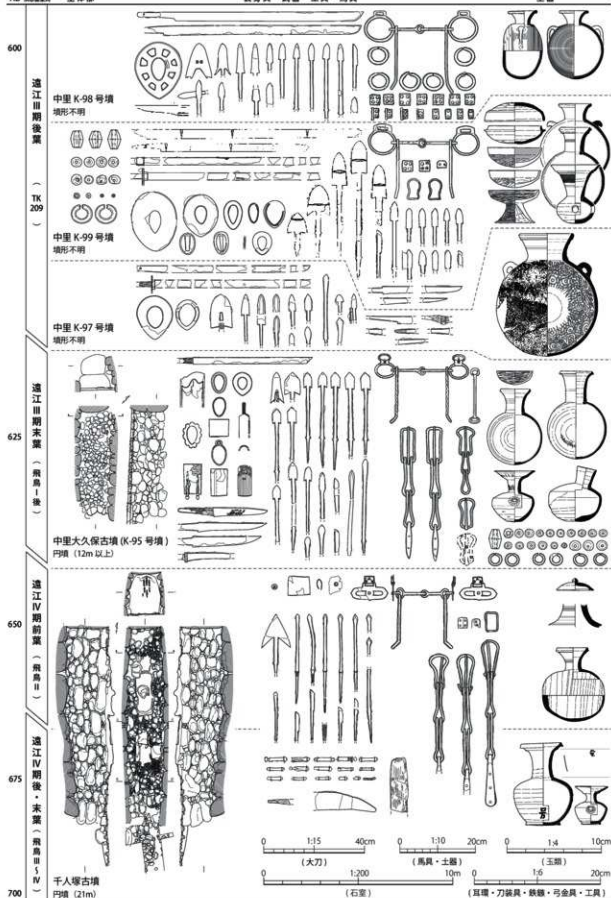


図1 須津古墳群の横穴式石室と主要遺物



出土する。さらに、7世紀代より鉄製釣針や大型土鍾などの漁具のほか、回遊性魚類の煮炊き用とされる土師器の大壺がまとまって出土した点も特筆される。中原遺跡の性格としては、全国的に極めて珍しいガラス小玉生産を筆頭に、鍛冶や製糸・布生産なども担う、複合的な手工業生産・水産加工拠点集落として評価できる。

**稚贄屯倉と砂丘上の集落群** 中原遺跡のような田子の浦砂丘上の集落を評価する上で見過ごすことのできないのが、稚贄屯倉の問題である。『日本書紀』に登場する稚贄屯倉は、現在の田子の浦港から沼川周辺に7世紀前半頃に設置された、上宮王家（聖徳太子の一族）への堅魚製品の貢納拠点とみる説が有力であり、漁具や水産加工具が集中する中原遺跡の特徴とよく合致する。仁藤教史氏は早くに、稚贄屯倉を「大王への大贄と対応し、有力な皇子（稚・ワカ）へ貢納物（贄・ニエ）を献上するために設定された屯倉」とし、「原初的なミツキ・ニエとして堅

魚製品が（上宮王家へと）貢納された段階」に機能したことを推定する（仁藤 1996）。

## 5 おわりに

**王領の設置と大型群集墳** 中原遺跡の高度な複合的な生産集落が、浮島沼ラグーン沿岸の「王領」化の産物の一つであったとすれば、同集落から浮島沼を挟んだ対岸に展開する愛鷹山南麓の古墳群の集団は、その王領を現地経営した共同体構成員やその指導者層とみなせる。愛鷹山古墳群と浮島沼ラグーンは、東海における大型群集墳の偏在性と「王領」の観点からも、重要なモデルになり得る地域である。

### 主要参考文献

- 内山敏行 2019「大刀・甲冑・馬具からみた関東と東海東部の首長墓」『駿機山古墳と東国首長』季刊考古学・別冊30、雄山閣  
 仁藤教史 1996「駿河・伊豆の堅魚貢産」静岡県地域史研究会編『東海道交通史の研究』清文堂出版

（富士市民部文化振興課）

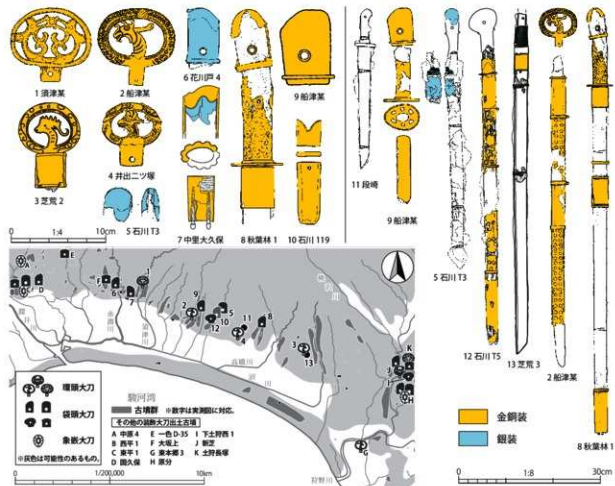


図2 愛鷹山南麓古墳群周辺の装飾付大刀

※ 遺物図は各報告書等より転載

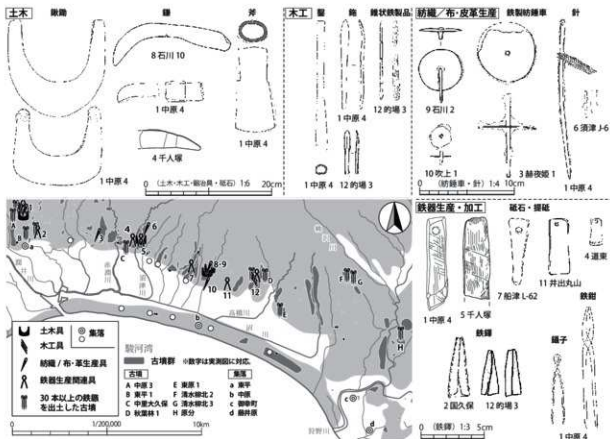


図3 愛鷹山南麓古墳群周辺の農工・生産関連具

※ 遺物図は各報告書等より転載

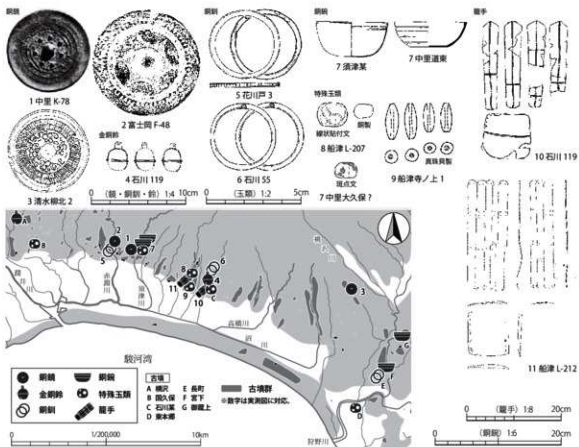


図4 愛鷹山南麓古墳群周辺の特殊な装身具・銅製品

※ 遺物図は各報告書等より転載



## 1 はじめに

我が国の長い歴史のなかで生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民の財産である文化財。古墳や古墳群も、文化財保護法（以下、保護法）に基づき保護が図られる文化財の一つである。

保護法では、文化財を「有形文化財」、「無形文化財」、「民俗文化財」、「記念物」、「文化的景観」、「伝統的建造物群」の六類型に区分し、さらに土地に埋蔵されている文化財である「埋蔵文化財」や文化財の保存に必要な技術等も保護の対象としている（図1）。古墳や古墳群は、「記念物」に当たるが、土地に埋もれた状態では埋蔵文化財として扱われる。なお、保護法における「保護」とは、「保存」と「活用」の両者を含んだ意である。本質的価値を守りながら、現代的な使用方法を付加していくことが文化財の保護とも換言できよう。

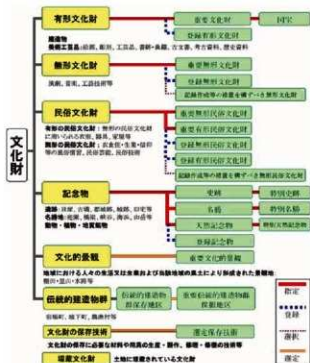


図1 文化財類型と国指定等の体系

文化財の中でも重要なものは、法令に基づき、国や地方自治体により「指定」されることで、重点的に保護が図られる。「記念物」である古墳や古墳群は指定されると「史跡」として扱われる。現在、静岡県内の古墳及び古墳群は、9件が国、18件が県の史跡として指定されている。令和元年に世界文化遺産に登録された「百舌鳥・古市古墳群—古代日本の墳墓群—」は、今、最も注目されている古墳であろう。世界遺産登録には、国内法で保護が図られていることが前提であり、百舌鳥・古市古墳群も史跡に指定されている。

## 2 文化財の総合的な保存と活用

地域で守り伝えられてきた文化財は、現在、過疎化・過疎化の進行に伴う滅失や散逸等の防止が喫緊の課題となっている。その一方で、地域資源として観光やまちづくりを活かす期待も高まっている。このような社会状況を背景に、地域における文化財の総合的かつ計画的な保存・活用の促進と、地方文化財保護行政の推進力の強化を図るために、平成30年6月に文化財保護法が改正された（平成31年4

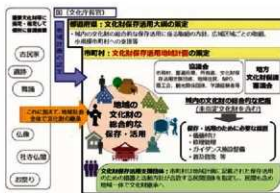


図2 法改正による新たなスキーム

**【基本理念】**  
美しいふじのくにの文化財を県民総かりで守り、だれもが楽しみながら、未来へつなぐ

**基本方針1**  
文化財の確実な保存

**基本方針2**  
文化財を支える多様な人材の育成

**基本方針3**  
文化財の効率的な活用

図3 静岡県文化財保存活用大綱



図4 文化財を活かしたまちづくり（イメージ）



図5 ストーリーによる文化財の活用（イメージ）

月1日施行)。

この法改正により、都道府県は、城内の文化財の保存と活用に関する総合的な方針である「文化財保存活用大綱」を策定できるようになり、市区町村は、総合的な計画として「文化財保存活用地域計画」（以下、地域計画）を作成し、国に認定を申請できることとなった。静岡県は、令和2年3月に「静岡県文化財保存活用大綱」を策定している（図3）。

一方、市区町村に作成が求められている「地域計画」は、令和3年8月現在、全国で47市町が国の認定を受けている。本県では、浜松市と磐田市が令和3年7月に国に認定され、沼津市・富士市を含む10市町が作成中である。

さて、「地域計画」には、「①市町の概要、②歴史文化の特長、③文化財の特長、④文化財の把握のための調査、⑤保存・活用に対する課題・方針・措置、⑥保存・活用のための推進体制」等の記載が必要である。作成に当たっては、住民意見を取り入れ、文化財を核とした地域振興、文化財を活かした“まちづくり”につなげる事が求められる。

これまでの文化財の保護では、主に所有者や保存・管理に携わる一部の関係者が担い手となり、個別に文化財の保護を推進してきたが、「地域計画」は「文化財の“総合的”な保存・活用」を推進する方針と具体的な措置を示すことが求められる。“総合的”とは、所有者や文化財行政担当だけではなく、住民や、観光、まちづくりの関係者を交えた文化財の保存・活用を図る意味と、城内の様々な文化財について、指定文化財のみならず、未指定文化財、更には文化財類型には該当しない“伝承”等の歴史文化の所産も含め、類型観の枠組みを越えて保存・活用の対象とするという、二つの側面を持つ。

文化財の“総合的”な取組を促進するため、「地域計画」では、城内の文化財の状況や歴史文化の特性を鑑み、様々な文化財が集中する範囲を「文化財保存活用区域」として設定することや、特定のテーマに関連する文化財を結び付け「関連文化財群」として設定することができる。その地域を特徴付ける歴史文化に関わる様々な文化財を、一定のまとまりを持つものとして扱うため、「地域計画」において“その市町らしさ、地域らしさ”が最も現れる部分となる。この文化財を核とした“らしさ”を地域の活性化やまちづくりに活かす具体的な措置を示したものが「地域計画」とも換言できる。

### 3 古墳・古墳群の保存と活用

古墳や古墳群も、“地域らしさ”を示す文化財として、保存・活用が期待される。見るものを圧倒する巨大な前方後円墳で、往時の姿に復元整備されているものは、地域のシンボルとなるモニュメントとしてなり得ることは、イメージし易い。もともと、県内の9千基を超える古墳のうち、前方後円墳・前方後方墳は120基程度で、現存する100mを超える大型のものとなると更に数は限られる。多くの古墳は、直径数m～十数mの規模である（以下、小型墳）。

愛鷹山南麓には、県下最大の前方後方墳である浅間古墳があるが、多くは古墳時代後期の6～7世紀に築かれた小型墳であり、古墳群を形成する。

浅間古墳は、その選地、形状、規模等から、この地域を代表する古墳であることは明らかであろう。しかしながら、小型墳も、この地域ならではの古墳

文化を雄弁に物語る歴史資料である。

古墳群の在り方は、全国一律ではなく、他とは異なった特徴を持つ古墳が集中する地域もある。愛鷹山南麓も、その一つである。紙幅の都合上、愛鷹山南麓の後期古墳が持つ特長のうち、ここでは埋葬施設に焦点を当ててみたい。

古墳時代後期、埋葬施設の主流の一つとなるのが、横穴式石室（以下、石室）である。石室は、遺骸や副葬品を納める“玄室”から“羨道”と呼ばれる通路が墳丘外へ続く。埋葬後は、羨道部分に石を積み上げ、封鎖される。石室には、地域の特徴を持つ形態がある。東海地方では、三河に淵源を持つ三河系石室が広く見られ、畿内の王墓等で採用される形態に連なる畿内系石室も有力墳等に採用される。ともに、玄室と羨道の境に“袖”と呼ばれる部位を持つ。しかし、愛鷹山南麓を含む駿河東部では、三河系石室や畿内系石室は見られず、無袖の石室で占められる。さらに、開口部に対し玄室床面が一段下るという、三河系や畿内系の石室には無い特徴も併せ持つ。さらに、玄室に注目すると、東駿河のなかでも愛鷹山南麓では組合式箱型石棺を持つものが多々見られる。一方、富士山南麓では石棺は少なく、“死床仕切”と呼ばれる間仕切石を持つものがみられる。

愛鷹山南麓は、全国的にみても、独自性の強い古墳が齊一的に展開する一方で、副葬品は多様性に富む。古墳時代後期、この地では、人々がそれぞれ様々な生業を営むものの、墓制の上では繋がりを持っていたことがうかがえる。愛鷹山南麓に展開した、独自の古墳文化は、住民はもとより、広く知られるべき、地域が誇る歴史資源といえよう。

#### 4 結語

多くの古墳は長い年限を経る中で、埋もれ、生い茂った木々に覆われる等、往時の姿をとどめていない。築造当時の姿への復元整備は、市民や来訪者にも、わかり易い活用の事例である。県内では、浜松市二本ヶ谷積石塚古墳群、藤枝市若王子古墳群、沼津市井田松江古墳群、三島市向山古墳群等で古墳群の特色を生かした整備が行われている。

ただし、復元整備には、調査に基づいた検証が必要であり、安易な復元は、来訪者が間違った歴史像を抱く怖れがある。また、経費的な負担も大きい。近年では、復元整備だけではなく、ARやVR等の先端技術を取り入れた古墳の活用も各地で見られる。

一方で、浅間古墳のように、神社があることで、現在まで伝えられてきたことも、この地域の歴史文化の側面である。茶畑と同居する古墳の姿も、この地域ならではの姿として守り、活かされるべき、歴史資源といえる。古墳をキーワードとしたストーリー展開により、他の文化財あるいは他の地域と結びつけることは、地域の歴史文化の理解を促進するとともに、古墳の他面的な保存・活用につながる事ができよう。

#### 出典

図2 文化庁HP掲載「文化財保護法改正の概要について」より抜粋

図3～5 静岡県文化財保存活用大綱

図6 鈴木一有 2017「東海地方における横穴式埋葬施設の多様性」『日本考古学協会2017岡崎大会資料集』

(静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課)

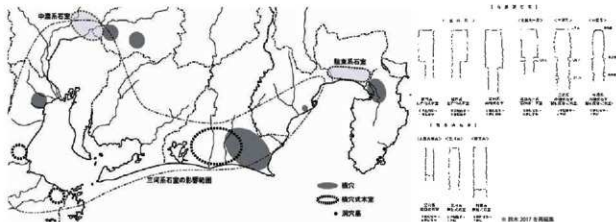
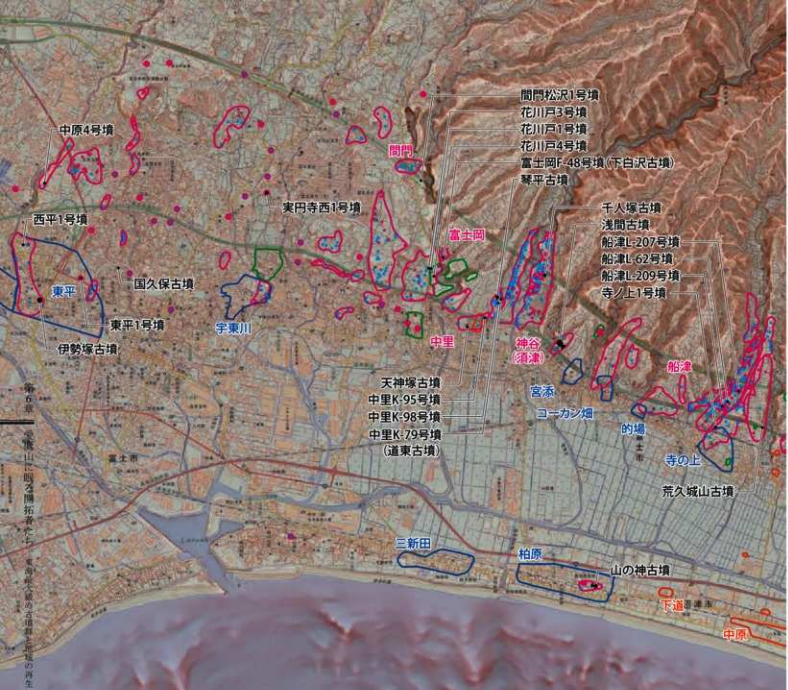


図6 東海地方における後期古墳の埋葬施設からみた地域差



船津古墳群/富士市

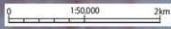


石川古墳群/沼津市



芝屋2・3号墳/沼津市

- 古墳群
- 主要な古墳
- 存在する古墳
- 消滅した古墳
- 前期～後期の集落
- 前・中期の集落
- 後期の集落



赤色立体地図：国土交通省富士砂防事務所が取得した航空レーザ測量データ（平成 31 年度以前）から作成した  
 1mDEM および日本水産協会「海底地形デジタルデータ M7000 シリーズ（M7001Ver2.3 関東南部）」を使用。  
 赤色立体地図は、この DEM をもとにアジア航測株式会社の赤色立体地図作成手法（特許 3670274、特許  
 4272146）を使用して、アジア航測株式会社・千葉達郎氏が作成した。以上のデータを、静岡県富士山世界遺産  
 センター（小林 淳 教授）より本図作成のために提供頂いた。  
 地図編：国土地理院発行 電子地形図 25000



令和3年度 沼津市・富士市連携 埋蔵文化財活用 特別展示・講演会

# 愛鷹山に眠る開拓者たち

東海最大級の古墳群と地産の再生

講演会資料集

発行年月日 令和4年3月10日

発行 沼津市教育委員会・富士市



写真図版

---

PLATE



## 1. 中吉原宿遺跡 第13地区1次調査



1. 1Tr完掘（東から）



2. 2Tr 古銭出土状況（南東から）



3. 2Tr完掘（北東から）



出土遺物

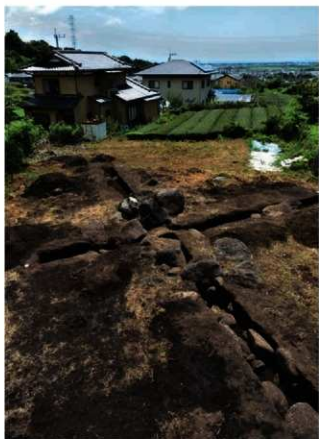
## 2. 神谷古墳群 第12地区1次調査



1. 調査前全景（南から）



2. 1Tr土層堆積状況（南西から）



3. トレンチ完掘全景（北から）

3. 東平遺跡 第89地区 2次調査



1. 3Tr 完掘 (南東から)



2. 3Tr 土層堆積状況 (東から)

6. 柏原遺跡 第17地区 1次調査



1. 重機掘削の様子 (南東から)



2. 1Tr 完掘 (南東から)

4. 滝川4古墳群 第4地区 1次調査



1. 1Tr 完掘 (南東から)



2. 1Tr 土層堆積状況 (南から)

7. 出口遺跡 IX地区 2次調査



1. 2Tr 完掘 (南東から)



2. 2Tr 土層堆積状況 (南から)

## 5. 川坂遺跡 第9地区 1次調査・2次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (南から)



3. 3Tr SX2001 (東から)



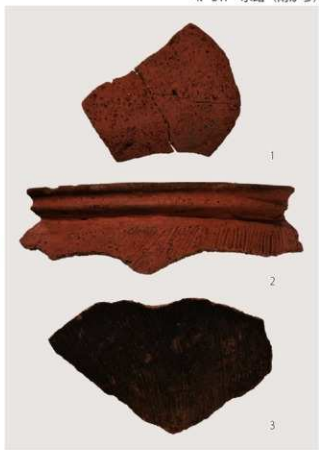
4. 3Tr 水路 (南から)



5. 4Tr 土器集中地点 (南東から)



6. 4Tr 土層堆積状況 (南から)



出土遺物

8. 東平遺跡 第139地区1次調査



1. 1Tr SB1001 検出 (南西から)



2. 1Tr SB1001 土層堆積状況 (南から)



3. 1Tr SB1001 遺物 (R0001) 出土状況 (南西から)



出土遺物

9. 宮添遺跡 N地区1次調査



1. 2Tr 土層堆積状況 (南西から)



2. 1Tr 土層堆積状況 (東から)



出土遺物

10. 宮添遺跡 O地区 1次調査



1. 1Tr 土層堆積状況 (南東から)



2. 2Tr 土層堆積状況 (南から)



出土遺物

11. 三田市廃寺跡 (東平遺跡第140地区) 1次調査



1. 1Tr 完掘 (北から)

12. 片倉3古墳群 第3地区 1次調査



1. SZ01 2Tr 完掘 (西から)



2. 1Tr 土層堆積状況 (西から)



2. SZ02 4Tr 完掘 (南から)

13. 天間沢遺跡 第66地区1次調査



1. 2Tr重機掘削の様子(北西から)



2. 1Tr土層堆積状況(南西から)

15. 東平遺跡 第141地区1次調査



1. 1Tr完掘(南西から)



2. 1Tr土層堆積状況(西から)

14. 伝法3古墳群 第2地区1次調査



1. 1Tr完掘(南西から)



2. 1Tr土層堆積状況(南から)

16. 舟久保遺跡 第74地区1次調査



1. 1Tr完掘(南東から)



2. 1Tr土層堆積状況(南から)



## 17. 宮添遺跡 P地区 1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (北西から)

## 18. 舟久保遺跡 第59地区 3次調査・4次調査



1. 3次調査 1Tr 遺構検出 (北から)



2. 3次調査 1Tr SX3001土層堆積状況 (東から)



3. 4次調査 1Tr 土層堆積状況 (南から)



4. 4次調査 2Tr SK4001・4002 検出状況 (西から)



5. 4次調査 3Tr 土層堆積状況 (南東から)



出土遺物

19. 北ヶ糸遺跡 第1地区 1次調査



1. 重機掘削の様子 (北東から)



2. 1Tr土層堆積状況 (北東から)

21. 祢宜ノ前遺跡 第7地区 1次調査



1. 1Tr完掘 (北西から)



2. 2Tr土層堆積状況 (南西から)

20. 中島遺跡 第16地区 1次調査



1. 1Tr完掘 (北から)



2. 1Tr土層堆積状況 (北東から)

22. 厚原遺跡 第10地区 1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (西から)

23. 東平遺跡 第142地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (南から)

25. 中桁・中ノ坪遺跡 第19地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (南から)

24. 善得寺城跡・東京院跡 第7地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北東から)



2. 1Tr土層堆積状況 (東から)

29. 天間沢遺跡 第67地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (西から)

30. 東平遺跡 第143地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北東から)



2. 1Tr土層堆積状況 (東から)

31. 東平遺跡 第144地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北東から)



2. 1Tr土層堆積状況 (北から)

32. 沖田遺跡 第164次調査地点1次調査



1. 2Tr完掘 (北西から)



出土遺物

34. 沖田遺跡 第165次調査地点1次調査



1. 重機掘削の様子 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (北から)

## 33. 中原遺跡 第31地区1次調査・2次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (南から)



3. 4Tr完掘 (南東から)



4. 8Tr完掘 (南西から)

## 36. 元吉原宿遺跡 第7地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北西から)



2. 1Tr III層遺物 (7) 出土状況 (南西から)



3. 1Tr III層遺物 (R0006 ~ 0011) 出土状況 (西から)



4. 1Tr IV層遺物 (3・4) 出土状況 (西から)



35. 天間沢遺跡 第68地区1次調査



1. 1Tr完掘 (西から)



2. 7Tr土層堆積状況 (北から)

37. 川坂遺跡 第11地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南東から)



2. 1Tr土層堆積状況 (南西から)

38. 沖田遺跡 第166次調査地点1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (南から)

39. 宇東川遺跡 第32地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南東から)



2. 1Tr土層堆積状況 (南から)

40. 沖田遺跡 第167次調査地点1次調査



1. 重機掘削の様子 (南西から)



2. 1Tr完掘 (北西から)

42. 東平遺跡 第145地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南東から)



2. 1Tr土層堆積状況 (南から)

41. 善得寺廃寺跡 第8地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北東から)



2. 2Tr完掘 (北東から)

43. 川坂遺跡 第12地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南東から)



2. 1Tr土層堆積状況 (南西から)



44. 天間沢遺跡 第69地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (西から)

46. 滝下遺跡 O地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北東から)



2. 1Tr土層堆積状況 (東から)

45. 東平遺跡 第146地区1次調査



1. 1Tr完掘 (北西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (西から)

47. 東平遺跡 第147地区1次調査



1. 1Tr完掘 (南西から)



2. 1Tr土層堆積状況 (南から)

PL.16

見森遺跡 第3地区



1. 本調査区完掘全景（北西から）



2. Pit2001～2003 完掘（北西から）

児森遺跡 第3地区



1. SX2001 完掘 (北西から)



2. SX2001 土層堆積状況 (北東から)

PL.18

見森遺跡 第3地区



1. 確認調査 1Tr 完掘 (北東から)



2. 確認調査 1Tr Pit1001 検出 (南東から)



3. 確認調査 1Tr Pit1001 半截 (西から)



4. 確認調査 1Tr Pit1001 遺物出土状況 (南から)



5. 確認調査 1Tr 土層堆積状況 (北から)



出土遺物

## 大道上遺跡 第1地区



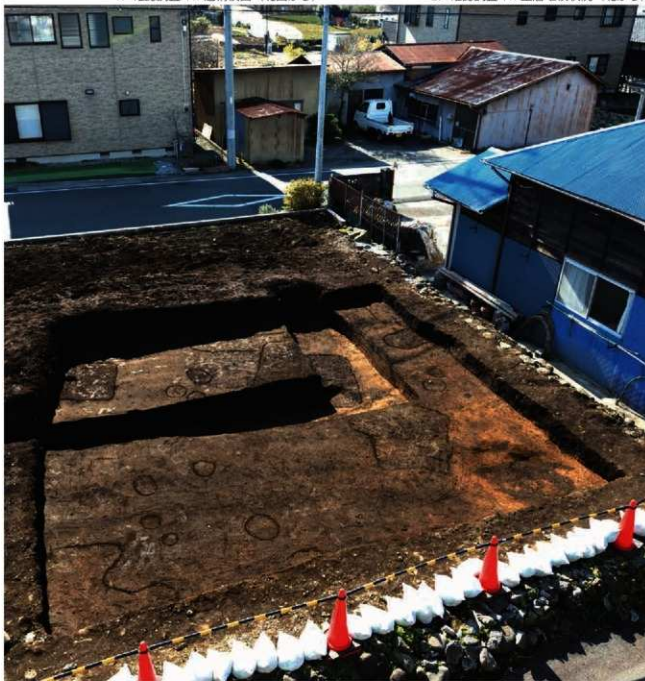
1. 本調査区 遺構完掘全景（北東から）



1. 確認調査 1Tr 遺構検出 (北西から)



2. 確認調査 1Tr 土層堆積状況 (北から)



3. 本調査区 遺構検出全景 (北東から)

## 大道上遺跡 第1地区



1. SK2001～2002、SD2001、Pit2008～2009 検出状況（北西から）



2. SK2001 鏡土検出（北西から）



1. SK2001、SD2001 完掘 (西から)



2. SD2001 土層堆積状況 (西から)



3. SD2001 完掘 (西から)



## 大道上遺跡 第1地区



1. SK2002 土層堆積状況 (北西から)



2. SK2002 完掘 (北西から)



1. Pit2001～2003 完掘（東から）



2. Pit2004～2006 完掘（北西から）



3. 調査指導の様子



4. 土壌サンプル採取の様子



5. 本調査区 休場層上面全景（北東から）

## 大道上遺跡 第1地区



1. 本調査区北壁 土層堆積状況（南から）



2. 本調査区東壁 土層堆積状況（西から）



3. 本調査区南壁 土層堆積状況（北から）



4. 本調査区西壁 土層堆積状況（東から）



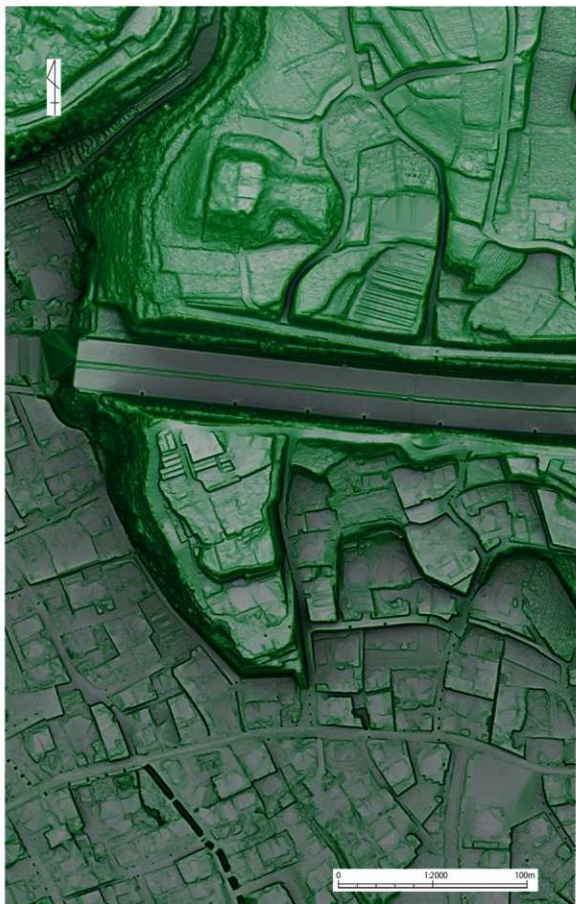
## 浅間古墳



1. 浅間古墳を南東から望む（2021年11月15日撮影）

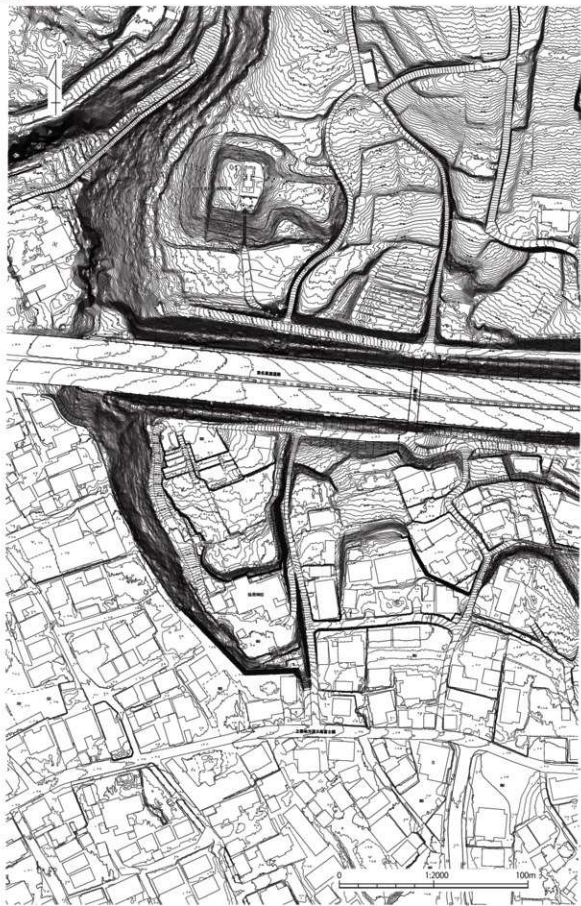


2. 浅間古墳の北上空から浮島ヶ原低地、駿河湾、伊豆半島を望む（2020年6月10日撮影）

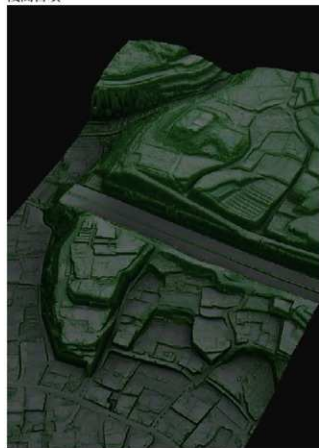


1. 陰影図 (2000分の1)

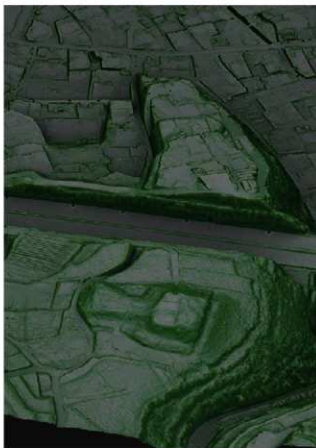
## 浅間古墳



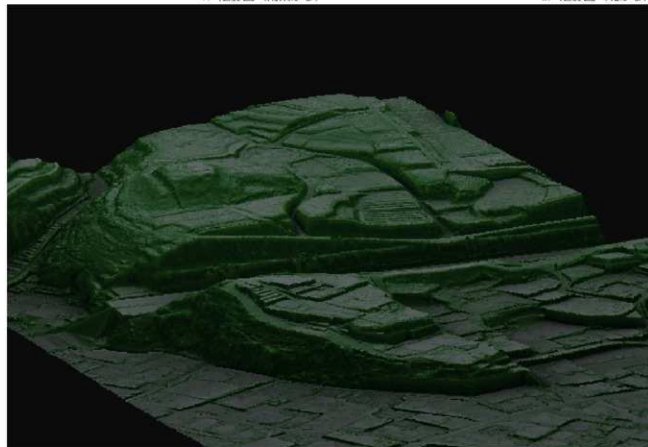
1. 数値地形図 (2000分の1)



1. 陰影図（南東から）



2. 陰影図（北から）



3. 陰影図（南西から）



# 報告書抄録

ふりがな	ふじしないせきはくつちょうさほうこくしよ
書名	富士市内遺跡発掘調査報告書
副書名	令和3年度
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第76集
編著者名	佐藤 祐樹・若林 美希（編著） 菊池 吉修・木村 聡・滝沢 誠・藤村 翔（著）
編集機関	富士市教育委員会（担当課：文化財課）
所在地	〒417-0061 静岡県富士市伝法66番地の2 In 0545-30-7850
市町村コード	22210
発行年月日	令和5年3月31日

調査番号	西取番号	所在地名		所在地		種別	遺構
		調査区画	調査区画ID	名称	東経		
R03-103	第2章	穴倉遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間	市道跡番号	特記事項
		第3地区2次調査			中里 1379 番 1	35° 09' 39.87"	138° 44' 04.62"
R03-104	第3章	大塚上遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		第1地区2次調査			延 303 番地の3	35° 09' 17.10"	138° 45' 36.28"
R03-01	第1章	中ノ原 宮遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		第13地区1次調査			20210112～20210222	35° 09' 20.34"	138° 41' 16.09"
R03-03	第2章	神宮古墳群	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		第12地区1次調査			20200401～20200407	35° 10' 16.39"	138° 44' 35.85"
R03-04	第2章	東 平遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		第89地区2次調査			20210726～20210730	35° 10' 25.97"	138° 40' 07.43"
R03-05	第1章	長尾遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		第4地区1次調査			20210421	35° 10' 26.37"	138° 42' 40.94"
R03-06	第2章	長尾遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		【第9地区1次調査】			20210428～20210430	35° 12' 21.34"	138° 38' 16.25"
R03-07	第1章	新 原遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		第17地区1次調査			20210511	35° 08' 07.88"	138° 44' 53.08"
R03-09	第2章	出口遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		D地区2次調査			20210514	35° 10' 32.29"	138° 40' 35.71"
R03-10	第1章	東 平遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		第139地区1次調査			20210520	35° 10' 19.18"	138° 40' 11.02"
R03-11	第1章	宮崎遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		N地区1次調査			20210615	35° 09' 34.76"	138° 44' 50.94"
R03-12	第2章	宮崎遺跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		O地区1次調査			20210607	35° 09' 41.69"	138° 44' 56.73"
R03-13	第2章	三日月市跡	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		東平遺跡第140地区1次調査			20210610～20210611	35° 10' 08.60"	138° 40' 33.32"
R03-14	第1章	丹倉3古墳群	調査区画	調査区画ID	調査期間		
		【第3地区1次調査】			20210709	35° 11' 41.97"	138° 41' 34.48"

調査番号	西収番号	所在地 地区名 調査面積 調査原因	所在地 北緯 調査期間	東経	種別 市道標番号	遺構 主な時代 遺物 特記事項
R03-15	第1章 第66地区1次調査 13	天間沢遺跡 8,000㎡ 確認調査	天間地先 35° 12' 12.14"	138° 38' 31.81"	集落跡	なし なし
	第1章 第2地区1次調査 14	石込1古墳群 6,258㎡ 確認調査	石込保三丁目2285-1注小 35° 10' 14.03"	138° 40' 45.03"	古墳	なし なし
R03-17	第1章 第2地区 15	石込遺跡 7,380㎡ 確認調査	石込 2527.6 35° 10' 23.75"	138° 40' 16.52"	集落跡	なし なし
	第1章 第2地区 16	石込保遺跡 4,678㎡ 確認調査	今地六丁目1604番1注小 35° 10' 03.10"	138° 41' 23.68"	集落跡	なし なし
R03-19	第1章 第2地区 17	石込遺跡 5,718㎡ 確認調査	堤川 740-1注 35° 09' 41.41"	138° 44' 50.48"	集落跡	なし なし
	第1章 第2地区 18	石込保遺跡 26,645㎡ 確認調査	今地 1958-1注小 35° 10' 11.66"	138° 41' 31.47"	古墳・奈良・平安	不明遺構・ピット 土器（古墳時代・奈良時代・平安時代）
R03-21	第1章 第3地区 19	石込保遺跡 3,814㎡ 確認調査	石込野 707-12、-15 35° 11' 31.15"	138° 35' 07.44"	集落跡	なし なし
	第1章 第2地区 20	石込保遺跡 2,122㎡ 確認調査	堤川 890-2 35° 10' 26.97"	138° 42' 12.37"	集落跡	なし 土器（縄文時代）
R03-23	第1章 第7地区1次調査 21	石込ノ前遺跡 10,755㎡ 確認調査	比治 1563-1注小 35° 10' 01.33"	138° 43' 27.63"	集落跡	なし なし
	第1章 第2地区 18	石込保遺跡 19,627㎡ 確認調査	今地 1958-1注小 35° 10' 11.66"	138° 41' 31.47"	集落跡	土坑 土器（古墳時代・奈良時代・平安時代）
R03-25	第1章 第2地区 22	石込保遺跡 4,402㎡ 確認調査	菅原 786-1注小 35° 11' 20.64"	138° 39' 22.96"	集落跡	なし なし
	第1章 第2地区 23	石込保遺跡 14,720㎡ 確認調査	石込 2619-46 35° 10' 25.34"	138° 40' 08.30"	集落跡	なし なし
R03-28	第1章 第7地区1次調査 24	石込保遺跡・東原段遺跡 2,557㎡ 確認調査	今地七丁目1315-3 35° 09' 53.79"	138° 41' 24.51"	集落跡・城跡跡・土倉跡	なし なし
	第1章 第2地区 25	石込保遺跡 7,894㎡ 確認調査	石込 1208 35° 10' 31.44"	138° 39' 30.81"	集落跡	なし 土器（奈良時代・平安時代）
R03-30	第1章 第2地区 26	石込保遺跡 23,491㎡ 確認調査	菅原 657-1 35° 11' 21.76"	138° 42' 44.41"	集落跡	なし なし
	第1章 第2地区 27	石込保遺跡 2,946㎡ 確認調査	天間 846-16 35° 12' 29.79"	138° 38' 12.35"	集落跡	なし なし
R03-32	第1章 第68地区1次調査 28	天間沢遺跡 3,144㎡ 確認調査	天間 1812.8 35° 12' 34.74"	138° 38' 51.82"	集落跡	なし なし
	第1章 第67地区1次調査 29	天間沢遺跡 6,314㎡ 確認調査	天間 1208-1 35° 12' 34.52"	138° 38' 45.45"	集落跡	なし なし
R03-34	第1章 第2地区 30	石込保遺跡 3,974㎡ 確認調査	石込 3001 35° 10' 04.50"	138° 40' 18.10"	集落跡	土器 土器（奈良時代・平安時代）
	第1章 第2地区 31	石込保遺跡 10,326㎡ 確認調査	石込 2556-4 35° 10' 25.05"	138° 40' 14.55"	集落跡	土坑 土器（奈良時代・平安時代）
R03-36	第1章 第164次調査地点1次調査 32	石込保遺跡 18,687㎡ 確認調査	石込 958-1 35° 09' 49.67"	138° 42' 57.64"	集落跡	なし 土器（古墳時代・奈良時代・平安時代）
	第1章 第2地区 33	石込保遺跡 65,178㎡ 確認調査	石込 462-1注小 35° 10' 57.62"	138° 40' 18.92"	集落跡	なし なし

調査番号	採取番号	所在地名		所在地	種別	遺構
		地区名	地区名			
		調査面積	調査理由	調査時期	市道線番号	特記事項
R03-38	第1章	丹波道線 第165次調査地点1次調査		今里 624-2		その他の遺跡・その他の遺
	第2章	34 15,939 ㎡	確認調査	35° 09' 17.24" 138° 42' 12.08"		なし
R03-39	第1章	大塚古墳群 第68地区1次調査		大塚 1124-1		集落跡
	第2章	35 25,875 ㎡	確認調査	35° 12' 20.15" 138° 38' 36.02"		なし
R03-40	第1章	大塚古墳群 第7地区1次調査		今里 7-1 1.18		近世
	第2章	36 11,721 ㎡	確認調査	35° 08' 31.20" 138° 42' 39.58"		陶磁器 (近世) 金属製品 (近世)
R03-41	第1章	丹波道線 第31地区2次調査		伝説 902-1 伝説		新布地
	第2章	33 112,756 ㎡	確認調査	35° 10' 59.62" 138° 40' 18.92"		なし
R03-42	第1章	丹波道線 第9地区2次調査		大塚 812-1 伝説		新布地
	第2章	5 75,965 ㎡	確認調査	35° 12' 21.34" 138° 38' 16.25"		古墳・奈良・平安 陶磁器 (中世)
R03-43	第1章	大塚古墳群 第1地区1次調査		伝説 303 香地の3		新布地
	第2章	4 12,876 ㎡	確認調査	35° 09' 17.10" 138° 45' 36.28"		古墳 土器 (縄文時代・古墳時代)
R03-44	第1章	丹波道線 第11地区1次調査		大塚 808-6		新布地
	第2章	37 18,227 ㎡	確認調査	35° 12' 31.90" 138° 38' 11.09"		なし
R03-45	第1章	丹波道線 第166次調査地点1次調査		今里五丁目 1087-1		その他の遺跡・その他の遺
	第2章	38 3,300 ㎡	確認調査	35° 10' 08.93" 138° 41' 45.47"		なし
R03-46	第1章	大塚古墳群 第3地区1次調査		中里 1379 巻1		集落跡
	第2章	4 17,067 ㎡	確認調査	35° 09' 39.87" 138° 44' 04.62"		古墳 土器 (古墳時代)
R03-47	第1章	小塚古墳群 第32地区1次調査		原田 623-13		集落跡
	第2章	39 9,911 ㎡	確認調査	35° 10' 13.98" 138° 42' 01.39"		土器 土器 (奈良時代)
R03-48	第1章	丹波道線 第167次調査地点1次調査		伝説 880-2		その他の遺跡・その他の遺
	第2章	40 3,013 ㎡	確認調査	35° 09' 54.94" 138° 42' 51.69"		なし
R03-49	第1章	丹波道線 第8地区1次調査		今里五丁目 1064-1		古墳跡
	第2章	41 14,584 ㎡	確認調査	35° 10' 08.66" 138° 41' 48.68"		なし
R03-50	第1章	東平道線 第145地区1次調査		伝説 3055-6		集落跡
	第2章	42 9,916 ㎡	確認調査	35° 10' 07.19" 138° 40' 21.98"		なし
R03-51	第1章	丹波道線 第12地区1次調査		大塚 910-4		新布地
	第2章	43 37,313 ㎡	確認調査	35° 12' 35.59" 138° 38' 20.43"		なし
R03-52	第1章	大塚古墳群 第69地区1次調査		大塚 1072-7 伝説		集落跡
	第2章	44 8,719 ㎡	確認調査	35° 12' 27.95" 138° 38' 31.49"		なし
R03-53	第1章	東平道線 第146地区1次調査		伝説 3080-1		集落跡
	第2章	45 21,341 ㎡	確認調査	35° 10' 08.86" 138° 40' 25.33"		古墳・平安 土器 (平安時代)
R03-54	第1章	丹波道線 O地区1次調査		伝説 1942-2 伝説		集落跡
	第2章	46 9,558 ㎡	確認調査	35° 10' 29.83" 138° 40' 45.90"		なし
R03-55	第1章	東平道線 第147地区1次調査		伝説 2860-5 巻		集落跡
	第2章	47 6,752 ㎡	確認調査	35° 10' 09.49" 138° 40' 25.34"		なし

富士市埋蔵文化財調査報告 第76集

## 富士市内遺跡発掘調査報告書 —令和3年度—

発行年月日 令和5年3月31日

編集・発行 富士市教育委員会  
〒417-0061 静岡県富士市伝法66番地の2  
TEL 0545-30-7850 FAX 0545-30-6210  
E-mail: ky-bunkazai@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 ネクストデザイン株式会社  
〒417-0061 静岡県富士市伝法2847番地の3

(富士市行政資料登録番号 R4-49)

